

官報

號外

大正十一年二月二十二日

水曜日

印刷局

第四十五回衆議院議事速記録第十五號

大正十一年二月二十一日(火曜日)午後一時十七分開議

議事日程 第十四號 大正十一年二月二十一日

午後一時開議

質問

一 農村政策ニ關スル質問(土井權大君提出)

二 帝都ノ公安維持ニ關スル質問(横山勝太郎君提出)

三 網紀類廢ノ責任ニ關スル質問(清瀬一郎君提出)

四 普通選舉ニ關スル質問(松本君平君提出)

五 礦業被害ニ關スル質問(古賀三千人君提出)

六 青年指導ノ方針ニ關スル質問(田中萬逸君提出)

第一 信託法案(政府提出) 第一讀會

第二 信託業法案(政府提出) 第一讀會

第三 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 不動產登記法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第五 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 大正九年度豫備金支出ノ件

第八 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第九 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十一 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十二 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十三 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十四 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十五 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十六 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十七 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十八 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十九 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第二十 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第二十一 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第二十二 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第二十三 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第二十四 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第二十五 大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

第十 工場法中改正法律案(板野友造君提出) 第一讀會

第十一 勞働組合法案(星島二郎君提出) 第一讀會

第十二 社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案(鴉澤總明君外二名提出) 第一讀會

第十三 出版取締法案(星島二郎君提出) 第一讀會

第十四 職業紹介法中改正法律案(安達謙藏君外十名提出) 第一讀會

第十五 失業保險法案(安達謙藏君外十名提出) 第一讀會

第十六 疾病保險法案(安達謙藏君外十名提出) 第一讀會

第十七 疾病保險特別會計法案(安達謙藏君外十名提出) 第一讀會

第十八 工場法中改正法律案(安達謙藏君外六名提出) 第一讀會

第十九 礦業法中改正法律案(安達謙藏君外六名提出) 第一讀會

第二十 電信線電話線建設條例第六條ニ依ル手當金増額ニ關スル建議案(木下甚三郎君外一名提出) 第一讀會

第二十一 免囚保護施設及司獄官待遇改善ニ關スル建議案(太田信治郎君提出) 第一讀會

第二十二 樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(高草美代藏君提出) 第一讀會

第二十三 樞原神宮第二回宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(八木逸郎君外五名提出) 第一讀會

第二十四 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(前田米藏君外九名提出) 第一讀會

第二十五 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外五名提出) 第一讀會

第二十六 三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案(成田榮信君外五名提出) 第一讀會

○議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

信託法案

擔保附社債信託法中改正法律案

不動產登記法中改正法律案

非訟事件手續法中改正法律案

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

軍機保護法中改正法律案

提出者 安藤 正純君 土井 權大君

提出者 横山 金太郎君

印紙稅法中改正法律案

提出者 山邊 常重君

關稅定率法中改正法律案

提出者 鈴木 錠藏君

原蠶種ノ種類制限ニ關スル建議案

提出者 武藤 金吉君 八田 宗吉君

提出者 萩 二亮君 津野田是重君

提出者 市村 貞藏君 日野 辰次君

提出者 今泉嘉一郎君 飯島 信明君

提出者 八木 逸郎君 渡邊 修君

提出者 大森 次郎君 齋藤 壽雄君

提出者 岩崎宗茂助君 山田 永俊君

提出者 三浦得一郎君 宜保 成晴君

提出者 中馬 興九君

香川 保忠君 松下 禎二君
近藤 達兒君 前川 虎造君
國立體育研究所設立ニ關スル建議案
提出者 八木 逸郎君 齋藤 壽雄君
大林 森次郎君 山田 永俊君
岩崎 宗茂郎君 宜保 成晴君
三浦 得一郎君 中馬 興九君
香川 保忠君 前川 虎造君
近藤 達兒君 前川 虎造君

療兵優遇及軍人遺族扶助料改正ニ關スル建議案
提出者 津野 田是重君 菅原 傳君
熊谷 直太君 鈴木 義隆君
肥料專賣ニ關スル建議案
提出者 高田 耘平君
僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權付與ニ關スル建議案
提出者 安藤 正純君

公娼制度廢止ニ關スル建議案
提出者 横山 勝太郎君
青森築港國營ニ關スル建議案
提出者 北山 一郎君
東 武君 中西 六三郎君
黒住 成章君 木下 成太郎君
榊田 清兵衛君 栗林 五朔君
松本 孫右衛門君 菅原 傳君
鈴木 巖君 梅田 武智雄君
野村 治三郎君 阿部 潔君
宇野 勇作君 原田 藤次郎君
寛仁、文永及弘安ノ役ニ於ケル殉難志士奉祀ニ關スル建議案
提出者 中村 清造君 古林 與六君
青柳 郁二郎君 三好 徳松君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
提出者 田中 善立君
鹿町炭礦買収ニ關スル質問主意書
提出者 田中 善立君
(以上二月二十一日提出)
一今二十一日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
衆議院議員清瀬一郎君提出綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員松本君平君提出普通選舉ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員田中萬逸君提出青年指導ノ方針ニ關スル質問ニ對スル答辯書
綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年一月二十八日

提出者 清瀬 一郎 賛成者 鈴木梅四郎 外二十九人
綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問主意書
現内閣(原首相時代ヲ通シテ)成立以來綱紀類廢其ノ極ニ達セリ其ノ責任ノ所在ニ付政治道德上明確ナル説明ヲ求メトス
右及質問候也
大正十一年二月二十一日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿
衆議院議員清瀬一郎君提出綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕
衆議院議員清瀬一郎君提出綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問ニ對スル答辯書
政府ハ機宜ノ方途ニ依リ時弊ノ矯正ニ當リ國民ノ自省ト相待テ常ニ綱紀ノ肅正ニ留意シ居レリ
右及答辯候也
大正十一年二月二十一日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清

普通選舉ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年一月二十八日
提出者 松本 君平 賛成者 野溝傳一郎 外三十五人
普通選舉ニ關スル質問主意書
普通選舉要求ノ聲ハ今や天下ニ瀰漫ス在野各政派ハ期セスシテ其ノ意見ヲ一ニシ全國ノ言論機關ハ勿論智識階級ノ勞働者、僧侶ノ諸階級ヲ通シ普通選舉ノ要求ハ益熾烈ナリ此ノ時ニ於テ高橋首相新ニ宰相ノ地位ニ立ツ首相ノ普通選舉ニ對スル意見並其ノ態度ハ國民ノ最知ラムト欲スル所ナリ敢テ高橋首相ノ普通選舉ニ對スル所見ヲ質ス
右及質問候也
大正十一年二月二十一日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿
衆議院議員松本君平君提出普通選舉ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕
衆議院議員松本君平君提出普通選舉ニ關スル質問ニ對スル答辯書
政府ハ時世ノ進運ニ伴ヒ貴族院議員ヲ始メ地方議會ノ議員ノ選舉資格ヲ擴張シ其ノ選舉ノ有權者ヲ增加スルノ緊要ナルヲ認ム茲ニ大正八年衆議院議員選舉法改正案ヲ昨十年市制町村制中改正案ヲ提出シ帝國議會ノ協賛ヲ得タルハ此ノ趣旨ニ出テタルニ外ナラス將來モ亦此ノ方針ニ則リ漸ヲ追ヒテ選舉權ノ擴張ヲ圖リ以テ憲政ノ秩序アル發達ヲ期ス
右及答辯候也
大正十一年二月二十一日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清

青年指導ノ方針ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年二月一日
提出者 田中 萬逸 賛成者 井上 剛一 外四百四人
青年指導ノ方針ニ關スル質問主意書
青年指導ノ方針ハ健全ナル國民ト善良ナル公民タルトノ素質ヲ得セシムルニ在リ果シテ然ラハ現内閣ノ下ニ行ハレツアル所謂自主的指導ハ其ノ名ノ美ハシキニ似ス其ノ實ノ之ニ伴ハサル憾アリ政府ハ眞ニ帝國將來ノ國運ヲ其ノ雙肩ニ擔ハムトスル剛健眞摯ナル青年ヲ養成セムト欲セハ青年指導ノ方針ニ一大變革ヲ加ヘサルヘカラス政府ノ所見如何
右及質問候也
大正十一年二月二十一日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿
衆議院議員田中萬逸君提出青年指導ノ方針ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕
衆議院議員田中萬逸君提出青年指導ニ關スル質問ニ對スル答辯書
青年ヲシテ自主自立以テ其ノ力ヲ展ヘシムルハ將來健全ナル國民善良ナル公民トシテ國運ノ負荷ニ堪フルノ素地ヲ養ハシムル所以ニシテ之カ指導ノ方法ノ常ニ時代ニ順應シテ適切ナルヘキハ又言フ俟タル所ナリ從テ特ニ青年指導ノ方針ニハ何等變更ヲ加フルノ必要ナシト認ム
右及答辯候也
大正十一年二月二十一日
内務大臣 床次竹二郎
文部大臣 中橋徳五郎

一去十八日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ
銃砲火藥類取締法中改正法律案
大正十年勅令第三百七十五號(承諾ヲ求ムル件)
一去十八日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ如ク變更セリ
三四五 清水 留三郎君 三五六 樋口 秀雄君
三三七 鈴木 富士彌君 三五八 紫安 新九郎君

一今二十一日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
衆議院議員清瀬一郎君提出綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員松本君平君提出普通選舉ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員田中萬逸君提出青年指導ノ方針ニ關スル質問ニ對スル答辯書
綱紀類廢ノ責任ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年一月二十八日

三五九 佐々木 千秀君 三六〇 井上 剛一君
四二四 中野 寅吉君 四三〇 山邊 常重君
四三七 作間 耕逸君 四五一 加藤 定吉君
一去年十八日內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ
通牒ヲ受領セリ
山林技師 松波 秀實

農商務省所管事務政府委員被仰付
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載
ス〕
一去年十八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救
恤ニ關スル法律案
島田 俊雄君 廣瀬 鎮之君 梅田 潔君
矢野 丑乙君 竹澤 太一君 山口 嘉藏君
山道 襄一君 川崎 克君 高草美代藏君
和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補
償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
中山 佐市君 中島 鵬六君 志賀和多利君
加藤紋右衛門君 山口 熊野君 倉石 知藏君
菊池 良一君 栗山 博君
道路法中改正法律案
石川 玄三君 鈴木 巖君 熊谷 直太君
西村 正則君 池田猪三三君 長田 桃藏君
平田民之助君 富安保太郎君 深見寅之助君
秋本 喜七君 岩切 重雄君 下田 勤次君
神谷 彌平君 淺野 順平君 佐久間啓莊君
中川幸太郎君 板野 友造君 木村權右衛門君
未成年者飲酒禁止法案
海江田準一郎君 根本 正君 成田直一郎君
春日 俊文君 妹尾 順平君 大石 大君
清水留三郎君 香川 保忠君 松下 禎二君
身元保證ニ關スル法律案外三件
高見 之通君 大道寺慶男君 高柳淳之助君
大島實太郎君 久木田 文治君 太田信治郎君
井上 剛一君 森山儀文治君 上島益三郎君
軍備縮少ニ基因シテ生スヘキ失業勞働者ノ善後ニ關ス
ル建議案
高山 長幸君 松岡 俊三君 廣瀬 爲久君
山本宗太郎君 川村 數郎君 田中 定吉君
渡邊 祐策君 牧田 耕藏君 廣岡宇一郎君
萩 亮君 岩崎幸治郎君 穴水 要七君
橫山金太郎君 紫安新九郎君 野田文一郎君
川副 綱隆君 砂田 重政君 南 鼎三君
小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外三
件

改野 耕三君 鈴木 錠藏君 戶狩權之助君
佐藤寅太郎君 鶴澤 總明君 菅原 傳君
伊坂秀五郎君 風岡八左衛門君 原田佐之治君
有馬 秀雄君 高木第四郎君 大津淳一郎君
樋口 秀雄君 荒川 五郎君 高田 耘平君
關 和知君 小橋藻三衛君 守屋松之助君
一去年十八日農會法案委員飯塚春太郎君辭任ニ付其ノ
補闕トシテ村山喜一郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ
一去年二十日身元保證ニ關スル法律案外三件委員井上
剛一君辭任ニ付其ノ補闕トシテ森達三君ヲ議長ニ於
テ選定セリ
一去年二十日日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第四部選出豫算委員 大津淳一郎君(磯貝浩君補
闕)
一去年二十日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ
救恤ニ關スル法律案委員
委員長 島田 俊雄君 理事 廣瀬 鎮之君
和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル
補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案委員
委員長 中山 佐市君 理事 中島 鵬六君
道路法中改正法律案委員
委員長 石川 玄三君 理事 淺見 寅之助君
未成年者飲酒禁止法案委員
委員長 海江田準一郎君 理事 大石 大君
身元保證ニ關スル法律案外三件委員
委員長 高見 之通君 理事 大道寺 慶男君
軍備縮少ニ基因シテ生スヘキ失業勞働者ノ善後ニ關
スル建議案委員
委員長 高山 長幸君 理事 岩崎 幸治郎君
小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外
三件委員
委員長 改野 耕三君 理事 有馬 秀雄君
一今年二十一日日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第一部選出決算委員 飯塚春太郎君(黑金泰義君
補闕)
第二部選出決算委員 高木正年君(平出喜三郎君
補闕)
第三部選出決算委員 萩 亮君(深澤米太郎君補
闕)
第九部選出懲罰委員 渡邊昭君(板野友造君補
闕)
一今年二十一日六都市行政監督ニ關スル法律案委員
太田信次郎君、武内作平君辭任ニ付其ノ補闕トシテ
淺賀長兵衛君、佐久間啓莊君ヲ露國政變及西比利
亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案

委員山口嘉藏君辭任ニ付其ノ補闕トシテ佐々木平
次郎君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ
一今年二十一日理事補闕ノ結果左ノ如シ
六都市行政監督ニ關スル法律案委員
理事 淺賀長兵衛君(理事太田信治郎君補闕)

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス、諮問致ス事ガア
リマス、第五部選出決算委員最上直吉君常任委員辭任
ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、農會法案委員會ヲ午後二時ヨリ開會致シ
タイト委員長ヨリ請求ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議
アリマセヌカ
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、板野友造君ヨリ議事進行ニ關シテ發言ヲ求
メラレマス、此場合之ヲ許シマス
○板野友造君 簡單デスカ此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒ
タクウザイマス、ソレハ吾々國民黨及憲政會、無所屬、庚申
俱樂部ノ者ガ合同致シマス、府縣制改正法律案ヲ本年
ノ二月七日ニ提出ヲ致シテ置イタルデアルマス、一方政
府ニ於テモ亦府縣制中改正法律案ヲ提出ニ相成リ、既ニ
委員ニ附託サレテ今審査中デアルノデアルマス、是ハ吾々國
民黨及憲政會其他カラ提出ヲ致シマス、案モ、御承知ノ
如ク選舉權ノ擴張、選舉權ノ行使ニ付テ一層之ヲ便宜ニ
スルコト、其他自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトニ涉テ改正
セントスルモノデアルマシテ、政府ノ御提案同時ニ審査
ルコトガ、最も便宜デアル法案デアルノデアルマス(拍手)然
ルニ一方政府ノ提案ニ付テハ審査ガ進メラレ、ズン、質
問ナゾニモ進入デ居ルノデアルマス、吾々ノ提案ハ未ダ
之ガ日程ニモ上リマセヌカラ、成ベクナラ案ノ性質カラ言
ハ、同一委員ニ附託シテ同時ニ審査スルコトガ便宜デアル
ニ拘ラズ、未ダサウ云フ連ビニナル譯ニ參リマセヌコトナ
居リマス、デ私ガ此處ニ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマ
ス、ハ、斯様ナ次第デアルマス、サウシテ議長ニ於テハ此
ノ性質ニ考ヘラレマシテ、速ニ之ヲ上程セラレ、コトヲ希望
致シマス、云フコトヲ茲ニ述ベテ置キマス(拍手)尙ホ一言
致シマス、若シ政府ノ提案ニ付テ委員會ガ終了シ、之ガ
本會議ニ於テ決定ヲサレタルコトニナリマス、吾々及
憲政會其他カラ提案致シテ居リマス、法案ハ、之ヲ改正
ヲ實現サスコトガ事實ニ於テ困難ニナリハシナイカト云フ
モ多少アリマス、旁、速ニ上程ナサルヤウニ希望致シマス(拍
手)

○議長(與繁三郎君) 板野君ノ御希望ハ成ベク速ニ日
程ニ上セルヤウニ計ヒマス、軍備縮少ニ基因シテ生ズヘキ失
業勞働者ノ善後ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云
フ請求ガアリマス、之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、板野友造君ヨリ議事進行ニ關シテ發言ヲ求
メラレマス、此場合之ヲ許シマス
○板野友造君 簡單デスカ此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒ
タクウザイマス、ソレハ吾々國民黨及憲政會、無所屬、庚申
俱樂部ノ者ガ合同致シマス、府縣制改正法律案ヲ本年
ノ二月七日ニ提出ヲ致シテ置イタルデアルマス、一方政
府ニ於テモ亦府縣制中改正法律案ヲ提出ニ相成リ、既ニ
委員ニ附託サレテ今審査中デアルノデアルマス、是ハ吾々國
民黨及憲政會其他カラ提出ヲ致シマス、案モ、御承知ノ
如ク選舉權ノ擴張、選舉權ノ行使ニ付テ一層之ヲ便宜ニ
スルコト、其他自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトニ涉テ改正
セントスルモノデアルマシテ、政府ノ御提案同時ニ審査
ルコトガ、最も便宜デアル法案デアルノデアルマス(拍手)然
ルニ一方政府ノ提案ニ付テハ審査ガ進メラレ、ズン、質
問ナゾニモ進入デ居ルノデアルマス、吾々ノ提案ハ未ダ
之ガ日程ニモ上リマセヌカラ、成ベクナラ案ノ性質カラ言
ハ、同一委員ニ附託シテ同時ニ審査スルコトガ便宜デアル
ニ拘ラズ、未ダサウ云フ連ビニナル譯ニ參リマセヌコトナ
居リマス、デ私ガ此處ニ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマ
ス、ハ、斯様ナ次第デアルマス、サウシテ議長ニ於テハ此
ノ性質ニ考ヘラレマシテ、速ニ之ヲ上程セラレ、コトヲ希望
致シマス、云フコトヲ茲ニ述ベテ置キマス(拍手)尙ホ一言
致シマス、若シ政府ノ提案ニ付テ委員會ガ終了シ、之ガ
本會議ニ於テ決定ヲサレタルコトニナリマス、吾々及
憲政會其他カラ提案致シテ居リマス、法案ハ、之ヲ改正
ヲ實現サスコトガ事實ニ於テ困難ニナリハシナイカト云フ
モ多少アリマス、旁、速ニ上程ナサルヤウニ希望致シマス(拍
手)

○議長(與繁三郎君) 板野君ノ御希望ハ成ベク速ニ日
程ニ上セルヤウニ計ヒマス、軍備縮少ニ基因シテ生ズヘキ失
業勞働者ノ善後ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云
フ請求ガアリマス、之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、板野友造君ヨリ議事進行ニ關シテ發言ヲ求
メラレマス、此場合之ヲ許シマス
○板野友造君 簡單デスカ此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒ
タクウザイマス、ソレハ吾々國民黨及憲政會、無所屬、庚申
俱樂部ノ者ガ合同致シマス、府縣制改正法律案ヲ本年
ノ二月七日ニ提出ヲ致シテ置イタルデアルマス、一方政
府ニ於テモ亦府縣制中改正法律案ヲ提出ニ相成リ、既ニ
委員ニ附託サレテ今審査中デアルノデアルマス、是ハ吾々國
民黨及憲政會其他カラ提出ヲ致シマス、案モ、御承知ノ
如ク選舉權ノ擴張、選舉權ノ行使ニ付テ一層之ヲ便宜ニ
スルコト、其他自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトニ涉テ改正
セントスルモノデアルマシテ、政府ノ御提案同時ニ審査
ルコトガ、最も便宜デアル法案デアルノデアルマス(拍手)然
ルニ一方政府ノ提案ニ付テハ審査ガ進メラレ、ズン、質
問ナゾニモ進入デ居ルノデアルマス、吾々ノ提案ハ未ダ
之ガ日程ニモ上リマセヌカラ、成ベクナラ案ノ性質カラ言
ハ、同一委員ニ附託シテ同時ニ審査スルコトガ便宜デアル
ニ拘ラズ、未ダサウ云フ連ビニナル譯ニ參リマセヌコトナ
居リマス、デ私ガ此處ニ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマ
ス、ハ、斯様ナ次第デアルマス、サウシテ議長ニ於テハ此
ノ性質ニ考ヘラレマシテ、速ニ之ヲ上程セラレ、コトヲ希望
致シマス、云フコトヲ茲ニ述ベテ置キマス(拍手)尙ホ一言
致シマス、若シ政府ノ提案ニ付テ委員會ガ終了シ、之ガ
本會議ニ於テ決定ヲサレタルコトニナリマス、吾々及
憲政會其他カラ提案致シテ居リマス、法案ハ、之ヲ改正
ヲ實現サスコトガ事實ニ於テ困難ニナリハシナイカト云フ
モ多少アリマス、旁、速ニ上程ナサルヤウニ希望致シマス(拍
手)

○議長(與繁三郎君) 板野君ノ御希望ハ成ベク速ニ日
程ニ上セルヤウニ計ヒマス、軍備縮少ニ基因シテ生ズヘキ失
業勞働者ノ善後ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云
フ請求ガアリマス、之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、板野友造君ヨリ議事進行ニ關シテ發言ヲ求
メラレマス、此場合之ヲ許シマス
○板野友造君 簡單デスカ此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒ
タクウザイマス、ソレハ吾々國民黨及憲政會、無所屬、庚申
俱樂部ノ者ガ合同致シマス、府縣制改正法律案ヲ本年
ノ二月七日ニ提出ヲ致シテ置イタルデアルマス、一方政
府ニ於テモ亦府縣制中改正法律案ヲ提出ニ相成リ、既ニ
委員ニ附託サレテ今審査中デアルノデアルマス、是ハ吾々國
民黨及憲政會其他カラ提出ヲ致シマス、案モ、御承知ノ
如ク選舉權ノ擴張、選舉權ノ行使ニ付テ一層之ヲ便宜ニ
スルコト、其他自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトニ涉テ改正
セントスルモノデアルマシテ、政府ノ御提案同時ニ審査
ルコトガ、最も便宜デアル法案デアルノデアルマス(拍手)然
ルニ一方政府ノ提案ニ付テハ審査ガ進メラレ、ズン、質
問ナゾニモ進入デ居ルノデアルマス、吾々ノ提案ハ未ダ
之ガ日程ニモ上リマセヌカラ、成ベクナラ案ノ性質カラ言
ハ、同一委員ニ附託シテ同時ニ審査スルコトガ便宜デアル
ニ拘ラズ、未ダサウ云フ連ビニナル譯ニ參リマセヌコトナ
居リマス、デ私ガ此處ニ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマ
ス、ハ、斯様ナ次第デアルマス、サウシテ議長ニ於テハ此
ノ性質ニ考ヘラレマシテ、速ニ之ヲ上程セラレ、コトヲ希望
致シマス、云フコトヲ茲ニ述ベテ置キマス(拍手)尙ホ一言
致シマス、若シ政府ノ提案ニ付テ委員會ガ終了シ、之ガ
本會議ニ於テ決定ヲサレタルコトニナリマス、吾々及
憲政會其他カラ提案致シテ居リマス、法案ハ、之ヲ改正
ヲ實現サスコトガ事實ニ於テ困難ニナリハシナイカト云フ
モ多少アリマス、旁、速ニ上程ナサルヤウニ希望致シマス(拍
手)

○議長(與繁三郎君) 板野君ノ御希望ハ成ベク速ニ日
程ニ上セルヤウニ計ヒマス、軍備縮少ニ基因シテ生ズヘキ失
業勞働者ノ善後ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云
フ請求ガアリマス、之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、板野友造君ヨリ議事進行ニ關シテ發言ヲ求
メラレマス、此場合之ヲ許シマス
○板野友造君 簡單デスカ此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒ
タクウザイマス、ソレハ吾々國民黨及憲政會、無所屬、庚申
俱樂部ノ者ガ合同致シマス、府縣制改正法律案ヲ本年
ノ二月七日ニ提出ヲ致シテ置イタルデアルマス、一方政
府ニ於テモ亦府縣制中改正法律案ヲ提出ニ相成リ、既ニ
委員ニ附託サレテ今審査中デアルノデアルマス、是ハ吾々國
民黨及憲政會其他カラ提出ヲ致シマス、案モ、御承知ノ
如ク選舉權ノ擴張、選舉權ノ行使ニ付テ一層之ヲ便宜ニ
スルコト、其他自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトニ涉テ改正
セントスルモノデアルマシテ、政府ノ御提案同時ニ審査
ルコトガ、最も便宜デアル法案デアルノデアルマス(拍手)然
ルニ一方政府ノ提案ニ付テハ審査ガ進メラレ、ズン、質
問ナゾニモ進入デ居ルノデアルマス、吾々ノ提案ハ未ダ
之ガ日程ニモ上リマセヌカラ、成ベクナラ案ノ性質カラ言
ハ、同一委員ニ附託シテ同時ニ審査スルコトガ便宜デアル
ニ拘ラズ、未ダサウ云フ連ビニナル譯ニ參リマセヌコトナ
居リマス、デ私ガ此處ニ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマ
ス、ハ、斯様ナ次第デアルマス、サウシテ議長ニ於テハ此
ノ性質ニ考ヘラレマシテ、速ニ之ヲ上程セラレ、コトヲ希望
致シマス、云フコトヲ茲ニ述ベテ置キマス(拍手)尙ホ一言
致シマス、若シ政府ノ提案ニ付テ委員會ガ終了シ、之ガ
本會議ニ於テ決定ヲサレタルコトニナリマス、吾々及
憲政會其他カラ提案致シテ居リマス、法案ハ、之ヲ改正
ヲ實現サスコトガ事實ニ於テ困難ニナリハシナイカト云フ
モ多少アリマス、旁、速ニ上程ナサルヤウニ希望致シマス(拍
手)

○議長(與繁三郎君) 板野君ノ御希望ハ成ベク速ニ日
程ニ上セルヤウニ計ヒマス、軍備縮少ニ基因シテ生ズヘキ失
業勞働者ノ善後ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云
フ請求ガアリマス、之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可
致シマス、板野友造君ヨリ議事進行ニ關シテ發言ヲ求
メラレマス、此場合之ヲ許シマス
○板野友造君 簡單デスカ此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒ
タクウザイマス、ソレハ吾々國民黨及憲政會、無所屬、庚申
俱樂部ノ者ガ合同致シマス、府縣制改正法律案ヲ本年
ノ二月七日ニ提出ヲ致シテ置イタルデアルマス、一方政
府ニ於テモ亦府縣制中改正法律案ヲ提出ニ相成リ、既ニ
委員ニ附託サレテ今審査中デアルノデアルマス、是ハ吾々國
民黨及憲政會其他カラ提出ヲ致シマス、案モ、御承知ノ
如ク選舉權ノ擴張、選舉權ノ行使ニ付テ一層之ヲ便宜ニ
スルコト、其他自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトニ涉テ改正
セントスルモノデアルマシテ、政府ノ御提案同時ニ審査
ルコトガ、最も便宜デアル法案デアルノデアルマス(拍手)然
ルニ一方政府ノ提案ニ付テハ審査ガ進メラレ、ズン、質
問ナゾニモ進入デ居ルノデアルマス、吾々ノ提案ハ未ダ
之ガ日程ニモ上リマセヌカラ、成ベクナラ案ノ性質カラ言
ハ、同一委員ニ附託シテ同時ニ審査スルコトガ便宜デアル
ニ拘ラズ、未ダサウ云フ連ビニナル譯ニ參リマセヌコトナ
居リマス、デ私ガ此處ニ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマ
ス、ハ、斯様ナ次第デアルマス、サウシテ議長ニ於テハ此
ノ性質ニ考ヘラレマシテ、速ニ之ヲ上程セラレ、コトヲ希望
致シマス、云フコトヲ茲ニ述ベテ置キマス(拍手)尙ホ一言
致シマス、若シ政府ノ提案ニ付テ委員會ガ終了シ、之ガ
本會議ニ於テ決定ヲサレタルコトニナリマス、吾々及
憲政會其他カラ提案致シテ居リマス、法案ハ、之ヲ改正
ヲ實現サスコトガ事實ニ於テ困難ニナリハシナイカト云フ
モ多少アリマス、旁、速ニ上程ナサルヤウニ希望致シマス(拍
手)

ドウデアアルカト云フコトニ付テ御考ヲ遊バサレタナラバ此界格問題ヨリモ、是等ノ問題ノ方ガ必要デアアルマイカト私ハ考ヘルノデアアル、何故デアアルト言ウ方ナラバ、丁度此義務教育ノ學年ガ卒業シテ、生徒ガドウ云フ方向ニ進ムカト云フコトノ調査ヲ致シマスルト、是ハ帝國農會ノ調査デアリマスルガ、大正十年三月ニ小學校ヲ卒業致シマシタ人ノ――是ハ百分算デアリマスルガ、八十八人マデト云フモノハ、補習教育ノ方ニ向テ進ムノデアリマスソレカラ十二人ガ中學程度ノ入學者デアアル斯ウ云フコトニナテ居ル、所ガ實際此農業補習教育ノ狀態ハドウデアアルカト申上ゲマシタナラバ、羊頭狗肉ノ感ガアル、看板ハ如何ニモ何ニ農業補習學校ト云フ立派ナル看板ハ掲ケテ居リマスルケレドモ、内容ニ立至テ見マスト、果シテ教授ヲヤツテ居ルヤラ、ヤツテ居ナイヤラ譯ノ分ラヌヤウナコトデアアル、此事ハ私ガ申サストモ政府モ御承知ノ通り、又此學校ヲ御覽ナスタ方モ御承知ノコト、思ヒマス、而モ其學校ノ數ガ、日本ニ於テ八千八百二十七、小學校ノ三分ノ一、即チ三ツノ小學校ニ一ツ、斯ウ云フ農業補習教育ヲ置イテアル、ソレ等ノ點ニ付テ、政府ハ何等考慮ヲ煩ハサレテ居リマセヌ、又乙種農業學校ハドウデアアルカ、是ハ三郡日本ニ二百程アリマス、郡ノ數ハ六百三十六、故ニ三郡ニ一ツ位ノ平均ヲ以テ此學校ガ出來テ居ルノデアリマス、所ガ郡制廢止ノ結果、費用ノ出所ガアリマセヌ爲ニ、廢校ノ已ムナキニ至ルコトニナテ居ル、折角簡易ナル農業教育ト云フモノガ、特ニ進歩ノ端緒ヲ開カウト致シテ居ル時ニ當テテ郡制廢止ニナタ、ソレガ爲ニ廢校ノ已ムナキニ至ル、斯ウ云フ憐ミムキ狀態デアリマス、故ニ私ハ只今ノ如ク少數者ノ利益ヲ圖ル昇格問題モ必要デアリマセウ、又高等教育ト云フコトモ必要デアラセウガ、一方ニ於テ此憐ミムキ多數ノ國民ヲ如何ニ教育スルカ、其點ニ付テ御伺致スノデアリマス、以上ハ大體ニ於テ小作爭議ニ關スルコトノ質問デアリマス、是カラハ小作爭議ニアラズシテ其他農村社會問題ニ付テ二三御伺致シタイノデアリマス、即チ第五問ト致シマシテ、都市集中ノ件デアリマス、近來經濟的ニ社會的ニ目醒メタル農民ト云フモノハ、農村ニ滞在致シマセズシテ、踵ヲ接シテ都會ニ集中スル所ノ趣ガアルノデアリマス、而モ都市計畫アル、政府ハ之ニ對シ如何ナル方策ヲ御執リニナル考デアアルカ、之ガ第五問デアリマス、即チ東京市ノ統計ヲ取リマスト、大正二年ニハ二百五十四萬ノ人口ガアタノデアリマス、然ルニ其後五箇年ヲ經タル所ノ七年ニハ六十萬人ノ増加ヲ致シテ居ル、即チ三百四十四萬ニ相成テ居リマス、大阪ノ人口ヲ調査致シマス、矢張此五箇年ノ間ニ五十萬人ノ増加ヲ致シテ居ル、斯ウ云フ狀態デアリマス、其他神戸ニ致シマス、マシテモ、名古屋ニ致シマス、横濱ニ致シマス、東京、大阪同様ニ人口ハ増加シツ、アルノデアリマス、是亦政府ハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ都市計畫ノ結果ハ如何様ニ此都市ガ膨脹スルカト云フコトヲ調査致シマスルニ、東京都ハ十六倍大キク相成ルノデアリマス、大阪モ亦六倍、京都ハ十八

三倍、神戶ハ三倍、横濱ハ今日ノ五倍、斯ウ云フコトニ相成ルノデアリマシテ、益農村ノ人間ヲ都會ニ集中スルヤウナコトニ相成ルコトハ、火ヲ睹ルヨリ明カデアリマセガ、政府ハ此都會集中ト云フコト、竝ニ此農村ヲ離ル、所ノ者ヲ如何ニシテ喰留メテ置クカ、農村ガ荒廢ニ歸シテモ宜イカ、何等カノ御考ガアルモ思フ、此事ニ付テ御伺致シタイデアリマス(拍手)ソレカラ其次ニ社會問題トシテ、農村ニ關スル事ハ農村ノ中堅階級ニ付テ御尋フ致スデアリマス、即チ農村ニ於ケル中堅階級ハ負擔ノ過重、物價ノ騰貴ナドニ依テ滅亡スルモノガ多ク、政府ハ之ニ處スル對策ヲ御講ジニテ居リマセガ、其御講ジニナラナイ理由ハ如何デアルカ、此事ニ付テ御尋フ致スデアリマス(拍手)即チ地主ト都會ノ商業者トノ負擔公平不公平ト云フコトニ付テハ、先日帝國農會ニ於テ調査サレテ居リマセガ、地主ハ商業家ノ三倍ノ負擔ヲシテ居ルト云フコトニ相成テ居リマス、即チ商業者ノ十圓ノ負擔ニ對シ、地主ハ三十圓ノ負擔ヲ致シテ居ル、斯ウ云フコトニ相成テ居リマス、其詳細ナル統計並ニ說明ハ此處ニ申上ゲマセデ、議長ノ許可ヲ得マシテ速記録ニ記載スルコトニ致シマス、斯ウ云フ負擔ノ狀態デアリマス、ソレカラ又物價ノ騰貴ト云フコトニ付テハ、私ガ諺ヲシテ申シマセデモ御承知ノ通りデアル、其結果農村ニ生活致シテ居リマス、中堅階級ニ依ルト、最近毎年七千六百戸、中堅階級ハ滅亡シテ居ル、斯ウ云フコトヲ言ハレテ居リマス、實ニ由々キ問題ト私ハ思フ、御承知ノ通り中堅階級ト云フモノハ、農村ニ於ケル自治機關ノ中心トモナリ、或ハ公共事業ノ中心トモナリ、公益事業ノ中心トモナリ、デアリマス、然ルニ今ヤ農村ニ於ケル中堅階級ハ滅亡ニ向シテ居ルデアル、而シテ農村ニ於ケル不振ノ勢ヲ愈、甚シカラシメヤウトシテ居ル、然ルニ政府ハ私ノ見ル所デハ、是等ノ社會問題ニ對シテ恰モ對岸ノ火事ヲ見テ居ラレガ如キ感ガアルデアリマス、是ハ何故デアリマスカ(拍手)此中堅階級ノ滅亡ハドウシテモ豫防シ、更ニ都市ニ集中スル所ノ農民、離村スル所ノ農民ヲ引留メテ方法ヲ考ヘナケレバ、農業ノ發達ハ期シテ待ツコトガ出来ナイト思フデアリマス、ソノデ私熟考ヘマスルニ、是ハ確ニ制度ノ上ニ缺陷ガアル、土地制度ノ上ニ於テ缺陷ガアルト考ヘルデアリマス、故ニ第七問トシテ土地制度ノ件ニ關シテ御伺致スデアリマス、政府ハ小面積ノ耕地所有者ノ地租ヲ免除シ、大面積ノ所有者ニ對シテハ累進的地租ヲ課スルコトヲ猶ホ所得稅ノ如クシ、更ニ自作耕地資金ヲ供給スル爲メ營利科目トセザル農業銀行ヲ設立スルノ意思ナキヤ、否ヤト云フコトニ付テ御尋フスデアリマス、都市集中ノコト、竝ニ中堅階級滅亡ノコトハ、前申上ゲタ通りデアリマス、更ニ之ヲ農家ノ種類ヨリ分テ研究致シマスルト、自作農ト云フモノハ年々減ジテ、小作人が増加シツ、アルト云フコトハ御承知ノ通りデアリマス、統計ヲ示サズモ御承知デアリマセウ、而モ

五十町歩以上ノ地主ト云フモノハ、年々増加シツ、アル、此事モ政府ハ御承知デアリマス、是ハドウ云フ譯デアリマス、中堅階級ガ無クナリ、自作農ガ無クナリ、而モ中堅階級ノ子弟ハ田舎ヲ嫌ミテ都會ニ集テ來ル、其原因ヲ考ヘマス、云フト、是ハ第一ニハ負擔ノ過重、先刻申上ゲマシタ通り田舎ノ人ハ非常ニ澤山ノ率ニ稅ヲ拂フ居ル、負擔ノ過重、第二ハ物價ノ騰貴、第三ハ土地制度ノ不公平、ソレカラ第四ト致シマシテハ斯様ナル原因ヨリ致シマシテ、生活致シマス上ニ於テ、生産シタル其實實ニ依テ生活ヲ致サズシテ負債ニ依テテ所謂借錢ニ依テテ生活ヲ致スト云フガ如キ狀態ニナリツ、アルデアリマス、中堅階級竝ニ自作農ハレガ爲ニ是等ガ滅亡スルデアリマス、丁度今日ニ於テ農民ノ負債ト云フモノハ、二十億圓ヲ超過致シテ居ル、其内生産ノ二使ハレテ居ルモノハ僅ニ十億圓、アトノ十億圓ヲ圓ト云フモノハ生活費ニ使テ、所謂ソレガ借錢トシテ殘テ居ル、斯ウ云フ狀態ニ相成テ居ルデアリマス、ソレガ爲ニ中堅階級竝ニ自作農ト云フ者ハ亡ンデ行クデアリマス、故ニドウシテモ此時此際ニ是等ヲ救濟致サウト致シマス、付キマシテハ、五反歩以下ノモノハ、五反歩以下ノ土地ヲ所有致シテ居ル者ハ免稅ニシテハ、サウシテ彼等ノ生存權ノ保證ヲ與ヘル、所謂生活ノ安定ヲ與ヘル、ソレカラ五反歩以上三町歩以上ノ土地所有者ニ對シテハ、現行ノ地租ヲ課シテ宜シイ、併ナガラ是等モ中堅階級ノ人デアリマス、故ニ今日借錢困難テ居ル、其借錢ニ對シテハ相當ノ救濟、所謂舊イ所ノ借錢ヲ借替ヘテ、新シキ低廉ナル利息ノ借錢ト借替ヘテ農業銀行ト云フモノ金融ノ途ヲ付ケテヤラシメナラヌ、即チ農業銀行ト云フモノ金融ノ途ヲ付ケテヤラシメザル所、社會政策ノ農業銀行ト云フモノヲ造ルコトガ宜カラウト云フモノハ、此意味ヨリ私ハ論ズルデアリマス、而シテ三町以上ノ土地所有者ト云フ者ハ、又大地主ト云フ者ハ、袖手傍觀唯、小作料、小作米、ニ依テ飯ヲ食ウテ居ル人デアリマス、恰モ華族ノ財產家ノ如キモノデアリマセガ故ニ、是等ハ征伐シテ宜シイ、故ニ是等ニ對シテハ所得稅ノ累進稅ヲ課スルガ如ク、征伐ト云フノガ惡ケレバ是ハ取消シマス、緩和致ス必要ガアルダラウト私ハ考ヘルデアリマス、是等ノ所謂三町歩以上ノ土地所有者ニ對シテハ所得稅ニ定メテアルガ如キ累進稅率ヲ御執リニナタナラバ、ドウデアラウカ、斯ク致シタナラバ、其制度ノ結果ト致シマシテ、自作農ノ創設トモナルデアリマセウ、又自作農ヲ維持スルコトモ出來ルデアリマセウ、而モ一方ニ都市―都會ニ集中スル所ノ弊害ト云フモノヲ防グコトモ出來ルデアリマセウ、而モ土地分配ト云フモノガ極デ公平ニ相成リマシテ、農村ト云フモノハ、美風ガ保持スル事ニ相成ララウト思フデアリマス(拍手)現ニ斯ノ如キ所ノ制度ハ御承知ノ通り、丁抹ニ於テモ小農法ト云フ一ツノ制度ヲ以テ現在實行致シテ居リマス、此營利ヲ目的トセザル所ノ農業銀行ハ御承知ノ通り、亞米利加ガ世界ニ率先致シマシテ、其制度ト云フモノヲ定メテ現ニ實行致シテ居ルデアリマス、決シテ是亦

私ノ空理空論デアアリマセヌ、世界ノ所謂農業國ノ、而モ農業ニ忠實ナル國ニ於ケル所ノ實例デアリマス、果シテ政府ハ私ガ只今申上ゲマシタ如ク、土地制度ノ改正ヲ行ハル、意思アリヤ否ヤ、又營利ヲ目的トセザル所ノ農業銀行ヲ設立スル、所ノ意思アリヤ否ヤ、是ガ第七問デアリマス、要スル今日ハ御承知ノ通り、産業立國ト云フコトガマシク唱ヘラレテ居リマス、併ナガラ其議論ヲ綜合致シマスルニ、政府ト云ハズ、民間ト云ハズ、或ハ工業若クハ貿易ヲ盛ニスベシト云フガ如キ事ニ傾イテ居ルデアリマス、ハ考ヘルデアリマス、即チ日本ハ郷土狹シ、所謂領土ガ狹ハ人口ハ少シ、是レ以上ハ工業ヲ盛ニシ、又國外ノ頭腦ヲ發達セシメテ、工業品ヲ盛ニ製造シテ、而モ之ヲ外國ニ賣出スヨリ方法ハナカラウト、斯ウ云フ風ニ私ハ聞エルデアリマス、併ナガラ此工業ニ從事致シマスル所ノ労働者、所謂壯健ナル労働者ノ供給ハ何レカラ來ルカト云ヘバ、是亦農村デアリマス、而モ亦工業労働者、又ハ工業者其他貿易業者ノ食糧、食物ト云フモノハ、何所カラ供給ヲ致シテ居ルカト云ヘバ、是亦農村デアリマス、而モ亦軍備縮小ト云フ事ヲ言ハレバ、少クモ此軍備ト云フモノハ必要デアル、其軍備ニ要スル所ノ軍人壯丁ハ何レカラ供給致シテ居ルカト云ヘバ、是亦農村カラ供給ヲ致シテ居ルデアリマス、故ニ私ハ工業ヲ盛ナラシメヤウ、貿易ヲ盛ナラシメヤウト云フ點ニ付テ、異議ヲ挾ム者デアリマセヌケレドモ、ソレ等ヲ盛ナラシムル所ノ一要素デアル所ノ農業ト云フモノモ、少クモ商工ト同ジ如ク、併進ノ二發達セシムルノ必要アルヘル考ヘルデアリマス、是亦國ヲ保ツ所以ナリト私ハ考ヘルデアリマス、此見解ヨリ致シマシテ、今日最モヤカマシク論議サレテ居ル所ノ、而モ農村ニヤカマシイ所ノ小作爭議、其他農村ニ起リツツアル所ノ社會問題ニ付テ御尋フ致シタ次等デアリマス、何卒深切ナル御懇切ナル御答辯ヲ要求致シマス(拍手)

(參照)

商農負擔比較(帝國農會調査)

廢減稅ノ高唱サレル折柄、農商兩者ノ公租公課負擔ノ多寡輕重ニ就テ帝國農會ガ調査シタルモノニ依ルト略左表ノヤウナ見當ニアル

商業者ノ負擔	本調査ハ東京市芝區内ノ白米商ニ就キ調ベタモノノ流動資本一萬圓ヲ有シ一箇年ノ賣上金高約八萬圓ヲ得純益約五千圓ヲ計上シ得ル地位ノモノデアル	所得稅	二〇三、〇〇	同附加稅	四〇、六〇
		營業稅	一六〇、〇〇	同附加稅	一八、〇〇
		自轉車稅	二七、〇〇	荷車稅	一八、〇〇
		家屋稅	七、〇〇	同附加稅	三一、五〇
		計	六五、一〇		

農業者ノ負擔ハ愛知縣西春日井郡内ニテ田地十三町歩畑七町歩ヲ有シ契約小作料高二百石ヲ有スル地主ニ就テ調査シタルモノノ田地一反歩當リ公課額ハ左ノ通りデアル

稅目	田	畑
地租	二、〇四	一、〇七
縣稅	三、七一	二、三五
村稅	六、七九	六、三八
所得稅	一、五〇	一、七〇
區費	四、〇〇	四、〇〇
農會費	二、〇〇	二、〇〇
水利費	五、四〇	六、〇〇
地主會費	六、〇〇	六、〇〇
向武會費	一、二〇	一、二〇
計	一五、九一	一二、八三

右ノ所有田畑全部ニ賦課計算スルト年額二千九百六十七圓三十四錢ノ多額ニ上ル二百石ノ小作料ヲ石三十七圓ニ換算シテ七千四百圓デアルカラ此ノ地主ハ田畑收入ノ三割四分六厘ヲ公租公課ノ爲ニ支出シテ居ルモノデアル非常ナ重課デアルカラ全國モ大抵此ノ見當ニナラテ居ル

商農兩者比較 前記ノ地主ノ收入狀態ヲ芝區内ノ米商ニ就テ比較考査スルト流動資本一萬圓純益約五千圓ノモノヲ純益金七千五百圓ニ換算計上スルトキハ稅額ハ前記ノ六百十五圓十錢カラ九百二十二圓六十五錢ヲ増加スル即チ收益ハ同一ニシテモ其稅額ハ農業者負擔ノ三分ノ一ニシカ當ラヌ尤モ商業ニハ物價ノ高低商機ノ轉變賣上代金ノ回收不能等到底農業ノ堅實ナル比ニスベクモアラズ稅額ノ輕イハ當然ノコトノヤウデモアルガ農業者ニモ米價ノ高低小作料ノ未拂ハアリ概シテ其ノ負擔偏重ノ觀ハ免レナイト

○議長(與繁三郎君) 田中農商務次官

○政府委員田中隆三君登壇

○政府委員田中隆三君 只今土井君ヨリシテ農業政策ニ關シ種々御抱負ノアル所、御經綸ノアル次第ヲ承リマシテ、此席ニ於キマシテ敬聽致シテ居リマシテアリマス而シテ其揭デラレシタ所ノ諸項目、例ヘバ小作爭議ニ關スルコトハ、或ハ農民ノ都市ニ集中スル趨勢、或ハ農商工トノ負擔ノ割合如何、其輕重ノ模樣、或ハ又進ンデ土地制度ニ關シテ、何等ノ施設ヲ此際スル必要ナキカト云フヤウナ諸問題ニ付キマシテ、政府ニ於テモ慎重調査考慮ヲ盡シテ居ル事柄デアリマス、既ニ一昨年ノ臨時議會ニ於テ、其調査ニ關スル費用ノ御協賛ヲ得マシテ、爾後小作制度調査委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、屢、集合シテ意見ヲ聞ハシ、又一方ニ於テハ其意見ヲ定メルニ付テ、各般ノ調査ニ從事シ、アルノデアリマス、土井君モ其委員ノ一人ト成ラレテ居ルノデ、度々私共モ御名論ヲ拜聽シ、アル譯デアリマス、ソレ故ニ此重大ナル問題ニ付キマシテハ、土井君ハ勿論ノ事、皆樣々共ニ政府ガ力ヲ協セマシテ、一日モ早ク良案名策ヲ得テ、其實行ヲ致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、之ヲ以テ御答ヲ致シマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 横山勝太郎君

二 帝都ノ公安維持ニ關スル質問(横山勝太郎君提出)

帝都ノ公安維持ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年一月二十一日

提出者 横山勝太郎 賛成者 三木 武吉 外二十九人

帝都ノ公安維持ニ關スル質問主意書

一 最平和ヲ要スヘキ世界ノ公道タル東京驛頭ニ於テ屢流血ノ慘事ヲ見ルハ一般國民ノ均シク遺憾トスル所ニシテ殊ニ帝都二百萬市民ノ不安ニ堪ヘザル所ナリ、曩ニ親日鮮人閔元植君刺殺ノ事アリ今又内閣總理大臣政友會總裁原敬君刺殺ノ事、變フ所トナリ非命ノ死ヲ遂ク實ニ國家ノ不祥事ニシテ憲政史上ノ一大惡痕タリ政府ハ原君被害ノ原因ハ奈邊ニ在リト認ムル乎且其ノ責任如何

二 政府ハ屢脅威セラルル帝都公安ノ維持ニ關シ從來如何ナル手段ヲ採リ且將來如何ナル方策ニ出テムトスル乎

三 既往ノ事跡ニ徴スルニ帝都ニ於ケル特殊ノ警察機關タル警視廳ヲ存置スルノ必要ナク寧ろ之ヲ廢止シ一般ノ制度ニ歸セシムルヲ適當ナリト信ズ政府ノ所見如何

右及質問候也

(與議長議長席ヲ退キ柏谷副議長代リ著席)

(横山勝太郎君登壇)

○横山勝太郎君 本員ハ帝都ノ公安ニ關スル重大ナル事項ニ付テ政府ノ所見ヲ質問シ置キタイト思ヒマス、此質問ヲ起シマス理由ハ、其質問書ニ梗概ヲ説明致シ置キマス通り、諸君モ御承知ノ通り平和ノ東京、最モ靜肅デアルベキ萬國ノ公道ト稱シテモ宜シイ東京驛ニ於テ、屢、流血ノ慘事ヲ見ルコト云フコトハ、海ニ帝都ノ爲ニ遺憾トスルノミナラス、我國ノ名譽ノ爲ニ甚ダ遺憾ニ存ズルモノデアリマス、曩ニハ親日派ノ鮮人閔元植君若東京驛ニ於テ暗殺ヲセラレマシタ、今復タ政友會ノ總裁、時ノ總理大臣デアラレタ所ノ原敬氏ガ、不幸ニシテ刺客ノ變フ所トナテ、非業ノ死ヲ遂ゲラレタト云フコトハ、海ニ憲法史上ノ一大汚點デアリマシテ、吾々ハ非常ニ之ヲ遺憾トスルモノデアリマス、ソコ第一ニ吾々ノ憂フル所ハ、斯ノ如ク東京市ノ中央、而モ宮城ヲ距ルコト僅ニ數町ノ東京驛ニ於テ、屢、斯ノ如キ慘事ガ演出セラレト云フコトハ、先刻申上ゲタ如ク帝都ノ一大不安デアリマス、吾々帝都ノ住民ハ、重大ナル生命、自由、財產ト云フモノヲ何ニ依テ保護スルコトガ出來ルハ申ス云フ安ナク状態ニ陥ルハ已マラ得ヌコトデアル、帝都ハ申ス迄モナク政治ノ中心點デアリマス、政治ノ中心點デアル所ノ帝都ノ住民ガ、不安ヲ感ズルコト云フ事柄ハ、總テ我ガ日本帝國全體ノ不安デアルト云フコトヲ吾々ハ斷言シテ憚ラヌ者デアリマス(拍手)斯ノ如ク政治ノ中心タル三百萬ノ帝都ノ

住民ガ、生命、自由、財產ノ上ニ非常ナル脅威ヲ感ジ延テ全國ノ不安ヲ來シタト云フ事柄ハ、全ク我ガ内務行政ノ一部タル警察ノ不振ト云フコトヲ暴露シタモノデアルト、私ハ斷定致サケレバナラス(拍手)是等ノ點ニ付テ、吾々ハ屢、此壇上ニ立テ内務大臣ノ所見ヲ質問シ居ルデアリマス、此レドモ、未ダ會テ徹底シタル意見ヲ承ルコトガ出來ナイト云フコトヲ、私ハ遺憾ニ存ズルデアリマス、斯ノ如ク吾々帝都ノ住民ガ、非常ナル不安ヲ感ズルコト云フ事柄ハ、我ガ帝國ノ前途ノ爲ニ極大ニ憂慮スベキ事項ト存ジマス、承リタイノデアルマシ、先ヅ第一ニ承リタイノハ、原總理ガ東京驛ニ於テ暗殺ヲセラレタト云フコトハ、當時ノ新聞雜誌ニ依テ極テ詳細ニ報道セラレテ居リマスガ、併ナカラ其原總理ガ暗殺ヲセラレタル原因ニ付テハ、當局ノ責任アル言明ヲ承タコトガナイノデアリマス、荷モ大政黨ノ首領デアル、而モ時ノ内閣ノ總理大臣デアル所ノ原氏ガ、暗殺ヲセラレタト云フコトデアルマシ、ナラバ、内務當局ハ其司法上ノ責任ガ何レニ歸スルヤハ、暫ク司法權ノ解決ニ之ヲ委託スルコトヲ原因ハ、必ズ調査ヲ爲サルベキ筋合デアルト私ハ考ヘル、而シテ一國ノ總理大臣トモアラウ者ガ、公然東京驛ニ於テ殺害セラレト云フヤウナ事柄ハ、將來ノ政治家ノ以テ鑑トスベキ事項デアリマス、故ニ何故ニ斯ノ如キ重大ナル結果ヲ生ジタカト云フ事柄ハ、荷モ國民治安ノ責任ヲ雙肩シ擔ウテ居ル所ノ内務當局ハ、最モ詳細ニ此事項ヲ調査致シテ、再ビ斯ノ如キ慘事ノ國民ノ前ニ演出セラレルコトナキヤウニ御盡力ニ相成ルノガ私ハ當然デアル、斯ウ考ヘテ居リマス、而シテ原首相ハ如何ナル原因ニ依テ、暗殺ノ害ヲ被ラレタカト云フコトヲ、吾々ハ冷靜ニ考慮致シマス、ニ是ハ或ル新聞ノ記事等ニ依レバ、外來ノ危險思想ヲ抱懷致シテ居ル所ノ或ル團體ノ、教唆煽動スル所デアル、斯樣ニ傳ヘル者モアリマス、併シ事實進行ノ今日ニ於テ、其結果ヲ調査致シマス、今、全ク原首相ノ暗殺ハ、外來ノ思想ニ煽動セラレタルモノデモ、教唆セラレタルモノデモナイト云フコトハ、極テ明瞭デアリマス、共產主義ノ思想モ、無政府主義ノ思想モ、過激思想ノ事柄モ、一切此問題ニハ關係ヲ持テ居ラナイト云フコトガ今日明瞭デアル、隨テ何カ迷信ノ結果ヤタモデアルコト申シマス、左様ナ事柄モナシ、然ラバ原總理ノ暗殺シタル所ノ中圓良一ハ、知覺精神ノ上ニ何等カ異常ノアル者デアルカト云フコトヲ調査致シテ見ルニ、是亦完全ナル責任能力ヲ有スル者デアル、意恩ノ點ニ於テ寸毫モ缺點ノ無イ人デアル、刑法ヲ適用スル上ニ於テ、裁判官ハ毫モ考慮ヲ費スコトヲ要シナイ、完全ナル意思ヲ持テ居ル人デアルト云フコトモ極テ明瞭デアル、然ラバ多ク場合、人ヲ殺シ、人ヲ害スルコト云フ場合ニハ、私ノ憤懣惡恨ノ情ト云フモノガ、能ク其原因ヲ爲スモノデアルマスガ、原總理ト中圓良一トノ間ニ、斯ノ如キ私的惡恨ノ關係ガアルカト申シマス、是亦絕對ニ何等ノ關係モナイ

コトが明瞭デアリマス、斯ノ如ク詮じ來レバ、何ガ原因デアアル
カト云フコトが問題トナルノデアリマス、是ニ於テ私ハ中岡
良一ガ裁判官ノ前ニ於テ供述シタル其供述ノ一端ヲ、諸
君ニ御紹介ヲ申シテ、サウシテ政府當局ノ考慮ヲ爲サル、
資料ニ供シタイトスウ考ヘルノデアリマス、極テ簡單デアリ
マスカラ、朗讀致シテ置キマス、中岡良一ハ豫審廷ニ於テ、
裁判官ノ訊問ニ對シテ、斯ウ答ヘテ居リマス、問、政治問題
ニ付テハ何時頃カラ考ヘルヤウニナツタカ、答、昨年ノ五月
頃尼港問題ガ起テカラ政治方面ニ注意スルヤウニナリマ
シタ、問、ドナ風ニ考ヘタカ、答、尼港問題ヲ新聞雜誌デ
見テ政府ノ手拔リニ依テ彼様ヲ失政ヲ生ジタト憤慨シマ
シタ、ソレニ青島問題ニ關スル政府ノ交渉ガ頗ル消極的デ
アルト思ヒ、東京市疑獄事件ニ付テハ、畏多クモ明治神宮
參道不正工事ヲシタリ、又瓦斯疑獄ニ付、現ニ代議士トモ
フ言ハル、者ガ政黨ニ關係アル爲メ、採消運動ヲシタト云フ
新聞記事ヲ見、又相當ノ辯護人ガ犯罪ヲ辯護スルモノハ宜
イガ、犯罪ヲ免レルヤウナ方法ヲ教ヘタト云フコトナドハ、怪
シカラヌト思ヒマシタ、滿鐵事件ニ付テモ、半官半民ノ會社
ガ個人ヨリ故ラニ高ク買込、其何人ガ政友會ニ關係シテ
居ルト云フコトデアリ、阿片事件ニ付テハ、高官ガ賄賂ヲ賣
テ選舉ノ費用ニ供シ、内務次官トモ言ハル、者ガ、此國務
ノ忙シノイ勢神宮ヲ參拜スルコトハ宜イデスガ、伊勢神
宮參拜ノ序デアルト云ウテ、遙々熊本マデ行キ、政友會ノ人
ノ選舉應援運動ヲシタリ、福島ノ選舉デハ官憲ヲ以テ妨害
ヲシタリ、又華盛頓會議ノ大使ニハ平素軍備縮小ニ付テ
考ヘテ居ル島田尾崎ナドノ適任者ガアルハ、徳川内閣ヲ作ル
準備デアリ、彼様ナ事ヲ新聞雜誌デ見ル度ニ、現内閣ハ私
ヲス、怪シカラヌ政府デアルト思ヒマシタ、古賀、阿部、内
務次官、其他ノ者モ惡イト思ヒマシタガ、斯様ナ者ガ惡イ事
ヲシテモ、其儘打捨テ置クノハ、上ニ立ツ總理大臣ガ惡イト
思ヒマシタ、問、労働問題ニ付テハ別ニ考ヘナツタカ、答、
特ニ考ヘマセデシタガ、神戸ノ労働問題ガ起ツタ時、警官
ガ三菱、川崎等ノ金持ヤ政黨關係アル者ニ味方ヲシ、労働
者ハ亂暴スル者トキメテ拔劔シタナドハ怪シカラヌト思ヒマ
シタ、問、斯様ナ政治ニ對スル憤慨ニ付テ原首相ヲ殺スト云
フ考ハ何時頃持ツタカ、答、本年ノ夏以來只今申上ゲタヤ
ウナ批政ガ頗々トシテ起テ來タノデ、是ハ誰カガ原首相ヲ
斃スダラウ、斃セバ宜イガト思テ居リマシタ、誰カが原首相
ニシテ原首相ヲ斃サウトシタガ、失敗シタト云フ新聞見、
又原首相ヲ誰カ斃サウトシタガ、失敬シタト云フ新聞見、
ガ、若シ誰モヤラナクレバ自分ガヤラウト段々思フヤウニナリ
マシタ、問、愈、自分ガ手ヲ下シテ原首相ヲ殺サウト決心シ
タノハ、何時カ、答、前ニ申上ゲタ通り朝日平吾ガ安田善
次郎ヲ殺シタニ付、驛デ話ヲシタ、翌晩寢デカラ決心ヲ固メ
シマタ、斯ウ云フコトニテ居リマス、此豫審判事ニ對スル
中岡良一ノ答辯ハ果シテ中岡良一ノ答辯ガ誤テ居ルカ
居ラヌガト云フコトハ、私之ヲ茲ニ論議スルノ自由ヲ有シマ

セヌ、宛ニ角時メク政友會ノ總裁原敬氏ヲ東京驛頭ニ於
テ暗殺シタル中岡良一ハ、斯ク政治上ノ原因ニ依テ暗殺
シタノデアルト云フコトヲ、裁判官ノ前ニ公言致シテ居ルト
云フ事柄ハ、政友會ノ諸君モ、現内閣ノ諸公モ、大ニ考慮
ヲセラレナクレバナラヌ事項デアルト云フコトヲ私ハ申ス、資
料ニ供スルノデアリマス、(拍手)斯ノ如ク政治上ノ理由ヲ以
テ中岡良一ハ原首相ヲ殺シタノデアルカ、此中岡良一ノ考
ガ間違タカ、ドウカハ姑ク別問題ト致シテ、吾々モ中岡良
一ノ行為ニ共鳴スル者デアリマセヌ、然レドモ原内閣ノ時
代ニ於テ、第一普通選舉ヲ阻止スルノ目的ヲ以テ、民意ヲ
知ルノ必要アリト稱シテ、帝國議會、即チ衆議院ノ解散ヲ
致シタト云フ事柄ハ、何トシテモ民衆ノ反對ヲ買フベキ一ツ
ノ原因デアルト云フコトヲ私ハ斷言シテ置ク、阿片事件ノ豫
審終結決定書ヲ拜見致シマスレバ、古賀長官ノ罪跡ハ裁
判官ノ責任ヲ以テ署名ヲシテ居ル、公表文書ニ於テ明瞭デ
アル如ク、其犯罪ハ今日此席デ申ス必要ヲ認メマセヌガ、兎
ニ角諸君モ御承知ノ通り、數年前ニ廣東政府ノ紙幣ヲ偽
造シタリト嫌疑ノ下ニ、東京地方裁判所ノ檢事局ノ起
訴スル所トナリ、第一審ニ於テ自由刑ノ裁判ヲ受ケテ、東京
控訴院ニ控訴シタル結果、兎ニ角無罪ニハナツタレドモ、ソ
レハ證據不十分ノ結果無罪ト云フコトノ宣告ヲ受ケテ居
ルニ過ギナイ、兎ニ角前科トハ申シマセヌガ、非常ナル罪惡
ノ嫌疑ヲ受ケテ、社會ノ觀察スレバ立派ナ政治家ノ前科
ノアル人間デアタル謂ハナクレバナラヌ(拍手)其惡名紛々
タル古賀廉造氏ヲ、處モアラウニ再ビ拓殖局長官ノ顯職ニ
推薦ヲ致シタト云フ事ハ、私ハ時ノ總理大臣原敬氏ハ、上
天皇陛下ニ對シテ古賀廉造ヲ推薦シタル事ノ顛末ニ付
テノ責任ヲ感ゼラレナクレバナラヌト云フ事ヲ、私ハ茲ニ斷
言ヲスルノデアル(拍手)又古賀長官ノミナラヌ、阿部府知
事ノ推薦ハ如何デアリマス、阿部府知事ノ今回ノ事件以
前ノ事ハ、私ハ此處デ言明スルノ必要ヲ認メマセヌガ、東京
府知事ニ再ビ任命セラレテ以來、阿部府知事ノ公人トシ
テノ行動ト云フモノハ、到底吾々東京府民、東京市民、否
國民ノ之ヲ承認スルコトヲ得ザルモノガ澤山アリマス、殊
ニ瓦斯問題ニ付テハ御承知ノ通り警視廳ノ高等官デアル所ノ
熊谷巖カラ、郡部ノ瓦斯料金値上認可ノ一日モ速クナラン
コトノ請託ヲ受ケテ、サウシテ某待合ニ於テ五千圓ノ小切手
ヲ提供ヲ受ケタト云フコトノ事實ハ極テ明瞭デアリマス、此
五千圓ノ小切手ヲ提供ヲ受ケタル際ノ顛末ハ、是亦諸君
ハ新聞紙ニ依テ御承知デアラウト考ヘマスガ、言下ニ之ヲ
排斥スルコトヲ爲サズシテ、明日午前十時ニ官邸ニ來レト、斯
ノ如ク裁判官ノ前ニ供述ヲ致シテ、總ニ檢舉ヲ免レテ居ル
ノデアリマス、阿部府知事熊谷保安部長トハ彼所ハ異
テ居リマス、同ジ持テ我ガ帝國ノ高位高官ノ人デアリマス
ニシテ最モ公平デアリ、最モ廉直ノ士デアラナラバ、此五千
圓ノ提供ヲ受ケタル際ニ、明日午前十時ニ官邸ニ來レト言

フヨリモ、言下ニ之ヲ叱責シ之ヲ斥ケ、而シテ相當ナル官紀
肅正ノ手段ヲ執ルト云フノガ、阿部府知事ノ執ルベキ途デ
アラウト私ハ考ヘルノデアリマス、(拍手)吾々ハ此五千圓ノ
顛末ニ付テ、若シ明朝午前十時ニ熊谷保安部長官邸ニ
行キシナラバ、ドウナツタノデアラウト云フコトニ付テ、今日
之ヲ考ヘテ見マス、甚ダ怪訝ニ堪ヘナイノデアル(拍手)斯
ノ如キ人ヲ推薦ヲ致シテ、斯ノ如キ事柄ガ原因トナリ結果
トナレ、サウシテ東京市ノ所謂瓦斯事件、即チ疑獄事件ト
云フモノヲ惹起シテ居ルノデアル、之ニ付テ上長官デアル所
ハ無責任ノ極デアリ、斷言シテ置ク、阿片事件ノ豫審、原
總理大臣ハ此議會ニ於テ義勇奉公ノ念慮ガ國民ノ間ニ減
退シ、アルト云フ事柄ヲ聲明セラレテ居リマシタガ、國民
ノ義勇奉公ノ精神ガ減退スルコト云フ事柄ハ、其貴國民ニモ
在ルカモ存ジマセヌガ、荷モ天下ノ政柄ヲ握テ居ル所ノ一
國ノ總理大臣ガ、官吏ノ任命ニ付テモ、其他部下ノ官吏ノ
爲ニ爲シタル罪跡ニ付テモ、一モ責任ヲ負荷セズシテ、サウ
シテ願ミテ他ヲ言フガ如キ態度アルト云フコトハ、綱紀紊
亂ノ實原首相ニ在テ、國民ノ義勇奉公ノ念慮ノ原因ハ、
原總理大臣自ラ之ヲ造タモノデアルト私ハ斷言スル者デ
アル(拍手)吾々ハ斯ノ如キ事柄ガ原因トナレ、中岡良一ガ
遂ニ東京驛頭ニ於テ之ヲ暗殺シ、而シテ帝都三百萬ノ住
民ノ不安ヲ惹起スルヤウナコトニナツタモノト認メルノデアリ
マス、果シテ政府當局ハ左様ニ認メルカドウカ、若シ左
様ニ認メルナラバ、此事項ニ付テ如何ナル責任ヲ執ルカ、一
二ノ下級ノ警察官ヲ譴責シタリ處罰シテ、ソレデ此責任ガ
濟ムトハ私ハ信ジナイ、直接ノ責任ヲ負フベキ者ハ警視總監
デアルト私ハ考ヘル、道路傳傳所ニ依レバ、警視總監ハ此
問題ニ付テ責任ヲ引イテ進退伺ヲ出シタト云フ、或ハ辭表ヲ
出シタト云フコトガ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、果シテ
今日依然トシテ警視總監ノ職ニ在ルト云フコトハ、果シテ
如何ナル原因デアアルカ、疑ニ関元植ノ事アル、今又政友會
ノ總裁ガ暗殺セラレテ、サウシテ現内閣ノ諸君ガ平然トシテ
雲煙過眼シテ居ル、又二百八十ノ黨員ヲ有シテ居ル所ノ政
友會ノ諸君モ、諸君ノ最モ尊敬ヲセラレル、否或ル程度マデ
我ガ大日本帝國ノ國民ガ尊敬シテ居ル所ノ原總理大臣ガ
暗殺セラレタ、其責任者ヲ問責スルコトガ出來ヌト云フノハ、
何タル現氣地ノ無キコトカト私ハ思フノデアリマス、(拍手)是
ハ獨リ現内閣ノ責任ノミナラヌ、私ハ政友會ノ諸君モ亦此
點ニ付テ責任ヲ負擔セラル、必要ガアルト考ヘルノデアリマ
ス、(拍手)此原因――此責任ニ付テ政府ノ御意見ヲ承リタ
イ、原因果シテ斯ノ如シセバ、後ノ總理大臣トナリ、後ノ政
治家タルベキ者ハ、之ヲ以テ鑑トスベキ必要ガアルト、斯ウ
信ズルノデアリマス、ソレカラ第二ニ御尋フ致シテ置キタイノ
ハ、此從來ノ高位高官ノ人ニ對スル取柄ハ、如何ナル方法
ヲ以テヤテテ居ルコト云フコトデス、是ハ閣元植ノ暗殺セラ
レタ當時ニモ、私ハ政府當局ニ質ス所ガアリマシタガ、唯尾
行ノ巡查ヲ附ケテ置イタト云フ、警護ノ警察官ヲ附ケテ置イ

タトカ云フガ如キ、無責任極マル答辯ヲナサレテ、責任アル答辯ヲ避ケテ居ラレマスガ、從來一體斯ウ云フ帝國ノ憲法政治ヲ運用スル上ニ於テ、最も尊敬シナケレバナラヌ一黨ノ總裁アリ、或ハ總理大臣デアルト云フ人ニ對シテ、如何ナル警護ノ方法ヲ講ジテ居タク、如何ナル取締ノ方法ヲ講ジテ居タクト云フコトヲ私ハ聴キタイノデアリマス、尙ホ進シテ之ニ關聯シテ承ナケレバナラヌコトハ、將來ヲドウスルカト云フ問題デアリマス、今警視總監ノ指揮ノ下ニ在ル所ノ警察官ハ、實ニ一萬二千二百有餘ノ多キニ達シテ居リマス、サウシテ帝國ノ總理大臣トシテ、一國ノ政治ノ樞機ヲ握テ居ル所ノ政友會ノ總裁ガ、最も平安デアルベキ東京驛頭ニ於テ暗殺セラレタ、此一萬二千二百有餘人ノ警察官ハ、何ヲ致シテ居ラデアルカ、果シテ此一萬二千二百有餘人ノ警察官ヲ以テシテモ、斯ノ如キ慘事ヲ豫メ防止スルコトガ出來ヌト云フノナラバ、將來大ニ經費ヲ増加シ更ニ又人員ヲ増加シテ、サウシテ斯ノ如キ事ノ再ビ起ラザルコトヲ注意スルノ必要ガアルト考ヘルノデアリ、此點ニ付テ如何ナル考慮ノ用意ト爲サレテ居ルノデアリマスルカ、ソレヲ承ラントスルノデアリマス、第三ノ事項トシテ承リタイノハ、質問書ニ其要領ヲ盡シテ置キマシタ通り、私ノ意見ハ警視廳ヲ斷然此際廢止スベシト斯ウ云フノデアリ、警視廳ヲ廢止シタコトヲ申シテモ、警視廳ノ警察事務ヲ全然拋擲シテ顧ミルコトヲ要セヌト言フノデアリマス、各府縣ノ官制ト同ジク、之ヲ府知事ノ手ニ一任スルコトモ一ツノ方法デアリ、又或ル論者ノ主張スル如ク、之ヲ東京市長ノ手ニ移スト云フノモ、一説デアリ、其孰レヲ執ルモ、必シモ私ハ此際議論ヲスル譯デアリマセヌケレドモ、吾々ガ警視廳廢止ヲ唱フル所以ハ第一ニ感情ノ上カラ私ハ左様ニ申ス……

○副議長(柏谷義三君) 横山君ニ注意致シマスガ質問ノ要旨ヲ成ベク……

○横山勝太郎君(續) 宜シウゴザイマス、警視廳ト云フ言葉ヲ聴クト吾々ハ何トナク異様ニ感ジガ致シマス、ソレカラ警視廳ノ廢止ヲ政府ニ建言シ、又政府ノ意見ヲ尋ヌル上ニ於キマシテ、第一ニ申上ケナケレバナラヌノハ、從來警視廳ガ警視廳トシテ如何ナル功績ガアツタコト云フコトデアリマス、吾々ノ見ル所ヲ以テスレバ、警視廳ハ從來民衆ノ運動ヲ妨害シ、若シハ民論ノ抑壓ヲヤデ、不當ニ人権ノ蹂躪ヲ致シタコト云フ事實ハ、極テ明瞭デアリマセケレドモソレ以外ニ何等ノ功績ヲ認ムルコトガ出來ナイ(拍手)若シ強テ警視廳ナル特別ノ高等警察機關ニ功績ガアリシト主張スルナラバ、纔ニ内閣ノ高等ボーイヲ勤メタコト云フニ過ギナイト私ハ考ヘル(拍手)御承知ノ如ク警視總監ハ内閣ニ直屬スルノ所以ヲ以テ、内閣ノ更迭スル毎ニ警視總監モ

同時ニ更迭スルノデアリマス、此故ニ警視總監トシテ帝都公安ノ維持ニ對スル重大ノ責任ヲ持ッテ居ル警視總監ハ、帝都ノ住民ノ保護ト云フヨリモ、寧ロ内閣擁護ヲ以テ其職責ヲ致シテ居タクト云フ事柄ハ、蔽フベカラザル事實デアリ、申スマデモナク我ガ帝國ノ警察機關ハ帝國ノ警察機關デアリ、吾々國民ノ警察機關デアルト私ハ斯様ニ考ヘル、其帝國ノ警察機關デアリ、又國民ノ警察機關デアルベキ重大ナル任務ヲ持ッテ居ル警視總監ガ、其本來ノ任務ヲ忘レテ時ノ内閣ノ鼻息ヲ窺フ、内閣ノ耳目トナリ、内閣ノ走狗トナテ、纔ニ内閣ノ高等ボーイ、内閣保護ノ職責ニノミ没頭致ス事柄ハ、是ハ警視廳ヲ廢シタガ宜シト云フ重大ナル根據ト私ハ信ズルノデアリ(拍手)私ハ警視廳當局ニ問ハン、又警視廳ヲ監督ヲ致シテ居ル内務大臣ニ問ハン、大正九年六月二十九日午後九時數十分ノ頃、即チ第四十三議會、臨時帝國議會ノ召集セラレタル當時、衆議院ノ正門ニ爆彈ヲ投ジタル犯人ノアルト云フコトヲ御記憶デアリマセヌ、最も自由デアリ、最も神聖ヲ尊ブ所ノ民論ノ府デアリト云フ事柄ハ、我ガ帝國ノ憲法史上洵ニ吾々ハ大ニ會威ヲ感ジ、又憲法史上フ一大汚點デアルト斯様ニ考ヘル、其犯人ハ未ダ以テ之ヲ逮捕スルコトガ出來ナイノデアリ、私ハ會テ一言致シタコトガアル通り、政友會ノ本部ニ放火シタル犯人ハ、直ニ之ヲ檢舉スルコトガ出來タガ、一國ノ立法府デアリ、此神聖ナル衆議院ノ正門ニ爆彈ヲ投ジタル犯人ガ捕ラヌト云フコトハ、是ハ警視總監ノ無能無力ノ致ス所デアルト、私ハ斷言致スノデアリ(拍手)左様ニ無能無力ナ者ヲ獨立ノ高等警察機關トシテ存續セシムル事ノ必要ハ認メマセヌ、今ノ警視總監、今ノ警視ノヤル位ノ事ハ、之ヲ東京府知事ノ管轄ニ歸屬セシメテモ、私ハ十分出來ルト者ヘマス、否、十分出來ルノミナラズ、内閣ノ直屬デアルト云フ事ノ關係ヲ離脱スル關係上、東京府知事ガ時ノ政爭ニ卷込マレズシテ、時ノ政事運動ニ超越シテ其任務ヲ執ルコトノ出來ル關係上、寧ロ東京府知事ガ此權利ヲ持ッテ居ラタガ公平ニ其職務ヲ實行シテ行クコトノ出來ル便利ガアルト私ハ斯様ニ信ズルノデアリマス、斯ノ如ク警視廳ノ歴史ハ最も忌ムベキ歴史デアリ、元來警視廳ナル特別ノ高等ナル警察機關ト云フモノヲ設ケタル理由ハ、數世紀前歐羅巴各國ガ警察本位ヲ以テ政治ヲ致シタ時代ガ、如クニシテ歴史ノ上ニ所謂警察國時代ナルモノヲ造リ出シタノデアリマス、併ナガラ十八世紀、十九世紀ニ及ンデ、警察本位ヲ以テ政治ヲスルコトハ宜シクナイ、警察ハ軍事、財政、司法、斯ノ如キモノト獨立シテ内務行政ノ一部トナル

ベキモノデアルト云フ思想ガ起ッテ參リマシテ、今日デハ警察國時代ノ思想ト云フモノガ歐羅巴各國ニ無イノミナラズ日本帝國ニモ左様ノ思想ガアツタハナラヌノデアリマス然ルニ我ガ帝國ノ法制ハ何ノ必要アリテカ、何ノ見ル所アリテカ、十六、七世紀時代ノ歐羅巴各國ニ行ハレタル警察國時代ノ舊思想ニ因ハレテ、サウシテ内閣ノ手足トナテ勤ク高等警察機關タル警視廳ヲ存置シテ居ル事柄ハ是レ、全ク時代錯誤ノ思想ニ基クモノデアルト、私ハ斷言スルノデアリマス、斯ノ如キ次第ゴザイマスカラ、此改造ノ時期ニ當リテ、從來數十年ノ間、民衆ノ敵トナッテ民論ノ抑壓ヲ爲シタル以外、何等ノ功績細カリシ國民ノ側カラ見テ、異様ニ感ジヲ起ス舊思想ニ基ク遺物デアリ、警視廳ノ如キハ今日斷然之ヲ廢止スルコトガ、此改造ノ時期ニ對スル第一策デアラウト感ズルノデアリマス、此事項ヲ政府ニ質問致シテ、成ベク寧丁ナル答辯ヲ得タイト考ヘマス、之ヲ以テ壇ヲ降リマス(拍手)

〔政府委員松田源治君登壇〕

○政府委員(松田源治君) 私ハ横山君ニ答辯致シマス、今内務大臣ガ貴族院出席中デアリマスカラ、私ヨリ御答致シマシテ、其足ラナイ所ガアリマシタナラバ、他日或ル機會ニ於テ内務大臣ガ、又直接ニ答辯致スデゴザイマセウ、此帝都ノ公安ノ維持ニ關シマシテ、政府ハ常ニ必要ナル施設ヲ講ジマシテ、深甚ナル注意ヲ以テ其任ニ當リテ居ルニ拘ラズ、第二中閣ト云フ一青年カ、矯激無謀ノ行動ヲ敢テシマシテ、時ノ内閣總理大臣原敬氏ヲ殺害スルニ至ッタルコトハ、最も遺憾トスル所デアリマス、此原因ニ付テ豫審調書等ヲ朗讀セラレマス、横山君ハ質問サレマシタガ、本件目下裁判進行中デアリマス、此裁判結果ヲ待チマスレバ、彼ガ如何ナル信念ヲ以テ時ノ内閣總理大臣原氏ヲ殺害シメタコト云フコトモ、明カニナルコトデアラウト考ヘルノデアリマスカラ、如何ナル原因ニ依ッテ中閣某ナル者ガ、時ノ總理大臣ヲ殺害シタコト云フコトニ付テハ、今日ハ是ハ答辯スルノ必要ハナカラウ、裁判ノ結果ニ依ッテ明カニナルコトデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、而シテ其責任者ハ目下ソレノ懲戒處分ニ廻ハシテアルノデアリマスカラ、其懲戒處分ノ結果ヲ待テ、ソレノ職務上過失ガアレバ懲戒サレルコトデアラウト考ヘル、今ハ責任者ハソレノ懲戒處分ニ廻サレマシテ、進行中デアリマス、ソレカラ内閣總理大臣ノ護衛ニ付キマシテハ、政府ハ殊ニ注意致シテ居ルノデアリマスガ、其護衛ニ付テ不注意ガアツタ、或ハ護衛ガ十分アレバ、云フヤウナ不祥ノ事件ハ起ラナカッタドウカト云フコトモ、是モ今懲戒處分ノ進行中デアリマスカラ、其結果ニ依ッテ果シテ護衛其モノガ不十分デアツタカ、護衛ガ十分デアレバ、ア、

云フ不祥ノ事ハ起ラナイモノデアリカト云フコトニ付テハ、其結果ニ於テ明瞭スルコト、私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ帝都ノ治安維持ニ關シテハ、政府ハ常ニ監視廳ヲ督勵致シテ十分努力致シテ居リマス、今回アリマシタル事件等ニ鑑ミマシテ、一層時勢ニ順應スル適當ナル處置ヲ講ジマシテ、究竟帝都ノ秩序保持ニ違算ナキヲ期シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、以上申上デマシタヤウニ、帝都ノ治安ニ付キマシテハ、十分ナル警察力トノ運用スルコトニ付テ、深甚ノ注意ト敏速ナル活動トヲ要シマスカラ、是ガ爲ニハ一般内務行政ノ局ニ當テ居ル所ノ知事以外ニ、別ニ警察ノ首腦者ヲ置キマシテ、専心其街ニ當ラシムルコトガ必要デアルト考ヘルノデアリマス、隨テ政府ハ帝都ニ於ケル特別警察機關タル監視廳ヲ廢止スル意思ハナイノデアリマス、又此衆議院ノ前ニ爆彈ヲ投ジテ其犯人ガ今日マデ分ラヌト云フコトハ、政府ニ於テモ非常ニ遺憾ヲ感ズルノデアリマス、嚴重ニ捜査進行致シテ居ルノデアリマステレドモ、今日マデ何人ガ犯人デアリカト云フコトノ明瞭シナイノハ遺憾デアリマスガ、斯ル一事ヲ以テ監視廳ヲ廢止スルト云フコトニモナラナイと思フノデアリマス、ソレカラ世界各國ニ監視廳見タヤウナ制度ハ無イト云フコトデアリマシタガ、私ノ調ベマシタ所ニ依リマスレバ、巴里ニモ特別ナル警察機關ガアリマス、伯林ニモアリマシタ、今ハドウナテ居ルカ知レマセウガ、前ニハアリマシタ、是ハ日本特有ノ制度デアリマセウ、要スル政府ハ帝都ニ於テハ特別ナル警察機關アルコトヲ必要ト致シテ居リマスカラ、今日監視廳ヲ廢止スル意思ハアリマセウ、是ダケ御答シテ置キマス

○横山勝太郎君 極テ簡單デアリマスカラ、此席カラ發言ヲ御許願ヒマス、只今松田參事官ノ御答辯ノ中ニ、關係者ヲ懲戒處分ニ付シテ居ル、ソレト審議中デアルト云フ御答辯ガアリマシタガ、私ノ質問ノ主旨ハ下級ノ官吏ヲ懲戒處分ニ付スルト云フヤウナコトヲ以テ満足スル趣旨デアリマセウ、監視總監ヲドウスルカ、監視總監ノ責任ヲドウスルカ、斯ウ申シタノデアリマス、サウスルト監視總監ヲ懲戒處分ニ付シタト云フコトニ諒解シテ宜シウゴザイマス、更ニ進ンデ承リタイノハ、私ハ監視總監ノ懲戒處分ノミヲ以テ満足スル者デナイト云フコトモ、先刻ノ演說中ニ述ベタ答デアリマス、然ラバ何ヲ望ムカト云フト、即チ内務大臣ノ責任ヲドウスルカ、警察ハ御承知ノ通り、内務行政ノ一部デアル、内務行政ノ最高ノ位置ニ居ル所ノ内務大臣ハ、當然其責任ヲ負ハナラヌト私ハ考ヘル、其内務大臣ノ法律上責任、或ハ政治上ノ責任ヲドウスルカト云フコトヲ承リタイノデアル、徹々タル警察官ヲ懲戒處分ニ付スルト云フヤウナコトハ、決シテ帝都ノ公安ヲ維持スル方法デナイ、帝都

ノ住民ノ不安ヲ除去スル方法デナイト私ハ思フ、内務大臣ヲシテ政治的ノ責任ヲ負ハシメルト云フコトガ、即チ吾々住民ノ生命、自由、財産ヲ保護スル所以デアル、又帝都居住氏ノ不安ヲ除去スル所以デアル、斯様ニ信ズルノデアリマスガ、其點ニ對スル政府ノ御意見ハ如何デアリマス、之ヲ伺ヒタイ、其次ニ承リタイノハ、今尙尙懲戒處分ノ進行中デアルト云フコトデアリマスガ、ソレバ餘リニ緩慢ニ失セズヤ、昨年未ニ起ラタ事デアル、ソレヲ二月ノ二十日ヲ過ギテ居ルニ、マダ詮議中デアルト云フニ至テハ、現政府ノ帝都治安維持ニ關スル觀念ガ極テ稀薄デアッテ甚ダ冷淡不深切デアルト言ハネバナラスと思ヒマス、私ハ之ヲ緩慢ナリト考ヘマスガ、其點ニ付テ御答辯ヲ要求致シマス

○政府委員(松田源治君) 御答致シマス、横山君モ御承知デアリマセウガ、懲戒處分ノ範圍ハ秘密デアリマス、結果ハ公表致シマスレドモ、今ハ懲戒處分ニ付シテ居リマスカラ、如何ナル人ヲ懲戒處分ニ付シテ居ルカト云フコトニ付テハ此處デ明言スル限リデアリマセウ、ソレカラ内務大臣ノ責任ノコトデアリマスガ、是ハ私カラ答ヘルト云フコトハ間違テ居ルカ知レマセウ、私ハ此點ニ付テ内務大臣ガ、辭職シテ責任ヲ負フ所ノモノデナイト云フコトヲ考ヘテ居リマス、ソレカラ緩慢デアルトカ、緩慢デナイトカ云フコトハ、是ハ各人ノ考ヘ次第デアリマスガ、政府ハ其事ハ進行中デアリマシテ、決シテ緩慢デナイト認メテ居リマス

○副議長(粕谷義三君) 次ハ礦業被害ニ關スル質問、古賀三千人君

五 礦業被害ニ關スル質問

礦業被害ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年一月三十一日

提出者 古賀三千人 賛成者 石井 研二

外二十九人

礦業被害ニ關スル質問主意書

近時礦業ノ發展ニ伴ヒ煙毒、礦毒水ノ被害、炭礦採掘ニ因ル土地陷落ノ損害ハ礦業地帯ニ於ケル住民ニ對スル一大脅威ヲ來シツアリ政府ハ之ニ對シ救済ノ方法ヲ如何ニセムトスルヤ

右及質問候也

(古賀三千人君登壇)

○古賀三千人君 諸君、礦業ノ被害救済ヲ如何ニスルカト云フ問題ハ、國家ノ産業上カラ見マシテモ、又入道上カラ見マシテモ、極テ重大ナル問題デアルト信ズルノデアリマ

ス、故ニ私ハ産業上、入道上、極テ重大ナル問題ニ對シ、政府ノ所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、近時礦業ノ發展ニ伴ヒ、煙毒、礦毒水ノ被害、石炭採掘ニ依ル土地ノ陷落等ノ被害ハ、實ニ甚シイノデアリマス、就中最モ悲惨ナル實例ハ、此九州ノ筑豊炭田地方デアリマス、同地方ハ往年炭價ノ未曾有暴騰ニ際シテ、盛ニ採掘ガ行ハレマシタル爲ニ、頓ニ其被害ノ度ヲ高メ、耕地ノ陷落ハ勿論、住宅地ノ傾斜陷落、又溜池ノ溜濁、道路、水路ノ陷落、障害、又井戸ノ變質、溜濁、洗堀ノ陷落、煙害、礦毒水ノ流入、其他ノ土地ニ對シマシテモ、其被害ハ實ニ甚シイノデアリマス、精神上、物質上、關係地方ニ於キマシテハ、多大ノ被害ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、即チ福岡縣ノ如キハ其被害ガ全縣下ニ及ボシテ居ルノデアリマス、其中ノ最モ甚シイ遠賀、鞍手、嘉穂、田川ノ四郡ニ於ケル調査ノ大體ヲ申上デマスレバ、耕地ノ陷落ノ反別ハ、大正六年ニハ八百八十六町二反、大正八年ニハ三百三十七町五反、大正九年ニハ四百二十町二反、礦毒水ノ流入ノ被害ハ、大正六年ハ五百四十四町三反、又大正八年ハ百三十三町四反、大正九年ハ二百八十町二反デアリマス、此減收高ヲ計算致シマスレバ、米ニ於テ三萬四千二百九十六石、麥ニ於テ三萬四千八百二十四石、其見積價額ニ於キマシテ、百二十二萬四千八百九十圓、又麥ノ減收額ハ十五萬四千五百圓、更ニ又家屋ノ傾斜陷落ガ四千四百六箇所、井戸ノ變質、溜濁ガ二千七百七十箇所、又溜池ノ溜濁ガ八十六箇所、道路、水路ノ陷落ハ、八百八十四箇所デアリマス、而シテ財界不況後ニ於ケル土地ノ陷落ハ、又實ニ夥シイノデアリマス、斯ノ如キ有様デアリマスルカラ、之ヲ最近ノ詳シイ調査ガ出來上リマスレバ、福岡縣一縣ニ於キマシテモ、裕ニ千萬圓以上ニ其被害ハ達スルノデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、況ヤ全國ニ通ジテ此被害ヲ通算シマシタレバ、實ニ甚大デアルト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ政府ハ斯ノ如キ多數住民ノ利害休戚ニ係ル此問題ヲ、如何ニ救済セラレントスルノデアリマスルカ、此點ニ付テ私ハ承リタイノデアリマス、又次ニ承リタイト考ヘマスルノハ、現在ノ礦業法ハ我國ノ幼稚ノ時代ニ、礦業者ニ頗ル有利、所謂保護獎勵ノ二極テ有利デアリマシテ、被害者ニ對シテハ、何等考慮ヲ拂テ居ナイと思フノデアリマス、是等ハ全ク法ノ缺陷デアリマスルガ故ニ、時代ノ要求ニ應ジテ速ニ礦業法ヲ改正シテ、住民ノ生存權ノ確立、又國土ノ保安上損害ノ賠償ニ對スル條項、及礦業ノ中止後ニ於ケル責任等ニ關シテモ、之ヲ明記シテ完全ナル礦業法ヲ改定セラレナケレバナラスト云フ事ヲ私ハ信ズル者デアリマス、故ニ大正八年ノ二月ニ帝國農會ハ主務省ニ建議ヲ致シ、又大正八年ノ三月ニハ郡及縣ノ農會長、又

大正八年ニハ關係町村農會長ヨリ、被害ノ狀況ヲ具シテ政府ニ陳情ヲ致シテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ハ今日マデ斯ノ如キ重大ナル問題ニ對シ、何等適當ノ施設ヲ爲サナイト云フコトハ、私ハ甚ダ奇怪千萬デアルト思フノデアリマス、故ニ私ハ昨年本院ニ於テ、之ニ關スル質問書ヲ提出致シマシタル所、政府ハ極テ簡單ナル答辯書ヲ交付サレマシタナラス、觀察點ニ於キマシテ事實ト大ニ相違ヲ致シテ居ル點ガアルノデアリマス、昨年政府ノ交付セラルマシタ答辯書ノ見マシレバ、斯様ニ書イテアリマス、石炭礦業ニ關スル礦業者ト、被害者トノ間ニ、土地ノ陷落ニ付テハ其土地ヲ買收シ、又ハ復舊ニ要スル費用ヲ辨償シ、若クハ收益ノ減少ニ對シテ補償等ヲ爲スヲ常トシ、尙ホ當事者間ニハ概シテ圓滿ナル解決ヲ見ルヲ常トスル、斯様ニ中サレテ居ルノデアリマス、私ハ遺憾ナガラ圓滿ナル解決ヲ致シタル事實ヲ見ナイノデアリマス、又或ル礦業者ノ如キハ、此悲惨ナル狀況ニ堪ヘ兼テ要求ニ應ジテ、多額ノ金ヲ拂フ者モアリマス、是ハ決シテ補償ニ足ルモノデアリマセヌ、又多クノ礦業者ハ如何ニ要求致シマシモ、又如何ニ事情ヲ説イテ哀訴嘆願ヲ致シマシモ、更ニソレヲ顧ミナイノデアリマス、礦業者ト被害者ノ間ニハ、常ニ紛擾ガ絶エナイヤウナ事實ガアルノデアリマス、又昨年答辯書ノ末項ニハ、斯様ナ事モ書イテアリマス、然ルニ一般産業ト礦業トノ關係ニ付テハ、大ニ考慮ヲ要スルモノアルヲ以テ、農商務省ハ既ニ被害調査委員ヲ設ケ且ツ來年度豫算ニ於テモ是ガ費用ヲ計上シ以テ十分調査ヲ遂ゲ適當ナル措置ヲ執ラントス、ト斯様ニ申サレテ居ルノデアリマス、成程本年ノ豫算ヲ見マシレバ、礦害調査費ト云フモノガ一万七千二百圓計上シテアリマス、其内譯ヲ見マシレバ、奏任官費ガ六千四百圓、判任官俸給ガ三千圓デアリマス、又廳費ガ二千二百五十圓、旅費ガ二千四百圓、雜給雜費ガ三千五百五十圓ニナッテ居リマス、之ヲ見マシレバ、奏任官ガ一名若クハ判任官ガ三名位デハナカト私ハ思フノデアリマス、斯ノ如キ小額ノ經費ヲ以テ、斯ノ如キ少數ノ役人ヲ以テ、是ガ救済ヲ速カニスルト云フ、果シテ御考ガ私ハ疑フニ甚ダ堪ヘナイノデアリマス、故ニ私ハ政府ニ對シテ此質問ノ要點ヲ三項ニ別ケテ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、政府ハ現在ノ礦業被害ヲ救済スルニ如何ナル方針ヲ有セラル、ノデアリマス、又第二ニ現在ノ礦業被害ニ對シ、政府ハ本年度豫算ニ計上セラレタル如キ微細ナル經費ト少數ナル役員ヲ以テ、是ガ救済ヲスルニ十分ナリト信ジラレマス、カドウカ、其邊ニ付テ承リタイノデアリマス、第三ニハ現行法ヲ改正シ、時代ノ要求ニ應ジテ完全ナル礦業法ヲ制定セラレマス、ノ意思ガアルカドウカ、此三點ニ付テ政府ノ深切ナル御答辯ヲ承リタイト思フノデアリマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 田中農商務次官

○政府委員(田中隆三君) 御答申上デマス、只今北九州ノ炭礦地方ニ於ケル被害ノ事ニ付キマシテ、三項目ニ別テ御質問デゴザイマシタガ、此礦業ト其他ノ産業トノ利害衝突ノ事ニ付キマシテハ、當局ニ於キマシテハ始終考慮、調査研究ヲ致シマシテ、出來ル限リ其間ニ立ッテ圓滿ナル解決ヲ告ゲルコトニ努メツ、アリマス、譯デアリマス、而シテ只今御前ノ如ク、大地域ニ亘リテ所謂被害場所ノアルト云フコトハ事實デアリマス、併ナガラ其實際ノ被害區域ノ數字のニ現ハスコトニ於キマシテハ、農會ノ調、縣廳ノ調、或ハ地方礦業組合ノ調等、各々異ナル點ガアリマシテ、一致シテ居リマセヌ、サリナガラ其何故ニデス、ソレ等ノ被害地ガ復舊セラレズ、其儘ニ殘テ居リマスカト云フコトニ付キマシテハ、色々ナ事情ガアルノデアリマス、其主ナル事ヲ分類致シテ見マシルト、被害地ノ通常御觀察等ニ赴カレテ、此被害ハドウモ酷イト云フ風ニ目ニ著クヤウナ所ハ、礦業人ガ既ニ賠償シテ、礦業人ノ所有地ニナッテ居ル所ガ澤山アルノデアリマス、唯其被害地ヲ御觀察ニイラシヤルト、此處ハ被害地デアル不毛ナ土地デアルト云フノデ、驚カレル方ガアリマス、ケレドモ、併ナガラソレハ所有者ト礦業人トノ間ニ話ガ著イテ、所謂土地ノ代價ヲ拂、テシマツタ後ナノデ、復舊スルコトハ利益ナラズト認メテ、捨、テアルノデアリマスカラ、是ハドウモ所有權ノ法規ノ上ニ於テ致方ガナイノデアリマス、第二ハ礦業權者ノ所有ニハ屬シマセヌケレドモ、土地所有者ノ方ガ賠償金ヲ取ツケレドモ、其賠償金ヲ外ニ有利ナル事業ナリ何ナリニ流用シテ、自ラ其復舊工事ヲ爲サナイノデアリマス、是モドウモ所有者ノ自由デアリマスカラ、外カラハ強制的ニドウサセルト云フ譯ニハイカヌ、ソレカラ根本的ニ只今申上ゲルヤウニ或ハ礦業權者ガ之ヲ買取ルカ、或ハ土地所有者權者ガ一時ニ賠償ヲ取ルト云フコトデナシニ、年々其被害ノ場所ヲ現場ノ儘ニ此處ニ曝ケ出シテ置イテ、サウシテ年々歳々補償金ヲ取ツケレドモ、是方ガ便宜ナリト心得テ居ル土地所有者モアル、斯ク各ノ場所ニ付テ取調ヲ致シテ見マシルト云フト、種々ノ事情ガアル譯デアリマス、單ニ此處ニ是ダケノ被害ガアル、ハハ酷イト云フコトデハ、事ノ真相ニ觸レタ觀察デナイト私ハ認メテ居ルノデアリマス、ソレカラハ一方ノ相手方ノ方ノ取調デアリマスカラ、必シモ此數字ヲ以テ確實ナリト主張スル譯デアリマセヌケレドモ、筑豊ノ所謂北九州ノ有名ナル炭田地ニハ、有力ナル數郡ニ亘リテ筑豊炭組合ト云フモノガアルノデアリマス、其取調ニ依テ見マシルト云フト、田地ニシテ今日其

土地所有者ト礦業人トノ間ニ紛擾ガ起ツテ、話ノ纏ラナイノガ五十一町歩アルト云フコトヲ申シテ居リマス、詰リ其他ノ田地ハ解決ガ付イテ居ル、或ハ賠償ガ済シテ居ル、實際ノ解決ノ付カヌノハ五十一町歩アルト申シテ居リマス、併シ今御斷リ申シテ通リ其五十町歩ハ或ハ百町歩ト致シマシモ、其纏リノ付カナイト云フコトハ、一體ドウ云フコトニ歸着スルカ、礦業人ガ拂フベキ責任ヲ盡サナイ者モアリマセウケレドモ、又反對ニ被害者ノ方デ不當ナル價格ヲ要求スルカラ出來ナイ者モアリ得ル道理デアル、要スルニ一方ノ要求ト一方ノ承諾トガ合致シナイ爲ニ、話ノ調、居ラヌコトモアリマス、併シ是ハ結局其爭ガ定リマセヌケレバ、司法權ノ處分ニ依テ是非曲直ヲ判斷スルヨリ致方ハナイ、單リ是ハ礦業上ノ問題ノミナラズ、如何ナル行爲ニ致シマシテモ故意過失等ニ依テ、他人ニ損害ヲ及ボシタナラバ賠償シナケレバナラス、而シテ賠償ノ事ニ付テ雙方ノ對談デ纏ラナケレバ、結局之ヲ司法處分ニ仰グヨリ致方ガナイ、併ナガラ唯一ツ其話ノ纏ラナイ原因ノ中デ、最も深ク一ツ御考慮ヲ煩シタイ事ハ、果シテ或場所ノ陷落ガ或ル礦業人ノ行爲ニ依テ起ツタモノデアアルヤ否ヤト云フコトハ、原因結果ヲ定メルコトノ困難ナル場合ハ往々ニシテアル、例ヘバ遙カ離レテ居ル處デ礦業ヲシテ居ル者ガアル、離レテ居ル此方ノ方ニ陷落シタ土地ノアタツキニ、土地所有者カラ申シマスト云フト、要求ノ仕易イ礦業人ニ向ッテ賠償ヲ要求スルニ相違ナイ、礦業人ハ四面八方ニ皆軒ヲ竝ベテ居ルノデアリマス、軒ヲ竝ベルト云フト言葉ガ惡イカ知レマセヌ、煙突ヲ竝ベテ仕事ヲシテ居ル、ドノ煙突デ作業シタ結果ガ、土地陷落ニ影響ヲ及ボシタノデアアルカ否ヤト云フコトハ、中々困難ナ問題デアリマス、一ツノモノガ及ボシタコトモアリマセウシ、數箇所ノモノガ關係ヲ持ッテ居ルカモ知レヌ、又ソレノミナラズ御承知ノ通り、此今ヤッテ居ル炭礦ハ何ノ某デアリマセウケレドモ、其炭礦ナルモノハ數十年ヲ經テ色々ノ人ノ手ニ渡リ、而モ數十年ノ昔ニ遡リマスト云フト、甚ダ規則ガ立タナイ、俗ニ申シマスル濫掘ト申シマスカ、兎モ角モ正則デナイ適當ナル施業案ニ依ラズシテ作業シタコトガ、昔ニ澤山アリマシタカラ、其昔ノ——今ノ人ニ一切縁故モ關係モ何モナイ、昔ノ人ノ不法ナル處爲ノ結果ガ、今日或ル場所ニ或ル損害ヲ惹起シテ居ルト云フ事モアルノデアリマス、詰リサウ云フヤウナコトデ、原因結果ガ明瞭シナイ爲ニ、爭ノ解決シナイモノガ澤山ニアルノデアリマス、是等ノ諸般ノ關係ヲ詳細ニ調査スルト云フコトハ、中々一朝一夕デハ出來マセヌ、行政官ノ力デハ頗ル困難デアル、裁判所ノ手ニ之ヲ移シテモモヅカシカラウト思フ、若シモ明瞭ニ何ノ事ナシノ如キ被害ヲ惹起シタト云フコトデアルナラバ、直グ手近

ノ裁判所ニ訴ヘテモ解決ガ出來ル譯アル、被害者ガ何故ニ裁判所ニ之ヲ持出サヌカ、若シモ礦業人ガ不當ナル理窟ヲ並ベテ、サウシテ適當ナル損害賠償ヲシナイト云フナラバ、何故ニ裁判所ニ持テ行カナイカト申シマス、裁判所ニ持テ行カナイ原因ニハ、其礦業人ガソレダケノ害ヲ及ボシタト云フ證據ヲ舉示スルコトガ困難ナルコト云フ事情ハ、確ニアラウト私ハ思フノデアリマス、併ナガラ、斯ノ如キ爭ガ假令五十町歩ナリ百町歩ニ至ラズモ、殘テ居ルト云フコトハ、當局ニ於テモ甚ダ遺憾ニ思ヒマス、出來得ル限り公式非公式ニ各、此方ノ取調等ヲ根據ト致シマシテ、總マ爾限リ雙方ノ間ニ圓滿ナル解決ヲ求メヤウトスルコトニ努メツ、アル譯デアリマス、固ヨリ議會ニ於テ特ニ御協賛ヲ得マシタ費用ハ、只今御話ノ通り僅カナル技師技手ニ過ギヌノデアリマシテ、ソレノミノ力ニ依テハ調査ナドハ中ニ拂リマセヌ、併ナガラ御承知ノ通り鑛務署ニハ其他ニ數十名ノ職員役員ガ居ルノデアリマス、各、其任務ヲ持テ居リマセヌケレドモ、矢張相共ニ扶ケテ出來得ル限リ是等ノ調査ニ付テ歩ヲ進メツ、居ル譯デアリマス、又固ヨリ只今御質問中ノ御言葉ニアリマス如ク、是ダケノ人數ハ迫モ出來ルモノデハナイ、モト澤山ノ經費ヲヤルカラモト勉強セヨト云フコトデアルト、其御言葉ハ當局ニ於テ非常ニ有難ク感ズル次第デアリマス、人數ノ足ラヌコトハ當局ニ於テモ認メテ居リマス、併ナガラ御承知ノ通り事情ヲ吾々カラ要求スル所ノ豫算ガ旨ク通過シナイ、ソレ故ニ不足デアルト云フコトモ知リツ、其不足ノ範圍内ニ於テ出來ルダケノ勉強ヲ致シマシテ、是等ノ調査ニ當テ居ル譯デアリマス、追テ縣廳或ハ、當業者、或ハ土地所有者ノ御助力ニ依テ、紛議ガ段々少クナツテ居ルト云フコトノ結果ヲ見タイト存ジテ居リマス、又サウ云フコトニナラウト信ジテ居リマス、ドウゾ其邊ノ意味ヲ御了承ノ上ニ、當局ノ趣旨ノアル所ヲ御認メ下サランコトヲ御願ヒ申上ゲマス(拍手)

○古賀三千人君 極テ簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒタイ、只今私が伺ヒマシタ中ノ第三ノ現在ノ鑛業法ハ、甚ダ不備デアルト信ズルノデアリマス、之ヲ完全ニ改正サレマス意思ガゴザイマセヌカト云フコトヲ御尋シタ所ガ、御答ガゴザイマセヌカラ、重テ御尋シテ置キマス

(政府委員田中隆三君登壇)

○政府委員(田中隆三君) 甚ダ失禮ヲ致シマシタ、御質問ノ一箇條大事ナ事ヲ取落シマシタ、此鑛業法ヲ改正スル意思ガ無イカドウカト云フ事デゴザイマス、只今ノ所デハ有リマセヌト御答スルヨリ外ニ致方ガアリマセヌ、ソレハ要スルニ只今ノ御質問ノ趣旨ニ連絡シテ改正ト云フ意味デアラウト思ヒマス、此紛議ヲ根絶スルヤウナ法律ハ、如何ニ

考ヘテモ見出スコトガ出來ナイノデアリマス、要スルニ此關係ハ損害賠償ノスルト云フ事ニ歸著スルノデス、故意過失ニ依テ人ノ損害ヲ及ボシタ者ニハ、損害ヲ賠償セヨト云フコトダケハ法律デ出來マスケレドモ、何某ト何某トノ間ニ起ラタ所ノ事件ガ、何千何百圓賠償シテ宜イカドウカト云フ事ハ、到底法律デ極メヤウガナイ、各般ノ起タル事情ニ基イテ之ヲ判斷スル、爭ガアレバ裁判所ニ依テ公明正大ナル判決ヲ得ルヨリ外ハ仕方ガナイノデス、若モ幸ニデス、斯ウ云フ方法ア、云フ案ガアル、ソレニ依テ此損害賠償ノ問題ガ筑豊炭田地方ニ起ラヌト云フヤウナ御名案ガアリマスナラバ、謹デ承リマシタ上ニ何分ノ御答ヲ申上ゲマス

○副議長(粕谷義三君) 是ニテ本日ノ日程ニアリマス、質問ノ辯明ヲ終リマシタノデアリマス、更ニ此日程ノ中ノ網紀類廢ノ責任ニ關スル質問、普通選舉ニ關スル質問、此二ツノ質問ニ對シマスル政府ノ答辯ニ關シテ、更ニ意見ノ陳述ヲシタイト云フ申出ガアリマス、之ヲ順次許可致ス積リデアリマス、清瀨一郎君

網紀類廢ノ責任ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル清瀨一郎君ノ意見

○清瀨一郎君 總理大臣ノ答辯ニ關シ意見ヲ述ベマスガ、成ルベク高橋總理大臣ノ出席アランコトヲ希望致シマス

(清瀨一郎君登壇)

○清瀨一郎君 本員ハ一月二十八日付ヲ以テ現内閣並原内閣ノ時代ヲ通ジテ、網紀ノ類廢ハ其極ニ達シテ居ル、其責任ノ所在ハ何處ダト云フ質問ヲ致シタノデアリマス

○副議長(粕谷義三君) 清瀨君ニ申上ゲマス、只今總理大臣ノ御都合ヲ伺ヒマシタ、只今貴族院ノ本會議ニ出席中デアテ、一寸出席ガムツカシカラウト思ヒマス、如何デアリマス

○清瀨一郎君(續) 續イテヤリマス——其趣意ハ當時高橋總理大臣ハ貴族院本會議ニ於テ、網紀類廢ノ責任ニ對シ議員ノ質問ヲ受ケテ、原内閣ハ原内閣、高橋内閣ハ高橋内閣、原内閣デシタ事ヲ自分デ皆マデ責任ヲ負フ譯ニイカヌト云フ答辯ヲザレテ居ルノデアリマス、又是ト前後致シマシテ、本院ノ豫算委員會ニ於テ議員永井柳太郎氏ノ質問ニ對シ、政黨ハ前内閣ノ政策ヲ承繼シテモ、責任ヲ承繼スル譯ニハ參ラヌ、此點ニ付テハ質問者ト意見ガ違フノデアル、斯様ナ答辯ヲサレテ居ルノデアリマス、然ルニ高橋是清子爵ガ我國大宰相ノ印綬ヲ帶ビラマシテ經過ヲ考ヘマスト高橋子其人ニ左マデ信用ガアテ、之ヲ總理大臣ニ推薦シタト云フ經過デモ無イノデアリマス、吾々ガ洵ニ不祥事デア

ト考ヘテ居ル十一月四日ノ兇變、偶然高橋子ヲ總理大臣ニ致シ、同時ニ又高橋子ヲ政友會ノ總裁デアラル、カラシテ、原總理大臣ノ政策モ承繼スレバ責任モ亦承繼サル、コト、思フ、此人ヲ總理ニ推戴スル經過デアルトコトハ政治上ノ事實デアリマス、デアリマスガ故ニ原内閣ノ時代ノ事ニ關シ、自分ハ責任ハ負ハヌト言ハル、ナラバ、吾々反對黨ガ抗議ヲ申込ムヨリモ、先ツ第一ニ政友會ノ諸君ガサウ云フ積リデオ前ヲ總理ニシテ居ルノデヤナイカト、諸君ノ方カラ出ル答ノ質問デアリマス(拍手)所ガ此質問ニ對シテ本日受取タ各答ハ、全ク私ノ質問ノ趣旨ヲ誤解シ、政府ハ時弊ノ矯正ニ當テハ、國民ノ自省道國民ノ反省ト相俟テ網紀ノ肅正ニ留意シテ居ルト云フダケノコトデアル、吾々ハ總理大臣ガ網紀肅正ニ注意ヲサレテ居ラウガ、後悔ヲサレテ居ラウガ、ソレヲ聽イタノデアリマセヌ、オ前ケンハ前内閣時代ノ罪惡ニ付テ其責ヲ負フ覺悟ガ有ルカ無イカ、責任ノ所在ヲ聽イテ居ルノデアリマス、其意味ニ於ケル答辯ヲ得タイノデアリマス、此點ノ御答辯ハ今期議會ニ於ケル總テノ問題ノ大前提トナルベキモノト思ヒマス、隨テ私ノ質問致ス趣旨ヲ明瞭ニスル爲ニ、斯様ナル事件ニ付テハ責任ヲ御負ヒニナルノデアリナイカ、是ハ責任ヲ負擔セラル、事件デアリナイカト云フ二三ノ事ヲ申上ゲマス、ト云フハ、高橋總理大臣ノ委員會ニ於ケル答辯ガ、原内閣ノ責任ハ全部ハ負ハヌ其間ニ一定ノ限界ガアテ、或所マデハ負フケレドモ、ソレカラ先ハ乃公ハ知ラヌ、此答辯デアリマス、故ニ、斯ノ如キ罪惡ニ付テハ御責任ヲ御負ヒニナラヌカ、之ヲ明瞭ニ致シテ置キタイノデアリマス、先ツ第一ニ明瞭ニスルベキハ彼ノ大連取引所ノ事件デアリマス、此事件ノ經過ノ大略ハ元ト大正七年ノ七月頃ヨリシテ森上卯平ナル者ガ、大連ニ於テ民營ノ取引所ヲ營マンコトヲ發起致シマシタノデアリマス、當時同人ハ上京ヲ致シテ、或者ノ紹介ニ依テ當時ノ拓殖局長官古賀廣造氏ニ面會ヲ致シタ、デ古賀氏ハ當時拓殖局内ニ議論ハアルガ願ヒ出ツレバ許シマセウ、ケレドモ許シタ場合ニハ其株ノ七百乃至千ハ乃公ニモ吳レロ、自分ノ方ニモ相當友人ガアルカラ之ヲ長官ニ吳レ、斯ウ云フ約束ヲ致シ引續イテ大正八年ノ十二月十三日ニハ關東州取引所令ナルモノガ發布セラレ、勅令デアリマス、大正九年二月十日ニ設立ノ免許ヲ得タノデアリマス、所ガ大正九年二月ニ議會ガ解散ニナリマシテ、全國各地ニ於テ選舉ノ運動ガ行ハレタノデアリマス、茲ニ於テカ拓殖局長官古賀廣造ハ設定ノ條件タル株券ノ提供ヲ思出シテ、當時大連ニ居リマシタ自分ノ息子古賀邦夫ト云フ者ニ手紙ヲヤツテ森上卯平ヨリ前ニ約束シタ所ノ設立許可ノ條件タル株式ヲ、早ク此際出スヤウニ要求シロト云フ賄賂提供ノ要求ヲ致シタ

ノデアリマス、當時此事件ニ付テ既ニ刑事ノ犯罪トシテ
起訴サレテ居リマス未ダ判決ハ下リマセヌガ豫密ニ於テハ既
ニ有罪ニ決セラレテ居リマス高橋總理大臣ハ確定判決ノアルマ
デト言ハレマスアレドモ、確定判決ヲ見ズトモ茲ニ動カセバカラザ
ル一ノ證據ガアルデアリマス、即チ古賀康造ガ其子邦夫ニ對
シテ宛テタル書面デアリマス、是ガアル以上ハ假令確定判決
ガアラウガアルマイガ、裁判所ニ於テ手續上ノ理由デ無罪
ニナラウガアルマイガ、政治上ノ問題トシテハ終局ノモノト
致サナケレバナラス、古賀君ガ其子邦夫ニ宛テテ手續一節
ニ斯様ナ事ガアル、會テ御聽キ相成候一件ハ此際至急實
行致シ吳レ候様談判相成候御拙者即チ廉造デアリマス
拙者ヨリ請求致シ候事等ハ一言モ御洩シ無キ様御注意
相成候御親父ニ於テ選舉ノ爲出金ノ必要アリトノ由聽
込ミ候ニ就キ何トカ工面シテ親父ヲ援度ク考ヘ相談致度
旨御申聽ケ相成候事可然候森上モ一千株デモ七百株
デモ分配スルコトヲ明言致候上ハ今更引込ミ候道理モ無
之候何卒貴公ノ氣付ヲ以テ談判相成度候此古賀康造
ヨリ邦夫ニ宛テタル手紙ヲ受ケテ、邦夫ガ森上ノ平賀賀
賂ノ提供ヲ受ケタルコトヲ事實デアリマス、此事實アルニ
拘ラス、未ダ判決確定セズトシテ、責任ヲ負ハヌト云フコトハ
政治上如何ナモノデアリマセウ、所ガ是ダナケレバ、此事
件ガ茲ニ止マレバ高橋内閣、原内閣ノ分界問題ニ左迄大
問題デアリマセウ、所ガ茲ニ見通スコトノ出來ナイ問題ハ
此大連取引所ヲ造ルノニハ、新二勅令ノ發布ヲ要スルデア
リマス、ソレ故ニ大正八年ノ十二月十三日ニ當時世論
囂々タル中ヲ排シテ遂ニ大連取引所關東州取引所令
ル勅令ガ原總理大臣ノ副署ニ依テ發布サレテ居ルデア
リマス、是ハ同月十五日ノ官報ニ、勅令第二百九十四號ト
シテ掲載デアリマス、然ルニ此勅令ヲ一見致シマスルト、犯
罪ノ跡歴然デアリマス、抑、取引所ノ法律ニハ、取引所ヲ
惡用スル場合ノ罰則ト云フモノヲ必要トスルハ、内地ノ取引
所法デソレガアリマス、所ガ關東州取引所令ニハ、罰則ノ規
定ハアリマセウ、不法ニ公定相場ヲ作り、相場ノ變動ヲ謀リ
或ハ取引所ニ於テ取引類似ノ行爲ヲスルハ、是等ノ行爲
ヲナスコト云フ規則デアリマス、シテ場合ノ罰則ガ無いデア
リマス、此罰則ハ別ニ關東長官ノ關東廳令ト云フモノニ、之ヲ
譲ッテ居ルデアリマス、何故ニ然ラバ、此勅令ニ罰則ヲ附ケ
ナカタク申セバ、此勅令ニ罰則ヲ附ケレバ樞密院ノ會議ニ
之ヲ諮ラナケレバナラス、當時大連取引所ト云フモノガ一ツ
ノ政治上ノ魂膽カラ生ジタ問題デアルト云フコトハ、當時
東京ノ新聞、大阪ノ新聞、天下ノ新聞、何人モ知ラザル者
ハナカタクデアリマス、隨テ樞密院ノ會議ニ出セバ、此勅令
ハ必ズ否決サルベキ運命ヲ持チマシタガ故ニ、殊更ニ罰則ヲ
省イタ勅令ヲ作テ、サウシテ此取引所ノ設立ヲ致シタノデ
アリマス、政治ノ事務ニ鍛練ナル原敬君ガ、取引所法ニ罰
則ガ要ルト云フコトヲ知ラナカタク答モナク、法律ニ詳シキ法
制局長官ガ、罰則ヲ附ケレバ樞密院ニ行カナケレバナラスト

云フ事ヲ知ラナカタク答モナク、我國ノ法律制度ヲ紊テ陸
下ノ畏クモ御裁可ヲ、變則狀態ヲ以テ仰ギ奉リ、世論囂々タ
ルノ中ニ、敢然トシテ原總理大臣ハ大連取引所ノ設立ヲ
贊助致シタノデアリマス(拍手)即チ勅令發布ヲ以テ犯罪ヲ
敢行シタト云フハ、是デアリ、況ヤ此事件ノ中心人物ハ誰デア
リマスルカ、古賀康造其人デアリマス、デ通常ノ役人ノ任用
ニ付テ總理大臣ノ責任ヲ云々スルト云フコトハ煩瑣ニ堪ヘ
マス、併ナガラ古賀康造ト云フ人ハ、前ニ天理教事件ア
リ、後ニ贗札事件アリ、此人ハト云フモノハ、世モ古賀ヲ受ケ
テ、人デアリ、ソレアリ、拔擢スルカラニハ、世モ古賀ヲ受ケ
テ、手柄ヲ奏セバ、追ハ原總理大臣其人ノ既往ヲ見ズシテ、
古賀ヲ擢用シタル其功ハ原總理大臣ニ收リマス、サル代リ
ニハ從來ト同ジ系統ノ犯罪ヲ犯シ、國家ニ害ヲ及ボスト云
フ以上ハ、天下ノ者ハ鼓ヲ鳴ラシテ原敬君ノ不誠實ヲ攻メ
ナケレバナラスト思フデアリマス(拍手)原總理大臣ニ斯ノ
如キ、行爲アル以上ハ、其罪ヲ負擔シナケレバナラス、高
橋總理大臣ガ、ソレハ前ノ人ノシタ事デ知ラヌ、責任ハ死
ソノ、御利益ハ私ト云フコトハ、如何ニモ不人情千萬、是コ
ノ、居ッタ人デアリ、言ハナケレバナラス、事件ニ付テ
内閣諸公ノ責任ヲ問フデアリマス、眞實彼等良心ニ於テ
責任ナシト神ノ前デ言ヒ得ルカドウカ、恰モ昨年ノ今頃デア
リマシタ、我黨ヨリ阿片事件ニ關スル決議案ナルモノヲ上
程致シ、同僚ノ小橋藤三衛君ガ其理由ヲ説明シタノデアリ
マス、當時決議ノ要項ハ、如クデアリ、政府ノ關東州ニ
於ケル阿片取扱ハ、外ハ國際ノ信義ニ背キ、内ハ官紀ノ紊
亂ヲ極ムルモノト認ム、而シテ當時吾々ハ單ニ犯罪ヲ摘發
スルト云フ小サナ考デ、此問題ヲ起シタノデアリ、當時ノ速
記録ヲ御覽ニナルト、現ニ我ガ日本帝國ガ世界ニ於テ負擔
シテ居ル所ノ義務、即チ對獨平和條約ヨリ生ズル義務國
際阿片條約ヨリ生ズル義務、是等ノ義務ノ履行ガ完全ニ
出來テ居ルカドウカ、既ニ外國ヨリシテ抗議マテ受ケテ居ル
デハナカ、阿片ヲ過大ニ賣テ、單リ阿片總者ニ供給スル
ノミナラス、關東州ニモ、支那内地ニモ、阿片ヲ賣テ居ル
ハ日本ノ所爲デアルト世間カラ指彈ヲ受ケテ居ル、吾々ハ
我國ノ恥ヲ曝スコトヲ好マヌガ、既ニ外國ヨリ指彈ヲ受ケル
以上ハ默視スルコトガ出來ヌ、派ヲ揮テ此議場ノ問題トス
ルト云フコトヲ吾々ハ言ッテ居ルデアリ、ソレニ對スル長官
ノ答辯ハ役所ノ中デ一人カ二人ガ惡イ事ヲシタ者ガアルガ
役人ノ中ヲ心得違ハスルハ、此度バカリデナイ、斯様ナル者
ニ付テハソレノ處分ヲスルハ、何モ過大ニ阿片ヲ賣タト云フ
事實ハ無いデアリ、事モナゲニ、關東長官ハ、山縣伊
三郎氏ハ事モナゲニ答辯ヲシテ居ラレバ、デアリマス、然ル
ニ今日如何デアリマスカ、私ハ單ニ之ハ刑事問題トシテ言
フノデアリ、人道ノ問題、國家ノ問題デアリ、二ツノ事實ハ
是亦證明サレテシマタ、即チ關東州ニ於テ阿片ヲ澤山賣
ルト云フ原因ハ、關東廳ノ收入ノ目的デア、タト云フ事實
(拍手)日本政府ガ政治ヲスル費用ノ爲ニ、支那人ノ命ヲ

害フ阿片ヲ多量ニ賣タト云フ事實、モウ一ツハ此阿片ヲ
多量ニ賣ルト云フコトハ、矢張中央政府カラノ通牒ニ依ル
コトデアリ、中野有光ノ獨斷デアリ、中央政府カラノ通牒
ニ依テ、阿片ヲ過大ニ賣タト云フ、此悲シムベキ事實デアリ
マス(拍手)ソレハ此事件モ亦現ニ關東廳ニ於テ、關東
裁判所ニ於テ審理中デアリマスルガ、判決ガアラウガアルマ
イガ、此處ニ動カセバカラザル一ノ證據ガアルデアリマス、
ソレハ其中中野有光ノ自カカラシマス、關東廳ノ山縣閣下ニ
宛テテ辭職請求ノ理由書デアリマス、是ハ後ニ議ルノ許
可ヲ得テ全部速記ニ載セタイ思ヒマス、其一部分此處
ニ引用致シマスルト、斯様ニ言ッテ居ルハ、是ハ言々句々吾々
ノ神經ヲ刺戟セザレバ、文章デアリマス(拍手)書イタ
者ハ中野有光デ、宛名人ハ山縣伊三郎君デアリマス、其頭
デ御聽キテ願ヒタイ、阿片賣捌ハ宏濟善堂ヲシテ元賣捌ヲ
爲サシマ、總者ニ供給スルニアレドモ其實ハ關東廳ノ收入増
加ヲ圖ルヲ目的トシタルモノナリ(拍手)大正六七年ハ年收
六七百萬圓以上ニ達シ外務省系統ノ異議アリシニ依リ大
正八年度ハ大緊縮ヲ行ハレタリ小系統關係スルニ至レバ此
時ニシテ命ニ依リ從來ノ放漫ヲ節制シタルムハ阿片ノ收
入始シト皆無ナルガ故ニ秘密ニ賣却セルハ頗ル努力ヲ要シ
タル所ニ有之候(拍手)大正八年度ハ關東廳ノ阿片收入
ハ五十萬圓ノ豫算ナリ而シテ命ニ依リ三百萬圓以上ヲ收
入シ(拍手)此外ニ仕入品ノ資金ヲ收入シタル阿片賣捌ハ
警察醫科診定シタル阿片總者ノ外供給スベカラズ内閣通
牒ノ存スル所ニシテ診定シタル總者ノ數ハ關東州ヲ通ジ
僅ニ二千八百人ニシテ供給シタル範圍ハ大正八年度ニ於
テハ三百餘萬圓程度ト思料ス然レバ十分ノ六ハ政府ノ移
讓ニ關東廳ノ地方費豫算ハ阿片費三百萬圓ヲ計上セラレタ
リ之ニ加フルニ仕入代金百萬圓ヲ賣捌ク要アリテ四百萬
圓收入ノ豫定ナリ尙ホ大正八年度ヨリハ價格非常ノ下落
ニ達シ供給分量ヨリ打算セバ殆ド十分ノ八以上ハ規定
ニ違反セルモノナリトスルコトニ相成候而シテ議會ニ於ケル
アリタレドモ決シテ一任セラレ居リ不申、拍手、宏濟善堂監
督事務執行ハ詳細ナル内閣通牒ニ更ニ關東廳ニ依リテ加
ヘラレタル事項ニ依リ行ヒツツアリテ小生ノ裁量範圍ハ極
メテ狭ナルモノニ有之候小生ハ上官ノ命ヲ體シ唯政費
ノ收入ニ遺算ナカラシムコトヲ期シ宏濟善堂ニ命ジ努力
セシメタルモノニシテ特許料ノ如キハ青島ハ十、對シ銀
二圓五十錢ナルニ關東州ハ金十圓以上ノ期間利益ヲ割カ
均青島ノ倍額以上ヲ收入シタルハ阿片商人ノ利益ヲ割カ
シメタルニ外ナラズ候面ヨリ關東廳ノ方針ガ總者ヲ救済ス
ル意味ナレバ、事ノ真相ヨリ言ヘバ何等非難ヲ受クル所以
無之若シ之ヲ供給セザレバ密輸入犯罪者ヲ肥スニ過ギザ
ルモノニシテ事實ハ敢テ論ズルヲ要セズ候得共唯小生ノ意
見ニテ斯レ違反ヲ行フタルガ如ク見做サルハ、頗ル迷惑ノ
至リニ有之若シ之ヲ司法事件トシテ調査セラレバ明白ト

ナルノ外ナキヲ憂フルモノ有之候尙ハ前述ノ應者ニ供給スル分量阿片ハ關東州内ノ應者ニシテ供給セラルモノハ極メテ少量ニシテ關東廳管轄以外ノ天津上海等ニ向テ輸出セラレ此等ノ地ヲ經テ支那内地ニ賣行クモノナルハ更ニテ言フハ俟テ防グコト能ハザルモノ有之候(拍手)然レモ議會ニ於テ意見トシテハ明ニ有之否認セラレ小生如キモ誠ニ安堵シタル所ニ候而モ若シ司法事務ヲ扱ム旨ヲ生表明セラル時ハ政府及關東廳ニ對シ非難ヲ挾ム旨ヲ生シ由々敷大事ナルノミナラズ世界ノ人道及國際ノ信義ニ反シタリト非難ヲ受クルニ至ルハ從來排日支那人ノ行動ヨリ觀察シテ免ル能ハザル所ナリト思料致シ候所ノ如キ大影響ヲ生ムコト實ニ恐縮ニ堪ヘズ小生ハ現在及將來ニ於テモ如何ニモシテ此事實ヲ飽迄隠蔽セント欲スル故ニ先ツ現職ヲ去リテ責任アル言ヲ避ケントスルモノ有之候(拍手)マダ此書面ハ長イノデアリマス、言々句々吾々悲憤慷慨ニ堪ヘナイ文字ヲ以テ埋メラレテ居リマス、中ニモ吾々ノ決議ニ對シテ當時一部ノ刀筆ノ吏ガ、過ヲシタト云フガ如クニ輕ク答ヘラレテ居リマス、役人自身ガソウデハゴザラヌ、閣下ハ議會ニ於テ、斯様ニ答辯サレタレドモ、事ノ真相ハ之ニ反シ、關東州ノ收入ヲ得ルニ致シタルノ關東州外ニ移出サレテ支那内地ニ彌漫シツ、アルト云フコトヲ、當ノ本人ガ告白スルニ至テハ、再び之ヲ否認スルコトハ出來マスマイ(拍手)之ニ付テ當路ノ人ハ如何ニ御考ニナリマセウカ、而シテ其責任ヲ承繼セラレタル高橋總理大臣ハ、今如何ナル感ガアリマセウカ、加之當時吾々ガ此案ヲ説明シタノガ二月十七日デアッタ、而シテ事モナゲニ當日答辯サレテ居テ、三月ニ入ルヤ否ヤ、彼ノ第一阿片事件云フモノヲ惹起サレテ居リマス(拍手)其不誠意ナルヤ實ニ驚クニ堪ヘタモノデアリマス、吾々ニ事モナゲニ挨拶ヲシテ置キナガラ、直ニ關東州ニ對シテ如何ナル命令ヲ下サレタカ、同年ノ三月カラ六月ニ至テ本嶺元八ト云フ者ニ對シ、前後四百箱、七千六百六十貫ノ阿片ヲ通常ノ値段ヨリ安く此者ニ賣リ與ヘ、此者ヲシテ再び支那内地各方面ニ阿片ヲ濫賣セシメ事實ガアルノデアリマス、此問題ハ一面ニナリマス、ガ論議ヲ明カニスル爲ニ假ニ、爰デ關東廳ガ本嶺ニ賣リタル所ノ阿片ノ代價ガ安カッタカ、高カッタカ云フコトハ申シマセヌ、是モ亦官紀紊亂ノ事實デアリマス、議會ニ於テ斯ノ如キ決議ヲ上程サレ、質問ヲ受ケ、サウシテ再び同ジ關東廳ガ又此二百箱、三百箱ト云フ、大量ノ阿片ヲ支那内地ニ賣出スル云フモノハ如何ナノデアリマセウカ(拍手)斯様ナ事ヲ爲サル、以上ハ、是カラ先キ政府諸公ノ議會ニ於ケル答辯ト云フモノハ吾々悉モ信用出來ナイノデアリマス(拍手)信用シヤウト欲シテモ信用ガ出來ナイ、又無責任極マル事ヲヤタ後ヲ引受ケタ高橋首相ハ、如何ナル責任ヲ吾々ニ向テ負ハル、覺悟デアリマセウカ(拍手)第三ニ滿鐵事件ト稱セラル、事件ノ責任デアリマス、是ハ今日迄發表サレテ居リマス所ノ調書、證據物、自白、此等ニ依リマス

ルト、全員ヲ原敬君ニモ、野田卯太郎君ニモ渡シタト云フ記事ハアリマセヌ、ソレ故ニ之ヲ以テ滿鐵事件ハ政府ノ責任デナト議論サレラバ、是ハ政治家デアリマセヌ、吾々ハ此金ヲ原總理大臣ガ使ウテ、自分ノ家ノ臺所ノ足シニシタト論ズルノデアリナイ、寧ロ私ハサウデナカッタガ、即チ政治上ノ問題ヲ生ズル所以デアラウト思フ、滿鐵事件起訴シタリマセヌガ、化學工業ノ事件、大連丸ノ事件、前二連ヘマシタ五品取引所ノ事件、結局是等ノ事件ニ依テ得タ金ハ此等事タケハ十目ノ視ル所、即チ是等ノ金ハ選舉ニ必要デアッタト云フコト——選舉ニ必要ナル金デアッタト云フコトダケハ十目ノ視ル所、十指ノ指ス所、全國民ノ陪審員ガ之ヲ判決スル所デアリマス(拍手)然ラバ何故ニ斯ノ如キ不正ナル金銭ヲ必要ト致シタカ、是ハ原總理大臣ガ政略ノ爲ニ議會ヲ解散シ、金力ヲ以テ多數ノ與黨ヲ得ント圖タ所ノ、其政策ノ生シタル私生兒デアリマス(拍手)「ウー」ト呼フ者アリ、私ハ眞實言フ、原總理大臣ガソレ程マデシテ制限選舉ヲ行ハナケレバナラヌト確信シタル生粹ノ制限選舉論者デアッタハ思ハナイ、彼自身モ亦或ル意味ニ於テ普通選舉ニハ同情スルト云フテ居ル、然レモ其拘ラズ、現實ニ目ヲ眩シ、政府ノ溺レ、不必要ナル解散ヲ致シ、言論ヲ以テハ到底今度ノ選舉ニハ勝テヌ、今度ノ選舉ニ勝ツハ唯金力アルミソレガ爲ニ金力ヲ要スル故ニ、爰ニ働カズシテ金ヲ集メルコトノ必要ガ生ジタ、此必要ガ即チ滿鐵、滿洲丸、大連取引所ノ事件ヲ生ジタ一大原因デアルト私ハ考ヘル(拍手)「ウー」ト呼フ者アリ、諸君、憤慨シ給フナ、私ハ原總理大臣ノ人格ニ對シテ、彼ノ中岡良一ノ言フガ如クニ私慾ヲ逞ウシタルハ思ハナイ、彼ハ私慾ノ爲デハナイ、只併ナガラ政策ニ溺レ、普通選舉ノ如キ大問題ヲ一時ノ政略ニ使ウテ、議會ヲ不必要ニ解散シ、ソレデ自己ノ自我ヲ押通サウトシタ所ノ憫ムベキ彼ノ失策ガアルノデアリマス(拍手)彼ノ失策ガ此點ニ在リトスレバ、其責任ハ彼ガ生キテ居タナラバ、此壇上デ懺悔セザレバカラベカラザル時デアリマス、哀レムベシ彼今亡シ、其相續者タル高橋首相ガ此罪ヲ贖フベキ時期ガ時々刻々ニ迫リツ、アルノデアリマス、政府ノ答辯ハ顧ミテ他ヲ言フ、責任ノ所在ハ何處ダト問フト、綱紀肅正ニハ心ヲ用キテ居ルト云フケレドモ、サウ云フ無責任ナコトヲ言フノデアハ、綱紀肅正ニハ心ヲ用キテ居ルハ思ヘナイ(拍手)私ハ高橋總理大臣ガ施政演說ヲサレタ際ニ、綱紀肅正ニハ力ヲ盡シテ居ルト演說サレタ時分ニ、思ハズ吹出シタト云フノハ、是ハ綱紀肅正ノ問題ヲ起サレル場合ノ防禦線ヲ張ッテ居ルニ相違ナイ、然レモ彼ノ面上ニハ眞實綱紀肅正ニ心ヲ用キテ居ル云フ熱誠ガ露レテ居リマセヌ、斯ノ如キ人ヲ總理大臣ニ戴ク我ガ國民ハ悲シムベシデアリマス、一日モ早ク責任ヲ自覺セラレテ、深ク々々其罪ヲ國民ノ前ニ贖ハレンコトヲ希望スル次第デアリマス(拍手起)

(參照)

中野有光ヨリ山縣長官ニ宛テタル手紙
一月二十四日夜閣下ノ招電ニ接シ小生ハ翌二十五

日出發上京致候關東廳ノ特許阿片賣捌ニ付宏濟善堂職員小島貞次郎ニ不正行爲アリトシ櫻田俱樂部ノ壯士谷長川隆通ナル者ヨリ密告アリタル趣ニ之ニ關シ各般ニ渡リ
閣下ノ御質問 ヲ受ケ事實及ビ意見詳細ニ答辯申上タルコト有之小生答辯ノ範圍ニ於テハ御諒解ヲ得タルコト、信ジ候(中略)依テ小生速ニ歸任シ司法官ニ對シ小生ノ知ル處ヲ陳告セバ速クニ眞相ヲ明カニシ得ベシト信ジ歸任方申出候處當時御計案無ク其後小生ノ行動ニ關シ司法官ノ搜索始マレルヲ聞キ甚遺憾トシタル所ニ有之候小生ハ職務以外ニ於テ政治家ヲ援ケヌハ援ケンシタル事實アルモ良心何等愧ヅル所無之
嫌疑アラバ 辯明ノ日アルベシト期シ居タル所ニ有之候然レ三月二十三日ニ至リ閣下ヨリ直ニ出發歸任スベキ命ヲ受ケ尙小生ニ對スル司法官ノ審問アルベキヲ伺ヒ候固ヨリ期シタル所ニ有之候得共目下世間ノ狀勢ニ於テ小生在官ノ儘審問ヲ受クル時ハ左ニ舉グルガ如キ事實ノ爲メ官紀紊亂ノ評ヲ受クルノ虞アリ此際辭職シテ一人トナリ而シテ其求メラル、所ニ委セムコトヲ期シ候勿論在職中ナルト辭職後ナハト問ハズ他ノ不利益トナルベキ言ヲ爲スヲ欲セズ候ヘ共

阿片問題ノ 進行ニ就テハ司法官ノ審問ハ少クモ左記第二第三ノ件ニ及バザレバ眞相ヲ明カニスル事能ハザルモノト信ジ候問苦衷選ム所ニ迷ヒ候若シ此際閣下ノ御處置トシテハ小生直ニ司法官ノ審問ニ附スルコトヲ求メラレ若シ小生ノ辯明其要領ヲ得ザル時始メテ司法官ニ附セラレ候様希望シタル處ニ候得共已ニ致シ方無之次第ニ候
第一 現政府攻撃ノ材料タル關東州阿片問題ヲ再燃セシムルヲ恐ル今期議會ニ於テハ政府反對黨ハ極力現政府ヲ倒壞セムコトヲ期シテ關東州ニ於ケル阿片賣捌問題ヲ最も有力ナル材料ト信ジ憲國兩黨ハ全力ヲ傾ケタリ而モ議院外ニ於テハ
全國ノ新聞紙 上阿片不正問題ト稱シ官紀紊亂其極ニ達シタルモノ、如ク宣傳シ例令ハ小生宅ハ家宅搜索ヲ受ケ多額ノ財物ヲ藏シタル如ク曲筆シ世人ヲ信ゼシメタルノミナラズ議院内ノ言論モ此曲筆ハ有力ナル材料ニ供セラレタリ此ノ如ク近時新聞紙ノ不謹慎ナル記事ハ其影響スル所測ルベカラザルモノ有之候今ヤ議會終了ト共ニ世人ハ已ニ關東州ノ阿片問題ハ遺忘セムトスルニ際シ小生在官ノ儘審問ヲ受クルニ至レバ閣下ガ

官紀紊亂ナシト答辯セラレタルヲ裏切り天下ノ新聞紙ハ再び關東州ノ阿片不正問題ヲ提唱シ幾度カノ針小棒大記事ヲ掲載スルニ至ルベク中央政府及閣下ニ

對シ誠ニ恐縮ニ堪ヘズ先ツ官職ヨリ退カムトスルモノ
ニ有之候
第二 閣下ノ職務ニ對シ批議ヲ生ジ延テ中央政府ノ
責任問題ヲ惹起スルヲ虞ル
阿片賣捌ハ宏濟善堂ヲシテ元賣捌ヲナサシメ應者ニ
供給スルニアレドモ其ノ實ハ關東廳ノ收入増加ヲ圖ル
ヲ目的トシタルモノナリ大正六七年ハ年收六七百萬
圓以上ニ達シ外務省系統ノ異議アリシニ依リ
大正八年度ハ 大緊縮ヲ行ハレタリ小生關係スルニ至
レハ此時ニシテ命ニヨリ從來ノ放漫ヲ節制シタラム
ニハ阿片ノ收入殆ンド皆無ナル故ニ秘密ニ賣却セル
ハ頗ル努力ヲ要シタル所ニ有之候大正八年度ハ關東
廳ノ阿片收入ハ五十萬圓ノ豫算ナリ而シテ命ニ依リ
三百萬圓以上ヲ收入シ此外ニ仕入品ノ資金ヲ收入
シタリ阿片賣捌ハ警察廳ノ診定シタル阿片應者ノ外
供給スヘカラズ

内閣通牒ノ 存スル所而シテ診定シタル應者ノ數ハ關
東州ヲ通ジ僅々二千八百人ニシテ供給シタル範圍ハ
大正八年度ニ於テハ三百餘萬圓程度ト思料ス然レ
バ十分ノ六ハ政府ノ移撥セル規定ニ違反ス大正九
年度ハ同人ノ應者ニ供給スルニ關東廳ノ地方費豫算
ハ阿片費三百萬圓ヲ計上セラレタリ之ニ加フルニ仕
入代金百萬圓ヲ賣捌ク要アリテ四百萬圓收入ノ豫
定ナリ尙大正八年度ヨリ價格非常ノ下落ニテ若シ
供給分量ヨリ打算セバ殆ンド十分ノ八以上ハ上ハ
規定ニ違反 セルモノナリトスルコトニ相成候而シテ議
會ニ於ケル閣下ノ御答辯ハ阿片賣捌ハ大連民政署
長ニ一任シアリトアリタレドモ詳細ナル内閣通牒ニ更
ニ關東廳ニ依リテ加ヘラレタル事項ニ依リ行ヒツ、ア
リテ小生ノ裁量範圍ハ極メテ狭小ナルモノニ有之候
小生ハ上官ノ命ヲ體シ唯政費ノ收入ニ違算ナカシ
ムコトヲ期シ宏濟善堂ニ命ジ努力セシメタルモノニ
シテ特許料ノ如キハ青島ハ十匁ニ對シ銀二圓五十
錢ナルニ關東州ハ金十圓以上ノ期間永クシテ平均
青島ノ倍額 以上ヲ收入シタルハ阿片商人ノ利益ヲ割
カシメタルニ外ナラズ候固ヨリ關東廳ノ方針カ應者ヲ
救済スル意味ナレバ事ノ真相ヨリ云ヘバ何等非難ヲ
受クル所以無之若シ之レヲ供給セザレバ密輸入犯罪
者ヲ肥スニ過ギザルモノニシテ事實ハ政テ論ズルヲ要
セズ候得共唯小生ノ意見ニテ斯カル違反ヲ行フタル
ガ如ク見做サルハ頗ル迷惑ノ至リニ有之若シ之レヲ
司法事件トシテ調査セラルベシトナルノ外ナキヲ
憂フルモノニ有之候尙ホ前述ノ

癮者ニ供給 スル分量阿片ハ關東州内ノ癮者ニシテ供
給セラル、モノハ極メテ少量ニシテ關東廳管轄以外ノ
天津上海等ニ向テ輸出セラレ此等ノ地ヲ經テ支那内
地ニ賣レ行クモノナルハ更メテ言フヲ俟タズ防ゴト

官報號外 大正十一年二月二十二日 衆議院議事速記第十五號 普通選舉ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル松本君平君ノ意見

能ハザルモノニ有之候然ルニ議會ニ於ル意見トシテハ
閣下ハ明カニ之ヲ否認セラレ小生如キモ誠ニ安堵シタ
ル處ニ候然モ若シ司法事件トシテ天下ニ表明セラル、
時ハ政府及關東廳ニ對シ批議ヲ生ジテ天下ニ生ジ由々
數大事ナルノミナラズ世界ノ人道及
國際ノ信義 ニ反シタリトノ非難ヲ受クルニ至ルハ從來
排日支那人ノ行動ヨリ觀察シテ免ル能ハザル所ナリ
ト思料致候斯ノ如キ大影響ヲ生ムコト實ニ恐縮ニ堪
ヘズ小生ハ現在及將來ニ於テモ如何ニモシテ此事實
ヲ飽遠隱弊セムト欲スルガ故ニ先ツ現職ヲ去リテ責
任アル言ヲ選タムトスルモノニ有之候

第三 有力ナル紳士ノ名ヲ表ハスヲ怖ル
阿片小賣人トナルモノハ皆支那人ナレドモ内部ニ日
本人ノ關係アリ單ニ名義ノミヲ支那人ニ委託シタルモノ
モアリ又ハ組合ヲナセルモノ等約三分ノ二アリト思料
ス此關係者ハ關東州ニ於ケル
顯著ナル紳士 少カラズ又此度疑獄ヲ招ケル特賣人ハ
即チ小賣人中手廣ク賣買ヲナスモノヲ言ヒ特賣人ハ
比較的利便多キハ自然ノ結果ニ有之此特賣人ヲ選
ブハ資本及手腕ヲ有スルモノノ限リ宏濟善堂ニ於テ
適當ナル支那人ヲ指定スルモノナレドモ一旦之ヲ指
定スレバ必らず其裏面ニ喰入ルモノアルヲ毎トス從來
此裏面ノ人々ハ種々運動又ハ情實ニテ默認セラレ
タル一私人多カリシガ如キモ大正八年ヨリハ向ホ斯ガ
、利益ニ加ハルモノハ
國家の事業 ヲナスモノヲ認容スルヲ可ナリトシ第一各
新聞社(當地ノ)第二日露戰役ノ時功勞アリタル支
那人二名ノ外第三三浦原基輔第四根井盛ヲ默認セリ
蒲原基輔ハ支那人有力者及日本人タル所謂支那浪
人其他ヲ代表シタルモノハ棍井盛ハ代議士ノ團體ヲ代
表シタルモノニテ當時ノ長官及事務總長ノ承認ヲ經
閣下ノ御就任後モ之ヲ報告シタルモノニ有之候若シ
一朝司法官ノ糾問ニ接スレバ告白セザルベカラザルニ
至ルベク爲ニ關東州ニ於ケル名譽アル紳士ニシテ面
目ヲ失スル者ヲ生シ秩序ヲ紊亂スルノ恐レアルノミナ
ラズ内地ニ於ケル有力者ヲシテ世間指彈ノ的トナルモ
ノヲ生ズルヲ免レズ

以上ノ如クニシテ第一ハ最モ恐ル處ニ有之又第二第
三ニ關シテハ小生敢テ職ヲ退キテ隱密ヲ表白セムトス
ル者ニハ無之阿片賣捌問題司法事件トセバ前述ノ
事實ハ到底之ヲ密問セザレバ要領ヲ得ル事能ハザル
ガ故ニ小生モ或程度迄ハ口ヲ開カシメラルルニ至ルヲ
怨ムモノニ有之候
元來本事件ハ 告訴者アリタルニアラズ警察官ノ報告
ニ依リタルニアラズ檢察官ノ認定ニ出デタルニアラズ
政府反對黨ノ長谷川隆通ナルモノ、材料ニ依リ閣下
ハ時日ヲ闡明スル爲メニ御下命アリテ起リタル事件
ニ有之然ルニ檢察官警察官ノ搜查ハ實ニ辛辣ヲ極メ

小生部下ノ警察官ニシテ小生ヲ搜查シ或ハ外部ニ秘
密ヲ漏洩スル等言語ニ絶スルモノ有之候希クハ向閣
下ノ御内命ニ依リ極メテ穩當ナル進行ヲ執ラシメラレ
候様熱望致候小生辭表提出ノ苦情ヲ訴フルト共ニ
懇願止マザル所ニ有之候
○議長(與繁三郎君) 清瀨一郎君——清瀨君ノ演說中
ニ原敬君ガ云々ノ行為ヲ敢テシタコト云フ言葉ガアリマシタ
、又高橋首相ハ云々ト云フコトヲ言ハレマシタ、此二節ダケハ
少シ不穩當ノヤウニ思ヒマス、御取消ニナルコトヲ望ミ
マス
○清瀨一郎君 言ハナイト思ヒマス、前後ノ事情ニ依リ
マシテ、若シ速記ニアリマシタラ取消シマス
○議長(與繁三郎君) 取消サレマシタ——松本君平君
君平君ノ意見

○松本君平君 本員ハ變ニ普通選舉ノ問題ニ關シマシテ
高橋總理大臣ニ質問書ヲ提出シテ居タルデアリマス、然ル
ニ今日高橋首相ヨリ得タル所ノ質問書ノ回答ハ私ガ普通
選舉ニ對シテ問ハント欲スル所ノ問題トハ、大變意味ヲ異
ニシテ居リ、或ハ誤解サレテ此質問ノ答辯書ヲ作ラシコト
ト思フデアリマス、故ニ此總理大臣ヨリ答辯書ニ對シテ
更ニ私ハ私ノ意見ヲ述ベテ、而シテ此意見ニ對スル高橋首
相ノ、何等カノ辯明ヲ得ルコトヲ望ムデアリマス、普通選
舉ノ問題ハ既ニ非常ナル天下ノ輿論トナツテ、方ニ國民ノ
聲トシテ有ル方面ニ叫バレテ居ルデアリマス、而シテ其
叫ブ所ノ聲ハ、日ニ月ニ熾烈ニ且ツ峻峭ニナリツ、アリマス、
而シテ議院ノ中ニ於テハ、普通選舉ノ問題ニ付テ、今迄意
見ヲ異ニシテ居タル所ノ各派ガ輿論ノ勢力ニ同化サレテ、
ニ全ク一致ノ態度ヲ執ルコトニナツテ、此普通選舉統一案
ハ、不日上程サル、コトニナツテ居ルデアリマス、此時ニ於
テ閣下ノ首座ニ立ツテ所ノ高橋首相ガ、普通選舉ニ關スル
考ヲ議場ニ於テ少クモ 述ベナケレバナラズデアリマス、
不幸ニシテ、普通選舉首相ガ内閣組織以來、未タ一度モ本議
場ニ於テ、普通選舉ニ關スル意見ヲ述ベテ居ラナイ、是ハ本
員ノ甚ダ遺憾トシ、又國民モ最モ遺憾トスル所ト思フ、
アリマス、高橋君ハ久シク海外ニ居ラレテ、世界ノ事情ニモ
能ク通ジテ居ル、又列國ノ形勢ニモ明ナルデアアル、固ヨリ
此政黨の經歷或ハ手腕トシテハ、原前首相ニ及バズ所ガア
ルカモ知レタレドモ、政黨ヲ超越シテ、汎ク世界ノ眼光カ
ラ政治ヲ遠觀シタル其智識ニ於テハ、或ハ原首相ヨリモ一
歩ヲ進メテ居ルカモ知レズ、隨テ此高橋内閣ノ首相ガ普通
選舉ニ關シテ又民衆ノ政治ト云フコトニ對シテ、原首相ヨ
リモ更ニ一歩進シタ考、又普通選舉ニ關スル所ノ理解ヲモ
持テ居ラルコトト私ハ思フデアリマス、故ニ私ハ多大ナ
リ期待ト興味ヲ持テ、高橋首相ガ何等カ此本議場ニ於テ

普通選舉ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル松本
君平君ノ意見
(松本君平君登壇)
○松本君平君 本員ハ變ニ普通選舉ノ問題ニ關シマシテ
高橋總理大臣ニ質問書ヲ提出シテ居タルデアリマス、然ル
ニ今日高橋首相ヨリ得タル所ノ質問書ノ回答ハ私ガ普通
選舉ニ對シテ問ハント欲スル所ノ問題トハ、大變意味ヲ異
ニシテ居リ、或ハ誤解サレテ此質問ノ答辯書ヲ作ラシコト
ト思フデアリマス、故ニ此總理大臣ヨリ答辯書ニ對シテ
更ニ私ハ私ノ意見ヲ述ベテ、而シテ此意見ニ對スル高橋首
相ノ、何等カノ辯明ヲ得ルコトヲ望ムデアリマス、普通選
舉ノ問題ハ既ニ非常ナル天下ノ輿論トナツテ、方ニ國民ノ
聲トシテ有ル方面ニ叫バレテ居ルデアリマス、而シテ其
叫ブ所ノ聲ハ、日ニ月ニ熾烈ニ且ツ峻峭ニナリツ、アリマス、
而シテ議院ノ中ニ於テハ、普通選舉ノ問題ニ付テ、今迄意
見ヲ異ニシテ居タル所ノ各派ガ輿論ノ勢力ニ同化サレテ、
ニ全ク一致ノ態度ヲ執ルコトニナツテ、此普通選舉統一案
ハ、不日上程サル、コトニナツテ居ルデアリマス、此時ニ於
テ閣下ノ首座ニ立ツテ所ノ高橋首相ガ、普通選舉ニ關スル
考ヲ議場ニ於テ少クモ 述ベナケレバナラズデアリマス、
不幸ニシテ、普通選舉首相ガ内閣組織以來、未タ一度モ本議
場ニ於テ、普通選舉ニ關スル意見ヲ述ベテ居ラナイ、是ハ本
員ノ甚ダ遺憾トシ、又國民モ最モ遺憾トスル所ト思フ、
アリマス、高橋君ハ久シク海外ニ居ラレテ、世界ノ事情ニモ
能ク通ジテ居ル、又列國ノ形勢ニモ明ナルデアアル、固ヨリ
此政黨の經歷或ハ手腕トシテハ、原前首相ニ及バズ所ガア
ルカモ知レタレドモ、政黨ヲ超越シテ、汎ク世界ノ眼光カ
ラ政治ヲ遠觀シタル其智識ニ於テハ、或ハ原首相ヨリモ一
歩ヲ進メテ居ルカモ知レズ、隨テ此高橋内閣ノ首相ガ普通
選舉ニ關シテ又民衆ノ政治ト云フコトニ對シテ、原首相ヨ
リモ更ニ一歩進シタ考、又普通選舉ニ關スル所ノ理解ヲモ
持テ居ラルコトト私ハ思フデアリマス、故ニ私ハ多大ナ
リ期待ト興味ヲ持テ、高橋首相ガ何等カ此本議場ニ於テ

三〇九

普通選舉ニ關スル抱負、若クハ意見ヲ述ベラル、コトヲ望
ンデ居ルノデアリマス、所ガ今得タル所ノ答辯書ヲ見レバ殆
ド空漠ナルモノデアラデ、何ヲ意味シテ居ルカ、私ガ問ハント欲
スル所ノ意味ハ少シモ入デ居ラナイ、在來リナ事ヲ述ベテ、
サウシテ時勢ノ進運ニ伴ウテ選舉權ヲ擴張スルト云フヤウ
ナ常套語ヲ述ベテ斯ウ云フ事ニ依ッテ、私ハ高橋首相ガ現
代ノ政治ニ對スル理解、普通選舉ニ關スル所ノ諒解ヲ聽カン
トスルノデハナイ、言フマデモナク戰後ノ人心ハ非常ナル激
變ヲシテ居ル、益々險惡ヲ増シテ居ルコトハ、否ムベカラザル所
ノ事實デアリマス、生活ノ脅威ヨリ來ル所ノ人心ノ不安之
ニ依テ生ズル所ノ道德ノ頹廢、思想ノ動搖ヨリ生ズル所ノ
社會の變遷、隨テ從來ノ舊キ信條ト云フモノハ——政治的
信條ガ殆ド破壊サレテ來テ居ル、無產階級ノ人が自覺ヲ持
テ、茲ニ自由ト平等ノ叫ヲ舉ゲテ來テ居ル、隨テ現代資本
家ト勞働者ノ爭議ガ起リ、小作人ト地主ノ爭ガ起リ、到ル
處ニ「ストライキ」ナリ騷動ガ今行ハレツ、アル、社會ノ各階
級ヲ通ジテ險惡ナル——最も險惡ナル所ノ氣圍氣ガ醸成サ
レテ居ルコトハ、何人モ之ヲ否ムコトガ出來ナイト思フ、茲ニ
安田善次郎君ガ不幸ナル最期ヲ遂ゲタノモ、政治的ニ於テ
ハ原首相ガ暗殺セラレタノモ皆此惡化シタル、濃厚ナル政治
的社會の危險ナル氣圍氣、犠牲トナッタノデアル、而シテ此
過激思想、思想ノ動搖ヨリ生ズル所ノ人心ノ非常ナ兇險
ノ有様ハ、加速度ノ勢ヲ以テ、深ク社會ノ人心ノ根柢ニ喰
入リツ、アルト思フノデアリマス、又現在軍隊内ニ於テ如何
ニ思想ガ荒ミ、人心ガ荒廢シ、軍隊ノ秩序ガ紊レツ、アルト
云フコトハ賢明ナル諸君ノ皆知ラレル所デアラウト思フ、曩
ニ富山縣ニ於テ除隊兵ガ非常ナ亂暴ヲシテ、將校ニ對シテ
大ナル威嚇ヲ加ヘタ事モアル、又軍服ヲ燒棄テト云フヤウ
ナ兵隊モアル、軍隊ノ中ニ非常ナル人心ノ荒シテ行ク所ノ
聲ガ起リツ、アルノデアリマス、社會主義ノ人が軍隊ニ宣傳
スル程易イコトハナイト言ッテ居ル、彼等ハ今皆軍隊ニ向ッ
テ宣傳ヲシテ居ルノデアル、ソレハ軍隊内ニ於テ非常ナル不
滿ト、人心ノ廢類ガ行ハレツ、アルト云フ著シキ例デアリ
マス、此社會の危機、政治的の危機ヲ取去ルニハ、ドウシテモ
普通選舉ヲ一日モ早クシナクバナラヌト吾々ハ考ヘテ居
ル、一日早ケレバ一日ダケノ此國家國民ガ此危難ヨリ免ル
ルコトガ出來、一刻速ナケレバ、一刻速ナルダケノ社會ノ安
定ヲ得ルコトニ付テ大ナル助ケニナル、然ルニ總理大臣ノ答
辯書ヲ見ルト、何時普通選舉ニスルヤラ譯ノ分ラヌ雲ヲ擱
ム如ク、煙ヲ擱ムヤウナ返答ヲシテ、世ノ進運ニ從ッテ選舉
ヲ擴張スルト云フヤウナコト、サウ云フ樂觀的ナ氣樂ナ世ノ中
デハ私ハナイト思フ、元來普通選舉ノ思想ト云フモハ是レ
自由黨以來ノ傳統の思想デアリマス、而シテハ政友會諸
君ガ、此自由黨ノ尊キ自由民權ノ思想ノ相續者デアル、併
ナガラ不幸ニシテ此政友會ハ、十數年以來殆ト催眠ノ狀
態ニ陥ッデ居リハシナイカト思フ（拍手）最早諸君ガ覺醒シ
テモ好イ時ガ來テハ居ナイカ、曩ニ高橋首相ガ内閣ヲ組織
サレタ時ニ、大膽ナル告白ヲ爲シテ、高橋内閣ハ高橋内閣

デアラテ、原内閣ハ原内閣デアアル、是ハ別物デアアルト云フヤウナ、極テ大膽ナル意見ヲ發表サレテ居ル私ハ是非非常ニ贊成スルノデアアル、而シテ此高橋内閣ノ成立ニ云フコトハ、政府與黨ニ取テハ絶大ノ好機會デアリハシナイク、精神ハ、政友會ガ復活スル時ハ正ニ此時デアナイカト私ハ思フ、故ニ心機一轉シテ吾々ガ今唱ヘテ居ル所ノ普通選舉ニ諸君モ贊同セラレテ、サウシテ此際國民國家ノ安定ヲ圖ル爲ニ、議院總體ノ力ニ依ツテ、此問題ヲ一日一刻モ速ニ解決スル方ガ利益デアラウト思フノデアリマス、此事ガ最も賢明ナル策デアルト思フ、今マデノ行懸ヤ面目ト云フ問題、區々タル問題ニ拘泥セズニ、斯ノ如キ末節ニ心ヲ痛メズ、磊々落々タル心事ヲ以テ、總テノ行懸政黨ノ關係ヲ破ツテ、サウシテ玆ニ大政治家ノ襟度ヲ行テ、此機會ニ吾々年來ノ主張デアアル普通選舉ヲ實行サレテハドウカ、即行サシテハドウカ、高橋首相ハ是ダケノ全體度胸ガアルデアラウカ、或ハ勇氣ガアルデアラウウ、又曩ニ原首相ハ其政治的信條トシテ、普通選舉スト云フモノハ社會組織ヲ脅威スルモノデアアル、或ハ階級ヲ打破スルモノデアアル、危險思想ヲ起スモノデアルト云フコト以テ、政治上ノ信條トシテ居ル、斯ノ如キ時代錯誤ノ思想ハ、恐クハ高橋首相ハ之ヲ繼續シテ居ルヤ否ヤ、私ガ質問セントスル問題ハ、即チ曩ニ原敬君ガ持テ居ラレタ所ノ普通選舉ニ對スル信條、此信條ハ高橋首相モ矢張同様ナ考ヲ持テ居ラル、ヤ否ヤ是ハ餘程吾々國民トシテ考ヘナケレバナラヌ問題デアアル、又今日尙ホ首相ハ依然トシテ、普通選舉尙ホ早シト云フ意味デアルカ、此答辯ニ依ツテ見レバ、普通選舉尙ホ早シト云フヤウナ意味ガ見エテ居ルノデアアル、レドモ私ノ間ハ断リ欲スル所ノモノハ、普通選舉ガ尙ホ早イナラバ、其根據ガ何所ニ在ルモノト云フコトヲ示シテ貫ヒタイ——國民ニ示シテ貫ヒタイノデアアル、吾々ハ一日一刻ヲ爭フテ此問題ノ解決ヲ迫テ居ル、唯ダ漠然トシテ時勢ノ進運ニ伴フデ云々ト云フコトヲ言ハレテ居テハ、吾々ハ甚ダ覺束ナク考ヘルノデアアル、今若シ國民ノ教育ガ無イガ爲ニ——國民教育ガ幼稚ナルガ爲ニ普通選舉ヲ行フガ早イト云フ議論ナラバ、是非非常ニ矛盾シタ議論ト謂ハナケレバナラヌ、何トナレバ、文部省ノ出シタ所ノ最近ノ調査ニ依ルト、日本ノ國民教育ハ世界文明國ニ於テ第一流デアアル、英吉利、佛蘭西ヨリモ遙カ國民教育ノ程度ガ進ンデ居ル、唯タ僅ニ獨逸ハ獨逸ニ劣デ居ルダケデアアル、英吉利佛蘭西ヨリハ遙ニ國民教育ノ程度ガ進ンデ居ル、斯ノ如キ狀態デアルナラバ、國民教育ガ劣テ居ルガ故ニ、普通選舉尙ホ早シト云フ理窟ガ立タヌ若シ他ニ立派ナ理窟ガアルナラバ之ヲ教ヘテ貫ヒタイ、又此各辯ニ依ルト、地方議會ノ議員資格云々ト云フコトヲ言ハレテ居ル、詰リ衆議院ノ選舉法ヲ改正シテ普通選舉ニスル前ニ、地方議會ノ議員ノ資格ヲ改メナケレバナラヌト云フ議論ノヤウニ見エル、併ナガラ是ハ根本ニ於テ政治ノ道ヲ誤テ居ルモノト思フ、地方議會ニ於ケル政治ノ精神ト中央議會ニ於ケル政治ノ精神トハ、根本ニ於テ政治ノ主義

ヲ異ニシテ居ル、中央ニ於ケル衆議院議員ノ選舉ヲ普通選舉ニスル前ニ、地方議會ヲ云々シナケレバナラヌト云フ理窟ハ少シモ無イノデアル、又今日國民ノ要求ガ——普通選舉ニ對スル要求ガ尙ホ足ラヌト云フ理由ニ依テ、尙ホ早シトスルノデアルカ……

○議長(奥繁三郎君) 松本君ニ注意シマス、普通選舉ニ付テハ御意見ヲ御述ナサルコトハ御自由デアリマスクレドモ普通選舉ニ對シテ改正案ガ出テ居リマス、是ハ明後二十三日ノ日程ニ上リ、其時ニ各派カラ十二分ノ御議論アルコトデアリマセウカラ、高橋首相ニ對スル質問ダケニ止メテ、普通選舉ノ事ハ各派ニ對シテ御遠慮ヲ爲サルコトヲ望ミマス

○松本君平君(續) フツテ居リマス、今私が此辯明ヲスル必要ガアルカラ此處ニ立ッタノデアリマス、又此總理大臣ノ答辯ニ對シテ、斯ノ如キ漠然タル意味ノ分ラヌ答辯ハ、私ハ満足ヲスルコトガ出来ナイ、故ニ之ニ對シテ意見ヲ述ベルノデアリマス、而シテ此普通選舉ノ要求シモノハ、國民ノ今日熱烈ナル叫トナッテ、津々浦々マデ徹底シテ居ルノデアル、最早普通選舉ノ叫ハ政黨の色彩ヲ超エテ居ル、國民ノ痛切ナル要求トナッテ來テ居ルノデアリマス、單純ナル政治運動デナイ、國民的運動ニナッテ來テ居ル、今ノ全國ノ言論機關ヲ見レバ、關西ニ於テハ數日前ニ於テ新聞記者大會ガアリ、茲ニ言論機關ノ霸權ヲ握ッテ居ル新聞社及記者ガ一齊ニ起ッテ、普通選舉ノ必要ヲ説イテ居ル、又昨夜モ日本全土ノ新聞記者大會ガ催サレテ、言論機關ノ氣焰ヲ揚ゲテ居ル、勞働者モ普通選舉ヲ叫ビ、又學生モ普通選舉ヲ叫ビ、僧侶ノ如キモ既ニ參政權ノ要求、普通選舉ノ叫ヲ揚ゲテ居ルノデアル、而シテ議院ノ内ニ於テハ、在野黨ハ一致シテ茲ニ統一スル所ノ議案ヲ提出シテ居ル、是ハ皆最近二三年間ニ於ケル所ノ大ナル形勢ノ變化デアデ、此形勢ノ變化ニ依ッテ來ル所ノ普通選舉ナルモノハ、非常ナル白熱的的要求ノ聲ニナッテ來テ居ルノデアル、然シ斯ノ如キ要求ガアツテモ、尙ホ普通選舉早シトシテ之ヲ拒ムノデアラウカ、私ハ「チヤリナスト」ノ騷動ノ如キモノガ起テ、サウシテ血ノ雨ヲ降ラサナケレバ、普通選舉ト云フモノヲ實行シナイト云フ考デアラウカナケレバ、甚ダ疑ニ堪ヘナイノデアル、又非常ニ之ヲ危險ニ思フノデアアラウカナラヌ、二月革命ノ如キモノ起リ細民ノ——無產階級ノ人ノ偉大ナル示威運動ガ起ッテ、茲ニ多クノ人ノ生命財產ヲ破壊シテ、始めテ普通選舉ヲ行フト云フヤウナ歐羅巴ノ例ノヤウウ時代ニ、我國ガ普通選舉ノ歴史ヲ取ツタナラバ、是ハ實ニ大正ノ不幸ナル出来事ト謂ハナケレバナラヌ、斯ノ如キ出来事ヲ避クルコトヲ望ムガ故ニ、吾々ハ一日モ速ニ此問題ノ解決ヲシテ曖昧模糊ノ答辯ヲシテ居ルト云フコトハ、何タル時代ヲ諒解セザル政治家ノ言デアラウカ、議會既ニ待ムニ足ラヌハ、直接行動ヲシナケレバナラヌト云フ聲ハ、到處ニ聞エテ居ルノデアル、斯ノ如キ現代ノ有様ヲ見レバ、殆ど過激思想ニ

油ヲ注グ如キ狀態アルト思フ、斯クノ如クニシテ時ガ推移シ、日ガ推移シタラバ、人心ノ荒廢ヲ如何ニセント思フノデアル、原氏ハ衆議院ノ狀態ヲ見、院ノ内外ニ於テ議會ニ強要シタルヲ以テ議會ヲ解散シテ、サウシテ之ヲ國論ニ問ウタノデアルカ、今日ハ二年後ニ於テ此要求ノ聲ハ、更ニ二箇年前ニ於テ原首相ガ議會ヲ解散シタリヨリモ、更ニ猛烈ナル要求ヲシテ居ルノデアル、澎湃タル普選ノ叫ノ聲ハ、二三年前ノ叫聲トハ餘程違フデアル、私ハ此現代ノ有様、明後日ニ於テハ普選案ガ上程サルノデアル、其普選案ガ上程サルニ付テハ、三千有餘ノ警官ガ議會ヲ取巻キテ、群集ノ威嚇カラ議會ヲ保護セんとスルヤウナ狀態デアリマセヌカ、又聞ク所ニ依リマスレバ、明後日請願書ヲ持テ議會ニ來ラントスル所ノ多ク、請願人ヲ、議會ニ近ヅカセムト云フヤウナコトヲ聞イテ居ル、又其爲ニ運動シテ居ル所ノ有力ナル人々ヲ檢束シ、或ハシテ警官ニ依テ捕縛スルハ云フヤウナ危險ナル噂モ聞イテ居ルノデアル、今日ノ形勢ハ正ニ革命ノ色彩ヲ帶ビテ居ルト思フ、數日前ニ私ハ二三ノ新ニ來タ所ノ外國人ヲ連レテ、普通選舉ノ示威運動ヲ見セタ、ソレハ英吉利人デアル、彼レ曰ク、是ハ確ニ英吉利ニ於テハ、之ヲ稱シテ革命的示威運動デアルト云フデアル、外國人ノ目ニ映ズル所ノ日本ノ民衆ノ要求ハ、殆ド革命ノ色彩マデ進ンデ來テ居ルノデアル、是デモ尙ホ普通選舉尙早シト云フヤウナ緩慢ナル考ヲ以テ、總理大臣ハ政治ヲ執テ居ラント云フカドウカ、元來政治ト云フモノハ、國民ノ總テノ生活ノ基調デアル、所ガ我國ニ於テハ國民ノ政治の生活ト云フモノガ甚ダ貧弱ニシテ、世界無比ト言フデ宜イノデアル、英國ノ婦人ノ半分ノ數ニ足ラナイ位ノ有權者ガ日本ノ政治ヲシテ居ル、私ハ曾テ數年前ニ於テ、此演壇ニ於テ普通選舉ノ論ヲ述ベタ時ニ於テ、希臘ノ文明ト富強ノ絶頂ニ到リタ時ニ、二十人ニ對シテ一人ノ有權者デアル、即チ自由人、民デアル、羅馬ガ權力ト富強ノ絶頂ニ達シタ時ニ於テハ、四人ニ對シテ一人ノ有權者デアル、二十人ニ對シテ一人デアル、タ所ノ希臘ノ文明富強ハ、百五十年ニシテ凋落シテシマッタ、羅馬ノ文明ト富強ガ比較的長ク五百年ノ歲月ヲ維持シタコトハ、全ク自由人民ノ數ガ多ク、多クノ有權者ニ依リテ國ノ政治ガ動キ、其多クノ自由人民ノ上ニ國家ノ政治ガ行ハレテ居タコト云フコトガ、即チ羅馬ノ文明ノ永續ノ所以デアルト云フコトヲ、モンテスキューガ羅馬盛衰論ノ雄大ナル結論トシテ居ルノデアル、大多數ノ國民ガ、我國ニ於テハ尙ホ自由人民ト云ヘナイ、奴隸ノヤウナ境遇ニ居ル、唯タ義務ノミヲ持テ居テ、何等ノ權利ヲ與ヘラレテ居ラヌ、高橋首相ハ貴族院ニ於テ或ル議員ノ問ニ對シテ、日本ニ於テハ權利ノミヲ主張シテ、義務ト云フモノヲ現サナイ云フコトヲ言フデ居ルケレドモ、日本ニ於テハ事實ニ於テ權利ハ與ヘラレシメ義務ノミヲ負フデ居ルノデアル、今日ノ代議政體ハ此意味カラ言フタナラバ、私ハ有名無實ノモノデアルト思フ、而モ自ラ稱シテ是ガ世界ノ大國民デアアル、三大文明國ノ一デアルト言フガ、全ク恥カシイ話デアルト思フ、眞ニ文明ノ目カラ

見レバ、洵ニ日本ノ代議政體ナルモノハ、沐猴ニシテ冠スルヤウナモノデアアル、何等ノ醜態カト言ヒタイ位ノモノデアアル、私ハ此點ニ於テ、實ハ高橋首相ノ良心ニ向テ問ハントシテ居タノデアル、即チ首相トシテ一國ノ文明ノ代表者政治ノ首坐ニ立ツ所ノ人ガ、世界列國ニ對シテ斯ノ如キ狀態ニ國民ヲ置クコトハ恥辱デハナイカ、文明ノ名ニ對シテ恥カシクナイカト云フコトヲ高橋首相ニ問ハントスルノデアル、此答辯書ニ於テ見ルガ如キ考ニ依リテ、高橋首相ガ此議會ニ臨ミ政治ヲ爲サル、ナラバ、恐ラクハ民衆ハ猛烈トシテ蹴起スル時ガアラウト思フ、全國民ハ一大決心ヲ以テ立タナラヌナラスト私ハ思フ、今ヤ普通選舉ノ聲ハ、現代ノ醜惡ナル政治ヲ改造セントスル所ノ新時代ノ叫ビデアリマス、此熱烈ナル要求ハ根本的ノ問題デアアル、而シテ此要求ノ背後ニハ、數千萬ノ政治ニ生キントスル所ノ、政治生活ヲ爲サントスル所ノ民衆ガ控ヘテ居ルト云フコトヲ忘レテハナラスト思フ、尙ホ高橋首相ガ此問題ニ對シテ、誠心誠意ニ其政治の理想ヲ披瀝シテ國民ニ安心ヲ與ヘ、而シテ將ニ切迫セントスル所ノ普選ノ大問題ニ對シテ、豫メ國民ニ其意思ヲ徹底セシムルト云フコトハ必要ノ事ト思フ、故ニ私ハ更ニ高橋首相ガ是等ノ重要ナル根本政治ノ問題ニ付テ、十分ニ御答アラント望ムノデアリマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 日程第一乃至第五ハ山内司法次官ヨリ説明ガアリマス——山内司法次官

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 日程第一乃至第五ハ山内司法次官ヨリ説明ガアリマス——山内司法次官

第一 信託法案(政府提出)

信託法案

信託法

第一條 本法ニ於テ信託ト稱スルハ財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財產ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

第二條 信託ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 登記又ハ登録ヲ爲スヘキ財產權ニ付テハ信託ハ其ノ登記又ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

有價證券ニ付テハ信託ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ證券ニ信託財產ナルコトヲ表示シ株券及社債券ニ付テハ尙株主名簿又ハ社債原簿ニ信託財產タル旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條 受託者ハ信託行為ノ定ムル所ニ從ヒ信託財產ノ管理又ハ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 未成年者、禁治產者、準禁治產者及破產者ハ受託者ト爲ルコトヲ得ス

妻カ信託ノ引受ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

民法第十四條第二項及第十五條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 信託ノ引受ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第七條 信託行為ニ依リ受益者トシテ指定セラレタル者ハ當然信託ノ利益ヲ享受ス但シ信託行為ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アル場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託管理人ヲ選任スルコトヲ得但シ信託行為ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

信託管理人ハ前項ノ受益者ノ爲自己ノ名ヲ以テ信託ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

裁判所ハ事情ニ依リ信託財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ信託管理人ニ與フルコトヲ得

第九條 受託者ハ共同受益者ノ一人タル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十條 法令ニ依リ或財產權ヲ享有スルコトヲ得サル者ハ受益者トシテ其ノ權利ヲ有スルト同一ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十一條 信託ハ訴訟行為ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權者ハ受託者カ善意ナルトキト雖民法第四百二十四條第一項ニ規定スル取消權ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ受益者カ既ニ受ケタル利益ニ影響ヲ及ボサス但シ受益者ノ債權カ辨濟期ニ到ラサルトキ又ハ受益者カ其ノ利益ヲ受ケタル當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキハ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサルシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 受託者ハ信託財產ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ付之ヲ準用ス

第十四條 信託財產ノ管理、處分、滅失、毀損其ノ他

ノ事由ニ因リ受託者ノ得タル財産ハ信託財産ニ屬ス
第十五條 信託財産ハ受託者ノ相續財産ニ屬セス
第十六條 信託財産ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シ
タル權利又ハ信託事務ノ處理ニ付生シタル權利ニ基
ク場合ヲ除ク外信託財産ニ對シ強制執行ヲ爲シ又
ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル強制執行又ハ競賣ニ對
シテハ委託者、其ノ相續人、受益者反受託者ハ異議
ヲ主張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第
五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 信託財産ニ屬スル債權ト信託財産ニ屬セ
サル債權トハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 信託財産カ所有權以外ノ權利ナル場合ニ
於テハ受託者カ其ノ目的タル財産ヲ取得スルモ其ノ
權利ハ混同ニ因リテ消滅スルコトナシ

第十九條 受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ
負擔スル債務ニ付テハ信託財産ノ限度ニ於テノミ其
ノ履行ノ責ニ任ス

第二十條 受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理
者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス

第二十一條 信託財産ニ屬スル金銭ノ管理方法ニ關
シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス
信託財産ヲ固有財産ト爲シ又ハ之ニ付權利ヲ取得
スルコトヲ得但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於
テ裁判所ノ許可ヲ受テ信託財産ヲ固有財産ト爲スハ
此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ受託者カ相續其ノ他包括名義ニ因リ
信託財産ニ付權利ヲ承繼スルコトヲ妨ケス此ノ場合
ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特
別ノ事情ニ因リ信託財産ノ管理方法カ受益者ノ利
益ニ適セサルニ至リタルトキハ委託者、其ノ相續人、受
益者又ハ受託者ハ其ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコト
ヲ得

前項ノ規定ハ裁判所ノ定メタル管理方法ニ付之ヲ準
用ス

第二十四條 受託者數人アルトキハ信託財産ハ其ノ
合有トス

前項ノ場合ニ於テ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除
ク外信託事務ノ處理ハ受託者共同シテ之ヲ爲スコ
トヲ要ス但シ其ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ
他ノ受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第二十五條 受託者數人アルトキハ信託行爲ニ因リ受
益者ニ對シテ負擔スル債務ハ之ヲ連帶トス信託事務
ノ處理ニ付負擔スル債務亦同シ

第二十六條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合
ヲ除ク外已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ他人
ヲシテ自己ニ代リテ信託事務ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ受託者ハ選任及監督ニ付テノミ
其ノ責任ニ任ス信託行爲ニ依リ他人ヲシテ信託事務ヲ
處理セシメタルトキ亦同シ

受託者ニ代リテ信託事務ヲ處理スル者ハ受託者ト同
一ノ責任ヲ負フ

第二十七條 受託者カ管理ノ失當ニ因リテ信託財産
ニ損失ヲ生セシメタルトキ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信
託財産ヲ處分シタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益
者及他ノ受託者ハ其ノ受託者ニ對シ損失ノ填補又
ハ信託財産ノ復舊ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 信託財産ハ固有財産及他ノ信託財産ト
分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス但シ信託財産タル
金銭ニ付テハ各別ニ其ノ計算ヲ明ニスルヲ以テ足ル

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ受託者カ前條ノ規
定ニ違反シテ信託財産ヲ管理シタル場合ニ之ヲ準用
ス

前項ノ場合ニ於テ信託財産ニ損失ヲ生シタルトキハ
受託者ハ分別シテ管理ヲ爲シタル場合ニ於テモ損失ヲ
生スヘカリシコトヲ證明スルニ非サレハ不可抗力ヲ理
由トシテ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十條 信託財産ニ付附合、混和又ハ加工アリタル
場合ニ於テハ各信託財産及固有財産ハ各別ノ所有
者ニ屬スルモノト看做シ民法第二百四十二條乃至
第二百四十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産
ヲ處分シタルトキハ受益者ハ相手方又ハ轉得者ニ對
シ其ノ處分ヲ取消スコトヲ得但シ信託ノ登記若ハ登
録アリタルトキ又ハ登記若ハ登録セシメタル信託財
産ニ付テハ相手方及轉得者ニ於テ其ノ處分カ信託ノ
本旨ニ反スルコトヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ
因リテ之ヲ知ラザリシトキニ限ル

第三十二條 受益者數人アル場合ニ於テ其ノ一人カ
前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ他ノ受益者ノ爲
ニ其ノ效力ヲ生ス

第三十三條 第三十一條ノ規定スル取消權ハ受益者
又ハ信託管理人カ取消ノ原因アルコトヲ知リタル時
ヨリ一月内ニ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス處分ノ時ヨリ

一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十四條 受託者タル法人カ其ノ任務ニ背キタルト
キハ之ニ干與シタル理事又ハ之ニ準スヘキ者亦連帶
シテ其ノ責任ニ任ス

第三十五條 受託者ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス
場合ヲ除ク外特約アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコト
ヲ得ス

第三十六條 受託者ハ信託財産ニ關シテ負擔シタル
租稅、公課其ノ他ノ費用又ハ信託事務ヲ處理スル爲
自己ニ過失ナクシテ受ケタル損害ノ補償ニ付テハ信
託財産ヲ賣却シ他ノ權利者ニ先テ其ノ權利ヲ行フ
コトヲ得

受託者ハ受益者ニ對シ前項ノ費用又ハ損害ニ付其
ノ補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
但シ受益者カ不特定ナルトキ及未タ存在セサルトキハ
此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ受益者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ
ハ之ヲ適用セス

第三十七條 前條ノ規定ハ受託者カ信託財産ヨリ報
酬ヲ受クヘキ場合ニ其ノ報酬ニ付之ヲ準用ス受託者
カ受益者ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合亦同シ

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル受託者
ノ權利ハ受託者カ第三十七條又ハ第二十九條ノ現
定ニ依リ損失ノ填補及信託財産復舊ノ義務ヲ履行
シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十九條 受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事
務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要ス

受託者ハ信託引受ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於
テ各信託ニ付財産目録ヲ作ルコトヲ要ス

第四十條 利害關係人ハ何時ニテモ前條ノ書類ノ閱
覽ヲ請求スルコトヲ得

委託者、其ノ相續人及受益者ハ信託事務ノ處理ニ
關スル書類ノ閱覽ヲ請求シ且信託事務ノ處理ニ付
説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 信託事務ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲
ス場合ヲ除ク外裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ
信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且検査役ヲ選任シ
其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ受託者ノ相續人、其ノ法定代理

人、破産管財人、後見人、保佐人又ハ清算人ハ新受

託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄信託

財産ヲ保管シ且信託事務ノ引繼ニ必要ナル行為ヲ

爲スコトヲ要ス法人合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ

設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人亦同シ

第四十三條 受託者ハ信託行為ニ別段ノ定アル場合

ヲ除ク外受益者及委託者ノ承諾アルニ非レハ其ノ

任務ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十四條 信託行為ニ依リ特定ノ資格ニ基キ受託

者ト爲リタル者其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ任務

ハ之ニ因リテ終了ス

第四十五條 第四十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ任務

終了シタル者ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコト

ヲ得ルニ至ル迄仍舊受託者ノ權利義務ヲ有ス

第四十六條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ受託者

ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第四十七條 受託者カ其ノ任務ニ背キタルトキ其ノ他

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ委託者、其ノ相續

人又ハ受益者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ

得

第四十八條 第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ受託

者其ノ任務ヲ辭シ又ハ解任セラレタルトキハ裁判所ハ

信託財産ノ管理人ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ

命スルコトヲ得

第四十九條 受託者ノ任務終了ノ場合ニ於テハ利害關

係人ハ新受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ

得

前項ノ規定ハ遺言ニ依リ受託者トシテ指定セラレタ

ル者カ信託ノ引受ヲ爲サヌ又ハ之ヲ爲スコト能ハサル

場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ信託行為ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ

適用セス

第八條第三項ノ規定ハ受託者ニ付之ヲ準用ス

第五十條 受託者ノ更迭アリタルトキハ信託財産ハ前

受託者ノ任務終了ノ時ニ於テ新受託者ニ讓渡サレタ

ルモノト看做ス

受託者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ任務終了シタ

ルトキハ信託財産ハ當然他ノ受託者ニ歸ス

第五十一條 第二十七條又ハ第二十九條ニ規定スル

權利ハ新受託者亦之ヲ行フコトヲ得

第五十二條 受託者ノ更迭アリタルトキハ新受託者ハ

前受託者カ信託行為ニ因リ受益者ニ對シテ負擔シ

タル債務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ第五十條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

信託事務ノ處理ニ付生シタル債權ハ信託財産ノ限

度ニ於テ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

第五十三條 信託財産ニ對スル強制執行又ハ競賣手

續ハ新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得

第五十四條 前受託者ハ第三十六條第一項ニ規定ス

ル費用若ハ損害ノ補償ヲ受クル權利又ハ第三十七

條ニ規定スル報酬ヲ受クル權利ニ基キ新受託者ニ對

シ信託財産ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコ

トヲ得

前受託者ハ前項ノ權利ヲ行フ爲メ信託財産ヲ留置ス

ルコトヲ得

第五十五條 受託者更迭ノ場合ニ於テハ信託事務ノ

計算ヲ爲シ受益者又ハ信託管理人ノ立會ヲ以テ事

務ノ引繼ヲ爲スコトヲ要ス

受益者又ハ信託管理人前項ノ計算ヲ承認シタルトキ

ハ前受託者ノ其ノ受益者ニ對スル引繼ニ關スル責任

ハ之ニ因リテ解除セラレタルモノト看做ス但シ不正ノ

行為アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 信託行為ヲ以テ定メタル事由發生シタル

トキ又ハ信託ノ目的ヲ達シ若ハ達スルコト能ハサルニ

至リタルトキハ信託ハ之ニ因リテ終了ス

第五十七條 委託者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場

合ニ於テハ委託者又ハ其ノ相續人ハ何時ニテモ信託

ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第六百五

十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 前條ノ場合ヲ除ク外受益者カ信託利

益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テ信託財産ヲ以テスル

ニ非サレハ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ其ノ

他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ハ受益者

又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ信託ノ解除ヲ命スルコ

トヲ得

第五十九條 第五十七條及前條ノ規定ニ拘ラス信託

ノ解除ニ關シ信託行為ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定

ニ從フ

第六十條 信託ノ解除ハ將來ニ向テノ其ノ效力ヲ生

ス

第六十一條 第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依

リ信託カ解除セラレタルトキハ信託財産ハ受益者ニ

歸屬ス

第六十二條 信託終了ノ場合ニ於テ信託行為ニ定メ

タル信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ其ノ信託財産

ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス

第六十三條 信託終了ノ場合ニ於テ信託財産カ其ノ

歸屬權利者ニ移轉スル迄ハ仍舊信託ハ存續スルモノト

看做ス此ノ場合ニ於テハ歸屬權利者ヲ受益者ト看

做ス

第六十四條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ信

託ノ終了ニ因リ信託財産カ受益者其ノ他ノ者ニ歸

屬シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 信託終了ノ場合ニ於テハ受託者ハ信託

事務ノ最終ノ計算ヲ爲シ受益者ノ承認ヲ得ルコトヲ

要ス此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ

準用ス

第六十六條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其ノ他公益

ヲ目的トスル信託ハ之ヲ公益信託トシ其ノ監督ニ付

テハ後六條ノ規定ヲ適用ス

第六十七條 公益信託ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第六十八條 公益信託ノ引受ニ付テハ受託者ハ主務

官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十九條 主務官廳ハ何時ニテモ公益信託事務ノ

處理ニ付検査ヲ爲シ且財産ノ供託其ノ他必要ナル

處分ヲ命スルコトヲ得

受託者ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ信託事務及財

産ノ狀況ヲ公告スルコトヲ要ス

第七十條 公益信託ニ付信託行為ノ當時豫見スルコ

トヲ得サリシ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ主務官廳ハ

信託ノ本旨ニ反セサル限り信託ノ條項ノ變更ヲ爲ス

コトヲ得

第七十一條 公益信託ノ受託者ハ已ムコトヲ得サル事

由アル場合ニ限り主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ

辭スルコトヲ得

第七十二條 公益信託ニ付テハ第八條第一項、第三

項、第二十二條第一項但書及第四十七條乃至第四

十九條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ主務官廳ニ屬ス

但シ第四十七條及第四十九條ニ規定スル權限ニ付

テハ職權ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第七十三條 公益信託終了ノ場合ニ於テ信託財産ノ

歸屬權利者ナキトキハ主務官廳ハ其ノ信託ノ本旨ニ

從ヒ類似ノ目的ノ爲ニ信託ヲ繼續セシムルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二 信託業法案(政府提出) 第一讀會

信託業法案

信託業法

第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二條 信託業ハ資本金百萬元以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ

信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 信託會社ハ左ニ掲クル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

一 金錢

二 有價證券

三 金錢債權

四 土地及其ノ定著物

五 地上權及土地ノ賃借權

第五條 信託會社ハ左ニ掲クル業務ニ限リ之ヲ併セ營ムコトヲ得

一 保護預リ

二 債務ノ保證

三 不動產買賣ノ媒介又ハ金錢若ハ不動產ノ貸借ノ媒介

四 公債社債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

五 左ノ事項ニ關スル代理事務

イ 財産ノ取得、管理處分又ハ貸借

ロ 財産ノ整理又ハ清算

ハ 債權ノ取立

ニ 債務ノ履行

主務大臣ハ債務ノ保證ニ付命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得

第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ムコトヲ得

第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ

金額ハ百萬圓ヲ超ユルコトヲ要セス

第八條 受益者ハ信託會社ノ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セル金錢信託ニ限リ元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得

第十條 信託法第二十二條ノ一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス

信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産ヲ取引所ノ相場アルモノナルトキハ信託行為ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル債務ヲ履行スル爲必要ナル場合ニ限リ信託行為ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得

第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入

二 公債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付

三 不動產又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付

四 公共團體又ハ產業組合ニ對スル貸付

五 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

六 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第十三條 信託會社ハ每半年業務報君書ヲ作り之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

貸借對照表ハ每半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ

第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 定款ヲ變更セムトスルトキ

二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ

三 代理店ヲ設置セムトスルトキ

第十六條 合併後存續スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ繼承ス

信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ適用ス

第十七條 主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監查役ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役監查役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ニ違反シタルトキ

二 第九條ノ規定又ハ同條ニ基キ命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ

三 第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ

四 第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ

五 本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

六 信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ

七 信託會社カ信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財産目録ヲ作ラサルトキ

八 信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依ル閲覧ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第二十二條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

第三 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出)

擔保附社債信託法中改正法律案

第六條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四 不動産登記法中改正法律案(政府提出)

不動産登記法中改正法律案

第四百四條ノ二 不動産ノ信託ノ登記ニ付テハ受託者ヲ登記權利者トシ委託者ヲ登記義務者トス

第四百四條ノ三 信託法中第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル不動産ノ信託ノ登記ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財產ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百四條ノ四 受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四百四條ノ五 信託ノ登記ノ申請ハ信託ニ因ル不動産ノ所有權ノ移轉ノ登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル不動産ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四條ノ六 受託者更迭ノ場合ニ於テ所有權移轉

ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其更迭ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スベキ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四百四條ノ七 受託者ノ任務カ死亡ノ破産ノ禁止產又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登記ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第四百四條ノ八 信託ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

一 委託者、受託者、受益者及ヒ信託管理人ノ氏名住所法人ニ在リテハ其名稱及ヒ事務所

二 信託ノ目的

三 信託財產ノ管理方法

四 信託終了ノ事由

五 其他信託ノ條項

前項ノ書面ニハ申請人署名捺印スルコトヲ要ス

第四百四條ノ九 前條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面ハ之ヲ信託原簿トス

信託原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第四百四條ノ十 裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滞ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第四百四條ノ十一 前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四條ノ十二 裁判所カ信託財產ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四條ノ十三 前三條ノ場合ヲ除ク外第四百四條ノ八第一項ニ掲ケル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ受託者ハ遲滞ナク其變更ヲ證スル書面ヲ添ヘテ信託原簿ノ記載ヲ申請スルコトヲ要ス但第四百四條ノ六又ハ第四百四條ノ七ノ場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ信託原簿ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四條ノ十四 第四百四條ノ十一ノ規定ニ依リテ信託原簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記簿ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百四條ノ十五 第四百四條ノ二乃至前條ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第四百四條ノ二 第四百三條及ヒ第四百三條ノ二ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用ニ因ル權利移轉ノ登記ニ第四百四條ノ二乃至第四百四條ノ十五ノ規定ハ不動産ニ關スル所有權以外ノ權利ノ信託ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四百四條ノ三 信託財產タル不動産ニ關スル權利ノ移轉ニ因リ其權利カ信託財產ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登記抹消ノ申請ハ移轉登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財產タル不動産ニ關スル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出)

非訟事件手續法中改正法律案

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

目録第二編中第三章ヲ第四章トシ以下順次繰下ケ第二章ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三章 信託ニ關スル事件

第三條ニ左ノ但書ヲ加フ
但其裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四十條中「此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス」ヲ削ル

第四十條ノ二 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十九條中「第四十條」ノ下ニ「第四十條ノ二」ヲ加フ

第二編中第三章ヲ第四章トシ以下順次繰下ケ第二章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第三章 信託ニ關スル事件

第七十一條ノ二 信託法第八條第一項第三項、第二十二條第一項但書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及ヒ第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所地方ノ區裁判所、同法第四十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所地方ノ區裁判所ノ管轄トシ受託者又ハ前受託者數人

法律關係ニ付テハ、解釋ガ極テ曖昧ニナツテ居ルノデアリ

選舉手記題二供シマナ

物價騰貴ニ由ル陸軍諸經費ノ補足、其他必要ナル費途ニ

100

對シマシテ、豫算外支出ヲ爲シタル金額ハ五百八十三萬餘圓アリマシテ、此ニ應テ通計シテ、一千五百一十一萬餘圓ヲ圓庫剩餘金ヨリ支出致シマシテ、次第アリマス、以上ノ外各特別會計ニ在リマシテ、亦必要ニムラ得ザル費ニ對シマシテ、豫算金又ハ豫算外ニ、其歳入若クハ剩餘金ヲ以テ、豫算超過及豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、以上ハ何レモ緊急避クベカラザル事項ト認メマシテ、之ガ支出ヲ爲シタル次第アリマス、御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレシコトヲ切望シマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 日程第八、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ハ特ニ二十八名トシ、議長ニ於テ指名ヲランコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシテ、日程第九、借地借家調停法案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長北井波治目君

第九 借地借家調停法案(政府提出) 第一讀會ノ讀(委員長報告)

報告書

一借地借家調停法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年二月十八日

借地借家調停法案委員長 北井波治目

衆議院議長奥繁三郎殿 (小字及ハハ委員會修正)

借地借家調停法中左ノ通修正ス

第七條 當事者及利害關係人ハ自身ノ出頭スルコトヲ要ス但シ已ムラ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

裁判所ハ當事者及利害關係人自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

(北井波治目君登壇)

○北井波治目君 借地借家調停法案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、此案制定ノ趣旨ハ、近來借地借家人間ノ爭議が多ク、之ヲ嚴重ナル所ノ普通裁判所ニ解決スルヨリモ、寧ろ平易ナル所ノ和議手續ヲ以テ、特別ノ機關ヲ設ケテ之ヲ調停的、所謂簡便解決スル方ガ最モ便宜デアラフ、必要ト認メテ此案ガ提出ニシタルデアリマス、而シテ此案ノ内容ヲ簡單ニ申シマスルト云フト、借家及借地、之ニ關スル所ノ爭議ガ區裁判所ノ方ニ調停ヲ申立テ、裁判所ノ判斷ガ之ヲ調停シ、若クハ必要ナル場合ニ於テハ、調停委員ト云フモノヲ選任シ、サウシテ此間ニ於テ調停ス、其調停ノ手續中ハ、普通ニ訴訟手續ハ中止シテ、斯ウ云フ風ニナルノデゴザリマシテ、區域ヲ限ル此法ハ施行シテヤラフ、併シ何ニ致シマシテモ調停アリマスカラ強制力ハ無イ、必ズ當事者ノ意思ノ合致所謂調停合成立シタ時分ニ、之ガ目的ヲ達スルノデゴザリマス、此案ハ可ナリ重要ナ案ト思ヒマシテ、委員會ハ前後六回ノ委員會ヲ開キマシテ、質疑應答ヲ致シマシテ、結局委員會ニ於テシテハ第七條ヲ修正致シマシテ、其他ハ原案ノ如ク決シマシテアリマス、此修正ニ對シマシテハ、政府ハ強テ反對ハセヌケレドモ、同意ハ致サヌデアリマス、故ニ此修正ノ點ニ付テハ一應理由ヲ説明シテ置キマス、第七條ノ原案ハ斯ウナリ居ルノデス、當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得、此條文ハ詰リ此調停ニ於テハ、當事者本人ヲ成ベケ出廷セシメル、代理人ヲ避ケル、サウシマセヌコトヲ云フ、或ル代理人デアルト云フ、本人ガ出タ程議院合テ議決シテ話ヲ纏メルコトガムツカシ、代理人ガ出ルトドモ議論ガ多クナテ來テ纏リ難ナルカラ本人ヲ呼出シテ膝突合セテ、話ヲサセテ纏メルト云フ目的デアルト云フ、政府ノ理由デアリマス、然ルニ我委員會ニ於テ之ヲ修正致シマシタニハ、斯ウ云フ風ニ修正致シマシタ、當事者及利害關係人ハ自身ハ代理人出頭スルコトヲ要ス但シ辯護士ニ非ザル者ヲ代理人トシテ出頭スル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケベシニ二項ハ原案ノ儘ト致シマシタ、三項ノ一項ヲ加ヘマシタ、裁判所ハ當事者及利害關係人自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得、斯ウ云フ風ニ三項ヲ加ヘタノデアリマス、此理由ハ一通リ申シマスガ、本人ノ出頭ト云フコトモ一應御尤デハアルケレドモ、我國ノ狀態ニ於テハ、家主若クハ地主ト云フ者ハ比較的資産モアツテ、其借主ノ方ト膝突合セテ話ヲスルト云フヤウナコトニハ、餘程ムツカシモノト思ヒマス、普通ナラバソレデ宜シノデアリマスガ、既ニ訴訟ハシテ居ル、或ハ將ニ訴訟ヲセントス、此間ニ爭フ生ジテ居ル時ニハ、多少感情ノ行違モ生ジテ來ルデアリマス、然ルニ之ヲ本人ヲ呼出シテ膝突合セテ談合セシメルト云フコトハ、隨分難キヲ費メルモノデハナイカ、是デハ却テ調停ノ目ノヲ達スルコトガ出來ナイ、代理人ヲ成ベケ避ケルト云フ此本案ノ趣旨ガ、却テ調停ノ機會ヲ失フコトニナリハセヌカ、ソレカラ又當事者本人ガ裁判所ニ出ルト云フ事柄ハ、我國ノ國狀ニ於テハドウモ好マヌデアリマス、呼出サレテ何時間モ待テ居デ、サウシテ借主ノ方ト膝突合セルト云フ程ノ好意ト云フモノハ、爭テ居ル間ハ乏シノデアリマス、是ハ司法當局ノ見ル所ガ實情ニ合ハヌヤウウニ思ヒマス、又加之若シ裁判所デ本人ガ出マシテ言ヒ損フトカ、若シ不利益ナ事ヲ言フト後ノ訴訟ニ影響スル、若クハ現時係爭シテ

居ル訴訟ニ影響スル不利益ヲ爲ス、是ハ往々アルコトデアリマス、何カ言ヒ損フト後ノ差支ヲ爲スカラ、先ヅ辯護士ノ方ニ行テ相談シテ見ヤウ、或ハ辯護士ニ出テ貰フト云フコトガ、總テ爭議ニ於テ當然ノ事デアラウト思ヒマス、權利防護ト致シマシタ、然ルニ本人ヲ呼出シテ事實有リト儘ハ、普通ノ裁判所ニ行クト云フコトハドウデアラウカ、斯ウ云フ目的ヲ以テ本人ヲ必ズ呼出スト云フコトハドウデアラウカ、出タ所ガ眞情ヲ吐クコトハムツカシカラウ、斯ウ云フ風ナ理由ノ爲ニ委員會ニ於テハ必ズ本人デナクテモ宜イ、代理人ヲ許シマシテモ宜イ、斯ウ云フヤウナ理由ノ爲ニ此案ヲ修正致シマシタ、而シテ辯護士以外ノ者ハ、ハドゥモ權利義務ニ關スル所ノ紛議ニ於キマシテハ、素人ハ分リ難ナルコトガアル、出テモ能ク分ラヌカラ話ヲ纏ラヌト云フ理由モアリマスシ、然ラバ辯護士以外デ其他ノ者デ、若シサウ云フコトニ手慣レタ者ト致シマスルト云フト、是ハ三百のモノデアラフ、此調停ノ爲ニ不利益デゴザリマス、故ニ辯護士ニアラザル者ヲ代理人トスル場合ニ於テハ、是ハ裁判所ノ許可ヲ得ル、辯護士ニハ許可ヲ要セヌ司法當局ハ矢張辯護士ニモ許可ヲ要スルト云フ意見デアリマシタ、御承知ノ如ク、辯護士ハ裁判上若クハ裁決見デアリマシタ、權利義務ニ關スル所ノ爭議ニ本業トシテ干與シテ居ル者デアリマスカラ、本業トシテ干與シテ居ル辯護士ガ代人トシテ出頭スルノニ、一々區裁判所ノ判斷ノ許可ヲ得ルト云フコトハ、全ク辯護士ニ對シテハ不必要ナ規定ト思ヒマス、此點ハ辯護士ニ對シテハ、必要ナ規定ト思ヒマシタ、此點ガ本人ノ出頭ヲ必要トスル場合ニハ、特ニ參考トシテ本人ヲ喚出ス方ガ便宜デアル、調停上效果ヲ奏スルト認メタ時分ニハ、裁判所ニ何時デモ當事者又ハ利害關係人ヲ喚出ス職權ヲ與ヘテ居ル、サウ致シマスレバ、此法案ノ妙味ヲ發揮スルコトガ出來ルト云フ趣意ノ下ニ、第七條ノ修正ヲ致シマシタヤウナ次第デゴザリマシタ、七條ハ只今申ス如ク修正ヲ致シマシタ、委員會ニ於テハ、三十一箇條原案ノ如クニ可決致シマシタ、委員會ニ於テハ、三十一箇條原案ノ如クニ一致ヲ以テ可決致シマシタ、其他ハ三十一箇條原案ノ如クニ一致ヲ以テ可決致シマシタ、最後ニ決議後横山君ヨリ一ツノ希望條件ガアリマシタカラ、之ヲ御紹介致シテ終ラウト思ヒマス、斯ウ云フデアリマス、司法當局ハ本法借地法並ニ借家法ノ效果ヲ全ウセシムル爲メ、司法官ハ之ガ運用ニ細心ノ注意ヲスルノミナラズ、緊要ノ事案ニ關シテハ、成ベケ和解ノ方法ヲ以テ落著セシムル様、相當ノ手段ヲ採ルコトヲ希望ス、斯ウ云フ意味ノ希望條件ガアリマシタ、是モ尤ナコト、思ヒマシテ、此希望條件ニ對シテハ、政府委員モ何等異議ハナイノデゴザリマス、斯様ナ次第デゴザリマスカラ、何卒此案ハ只今ノ如クニ御賛成アラントヲ望ミマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮致シマス

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り、即チ委員會ニ於テ修正可決ノ通り、可決確定セラレント望ミマス
〔賛成ニ呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

借地借家調停法案 第二讀會(確定議)

〔賛成ニ賛成ノ聲起ル〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告通り、即チ委員會ノ修正通り、可決確定サレマシタ
○岩崎勳君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府提出農會法案第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラント望ミマス
〔賛成ニ賛成ノ聲起ル〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ日程變更ノ動議ハ御異議ナシト認メマシタ、仍テ日程ハ直ニ變更サレマシタ、農會法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長報告ヲ求メマス

農會法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一農會法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年二月二十一日 農會法案委員長 植場 平

衆議院議長奥繁三郎殿
〔植場平君登壇〕

○植場平君 農會法案ニ關シマスル委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、本法ハ十數年來ノ希望デゴザイマシテ、漸ク此案ヲ見ルコトヲ得マシタノハ私共ノ最も喜ブベキコトデゴザイマス、故ニ委員會ニ於キマシテモ、四日ヲ要シマシテ極テ慎重ニ審議ヲ遂ゲマシテ、二箇ノ希望事項ヲ決議致シマシテ原案ハ全部可決致シタノデアリマス、其希望事項ヲ申上ゲマス、政府ハ農事改良發達ノ任ニ當ル農會ニ對シ毎年國庫ヨリ金一百萬圓ノ補助金ヲ交付シ事業ノ進行ヲ助長セラレムコトヲ望ム、是ハ政友會ノ成田榮信君ノ提案デアリマス、今一ツハ憲政會ノ齋藤宇一郎君ノ提案、本法ノ第十一條ニテ原野ハ直接農業ニ關係アル者ニ限ルモ

ノナルコトヲ施行細則ニ明記セラレムコトヲ望ム、此兩案トモ是亦一人ノ異議者ナク、滿場一致ヲ以テマシテ、決定ヲ致シタノデアリマス、委員會ノ質問應答ニ對シマシテハ、一々報告ヲ申上ゲルコトヲ避ケマス、速記録ニ依テ御覽ヲ願フコトニシタイト思フ、右御報告申上ゲマス(拍手)
○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮ハ致シマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り、可決確定アラント望ミマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

農會法案 第二讀會 (確定議)

〔賛成ニ賛成ノ聲起ル〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
○岩崎勳君 再ビ議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ議員春日俊文君懲罰事犯ノ件ヲ議題ト爲シ、懲罰委員長報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラント望ミマス
〔賛成ニ賛成ノ聲起ル〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ日程變更ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、日程ハ變更サレマシタ懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議デアリマスカラ、傍聽人ノ退場ヲ命ジマス

春日俊文君懲罰事犯ノ件

〔午後五時九分秘密會ニ入ル〕
〔午後五時十八分秘密會ヲ終ル〕

○議長(奥繁三郎君) 秘密會ノ結果ヲ報告致シマス、秘密會ニ於キマシテハ、春日俊文君懲罰事犯ノ件ヲ議決致シマシタ、只今其議決ニ基キマシテ宣告致シマス、議員春日俊文君ニ對シテ、議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ三日間ノ出席ヲ停止ス
○岩崎勳君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、故ニ動議ノ如ク決シマス、一寸諮問事諮ガアリマス、第五部選出懲罰委員長鈴木富士彌君、第六部選出決算委員長古屋慶隆君常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマシテ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補選選舉ヲ行ウテ届出アラシコトヲ望ミマス、ソレデハ本日ハ是ニテ散會、明後日ハ定時刻ヨリ本會議ヲ開キマス、何レ公報デ日程ヲ報告致シマス
午後五時二十二分散會

衆議院議事速記第十四號中正誤

頁	段	行	誤	正
二七六	下	二三	第十二	第十六